

1. 科目名 (単位数)	教育学総論 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5101
2. 授業担当教員	鈴木 路子、池田 芳和、坂井 二郎			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>学校教育の現場で出現する児童生徒等並びに職員の不定愁訴・自傷・いじめ・虐待・不登校・薬物乱用など各種不適応行動など心身のアンバランスから出現する教育臨床場面の現状分析によってその背景を探り、臨床教育学的な個別対応や教育行政施策の方向性を見出し、教育、環境学、養護・発達支援、教育情報及び、英語・異文化教育の各学問領域からのアプローチを試みる。そして、総合的な教育臨床力を身につけると共に、教育学への新たな視点の導入を図る。</p> <p>&lt;オムニバス方式 / 全 15 回&gt;</p> <p>・(鈴木路子 / 15 回) -----</p> <p>人間生態系としてのとらえ方を学び、教育学に導入する。この視点から、教員の資質力量として学校教育の現代的課題を探り、課題解決のための道を探る。</p> <p>・(池田芳和 / 15 回) -----</p> <p>21 世紀初頭の日本の学校教育制度と学校経営実践の方向性を踏まえて、教育臨床場面について理論的・実践的に検討する。</p> <p>・(坂井二郎 / 15 回) -----</p> <p>グローバル化の進行する日本の教育現場における異文化理解の意義と課題を多角的に検討し、問題解決に向けた考察を試みる。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 現状分析については、公官庁政府刊行物、各種統計資料、教育現場で出現している体験事例等、既存資料の分析、討論、考察によって、各自の方法論を認識確立する。</li> <li>2 異なる分野から出された意見、体験、各種文献を集約し、複眼的な視点を身につける。</li> <li>3 移民の子女を対象にした異文化理解と受け入れ国としての内的価値観に直近する学びの体験と共に、教員として共通に認識しておく基盤整備を図る。レポートで、学会発表で、著書・論文、その他。</li> <li>4 学校教育フィールド研究として、課題を見出し、課題解決学習が可能となる教育力・研究力を身につける。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>各々の担当教員のレポートを提出すること。(1200 字程度)</p> <p>(鈴木路子) 人間生態系としてのとらえ方を教育学に導入し、自らの教育観、児童観をまとめること。</p> <p>(池田芳和) 21 世紀初頭の日本の学校教育制度と学校経営実践についてまとめること。(同上)</p> <p>(坂井二郎) グローバル時代の教育現場における異文化理解に付随する課題について複眼的にまとめること</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p><b>【教科書】</b> 鈴木路子「人間環境・教育福祉論」光生館、2007 鈴木路子「教育健康学」ぎょうせい、2010 鈴木路子「教育生理・生態学序説」家政教育社、2011 鈴木路子・関口恵美ほか 3 名「教育の基礎としての公衆衛生看護ノート」教育家庭新聞社、2014</p> <p><b>【参考書】</b> ①日本発達障害福祉連盟「発達障害白書 2013」 日本文化科学社 ②文部科学省 特別支援学校学習指導要領 総則等編 教育出版 ③文部科学省 特別支援学校学習指導要領 自立活動編 海文堂 ④池田理知子編著「よくわかる異文化コミュニケーション」ミネルヴァ書房 ⑤大阪多様性教育ネットワーク「多様性教育入門」解放出版社 ⑥塩澤正・吉川寛・石川有香編「英語教育と文化」大修館書店</p>			
11. 成績評価の方法	<p>レポート 50%</p> <p>出席 30%</p> <p>授業時の討論等への取り組み 20%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>これからの子どもたちの未来を育むための臨床、すなわち日々の生活に密着した諸問題を、まず、統計的に、また事例体験的に問題を持ち寄り、従来の専門科学から、どのように接近したらよいか、その接近方法にどのような問題点が存在するのかを考えてみよう。医学の臨床の場面で見られるような各専門科別で人間の身体症状(疾病)を治療する場合、各種臨床検査を行い、予想される疾病が診断され、治療、投薬が行われるが、その際大きな問題は、身体各臓器別、臨床各科別に対応し、心と体、生活行動、健康や人生に向けての価値観も含めた人間そのものを見ていないことに問題が存在する。総合診療科が設置されたように、学校教育における各教科別教育、分化された専門科学で尽くされない臨床教育学をどう考え、どう構築していくかについて、大いに議論を戦わしていきたいと思います。自らの人生設計・教育研究の方向性を見極めるよききっかけになれば幸いです。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
講義日程	授業内容			
第 1 回 鈴木 路子	<p>「教育学」とは? 今なぜ臨床教育学か? 各分野から、教育臨床の現場の実態を把握してみよう。</p> <p><b>【学習の目標】</b> 生命体としての人間の存在を、環境との相互作用として認識する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 臨床教育学のとらえ方を学校教育の現場の実態把握から開始し、課題解決のための方法論を考える。</p> <p><b>【キーワード】</b> 臨床教育、教育臨床、課題発見能力、課題解決能力、人間の生活生存、発育・生命、環境</p> <p><b>【学習の課題】</b> 臨床教育の人間生物学的アプローチ</p> <p><b>【参考文献】</b> 上記教科書ほか</p>			

<p>第 2・3 回 鈴木 路子</p>	<p>「教育学」への教育生理学的アプローチ                  一個としての生命体を内部環境の恒常性について、発達刺激としての環境への対応を生物学的適応・生理学的適応・行動的適応・文化的適応からとらえるー  <b>【学習の内容】</b> 人間の内部環境の恒常性の維持をクロードベルナルやキャノンの関連文献を紹介、ここからの学びを自らの研究や生活に応用する  <b>【キーワード】</b> 教育生理学、内部環境、恒常性、生物学的適応、生理学的適応、文化的適応、行動的適応  <b>【学習の課題】</b> 日々の生活様式、生活習慣から来る疾病り患傾向や体質傾向、人格形成に至るまで、環境刺激一反応系としての視点の導入を図り、保健教育への応用展開を図る  <b>【参考文献】</b> 上記教科書ほか</p>
<p>第 4・5 回 鈴木 路子</p>	<p>「教育学」への教育生態学的アプローチ                  ーインドネシア、ブラジル、日本国内の気象条件の異なる地域における人の生活・生存を把握するー  <b>【学習の目標】</b> 気候風土の異なる地域に生活生育する小児集団の実態調査から、教育とは何かを考える。  <b>【学習の内容】</b> 鈴木路子の小児人類生態学的実態調査の方法論とその過程から得られたものを紹介学習し、討論を深める  <b>【キーワード】</b> 気候・風土、伝統・文化、人種、移民、  <b>【学習の課題】</b> 日系移民の歴史、文化と教育課程についての展開を図る  <b>【参考文献】</b> 上記教科書ほか</p>
<p>第 6 回 池田 芳和</p>	<p>21 世紀初頭の日本の学校教育制度と学校経営実践 1（教育改革と学校経営の課題）  <b>【学習の目標】</b> 21 世紀初頭の日本の学校教育制度がどのような背景のもとにかたちづくられたのかを、戦後教育を振り返る中でつかむことができる。  <b>【学習の内容】</b> 21 世紀は知識基盤社会といわれている。その時代にふさわしい学校教育はどうあるべきか、本時は以下の視点から探究する。戦後教育の歴史、生活単元学習と系統学習、学力観と評価観、中央教育審議会と学習指導要領の改訂を調べる。  <b>【キーワード】</b> 二つの教育基本法、改正の要点、学力観、評価観、生きる力、知識基盤社会  <b>【学習の課題】</b> 総則の資料を読んで、学習指導要領の概要を知る。  <b>【参考文献】</b> 配布資料</p>
<p>第 7・8 回 池田 芳和</p>	<p>21 世紀初頭の日本の学校教育制度と学校経営実践 2（教育課程と学校経営）  <b>【学習の目標】</b> 教育課程の変遷と学校の経営課題について、資料を基に探究し、学校経営の意義について深めることができる。  <b>【学習の内容】</b> 21 世紀は知識基盤社会といわれている。その時代にふさわしい学校教育はどうあるべきか、本時は以下の視点から探究する。                  教育改革と学校経営の課題、教育課程と学校経営、  <b>【キーワード】</b> 教育改革、組織マネジメント、  <b>【学習の課題】</b> 学校のミドルリーダー養成を目指して、これからの学校教育の課題について学び、実践に応用できるようにする。  <b>【参考文献】</b> 教育改革国民会議報告書、中央教育審議会答申、学習指導要領等をベースに教育論文</p>
<p>第 9 回 池田 芳和</p>	<p>21 世紀初頭の日本の学校教育制度と学校経営実践 3（今求められる能力と教育実践）  <b>【学習の内容】</b> 21 世紀は知識基盤社会といわれている。その時代にふさわしい学校教育はどうあるべきか本時は以下の視点から探究する。                  今求められる能力と教育実践、形式陶冶と学校経営、  <b>【キーワード】</b> 生きる力、コンピテンシー、新しい学力観、PISA 調査  <b>【学習の課題】</b> PISA 調査の結果報告書を読む  <b>【参考文献】</b> PISA 調査報告書</p>
<p>第 10 回 池田 芳和</p>	<p>21 世紀初頭の日本の学校教育制度と学校経営実践 4（形式陶冶と学校経営）  <b>【学習の内容】</b> 21 世紀は知識基盤社会といわれている。その時代にふさわしい学校教育はどうあるべきか本時は以下の視点から探究する。危機管理と学校経営、院生の実践を例に内容を深める。  <b>【キーワード】</b> 学校におけるクライシスマネジメント(Crisis management)とリスクマネジメント(Risk management)、生徒指導の課題（いじめ、不登校、暴力、体罰等）  <b>【学習の課題】</b> 学校の問題解決能力と学校力の関係について義務教育答申等から読み取る。  <b>【参考文献】</b> 生徒指導提要</p>
<p>第 11 回 坂井 二郎</p>	<p>グローバル時代の日本の教育現場における異文化理解の意義 1：複眼的枠組みからの考察  <b>【学習の目標】</b> グローバル化の意味を複眼的に検証し、日本の教育現場への影響を考察する。  <b>【学習の内容】</b> グローバル化は経済レベルだけではなく、文化レベル、教育レベルなど様々な形で進行している。この多様なレベルで進行しているグローバル化の実態を功罪を含め、多角的かつ複眼的に考察する。その後、日本の教育現場にグローバル化がもたらす影響を検証する。  <b>【キーワード】</b> グローバリゼーション、グローバルヴィレッジ、マーシャルマクルーハン、国際化、文化帝国主義、多言語主義、文化相対主義  <b>【学習の課題】</b> 上記のキーワードについて事前に調べておくこと。  <b>【参考文献】</b> 参考書：よくわかる異文化コミュニケーション(池田理知子編著)  <b>【学習する上での留意点】</b>                  まずは既存の概念にとらわれず、自分で主体的かつ批判的に考える習慣を養うこと。</p>
<p>第 12・13 回 坂井 二郎</p>	<p>グローバル時代の日本の教育現場における異文化理解の意義 2：多様性教育の立場からの考察  <b>【学習の目標】</b> 多様性教育の意味を考察し、日本の教育現場への影響を考察する。  <b>【学習の内容】</b> グローバル化が進行するとともに、多様性を認知し受容する教育が重要になってくる。この回では、多様性教育の内容を概観し、日本の教育現場における今後の応用可能性について考察する。</p>

	<p>【キーワード】多様性教育、文化・言語多様性、人権教育、ステレオタイプ・偏見・差別の構造</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べておくこと。</p> <p>【参考文献】 参考書：多様性教育入門</p> <p>【学習する上での留意点】既存の概念にとらわれず、自分で主体的かつ批判的に考えることを継続すること。</p>
第 1 4 回 坂井 二郎	<p>グローバル時代の日本の教育現場における異文化理解の意義 3：英語教育の立場からの考察</p> <p>【学習の目標】グローバル時代の英語教育の意味を複眼的に考察し、日本の教育現場への影響を検証する。</p> <p>【学習の内容】グローバル化が進行するとともに、国際語としての英語の影響力は一層強まっている。この時代背景の中で、英語教育の今後の方向性を多角的かつ複眼的に考察し、日本の教育現場への影響を検証する。</p> <p>【キーワード】国際語としての英語、英語帝国主義、異文化理解と英語教育、異文化コミュニケーション能力、多言語主義</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べておくこと。</p> <p>【参考文献】 参考書：英語教育と文化</p> <p>【学習する上での留意点】既存の概念にとらわれず、自分で主体的かつ批判的に考えることを継続すること。</p>
第 1 5 回 坂井 二郎	<p>グローバル時代の日本の教育現場における異文化理解の意義 4：コミュニケーション教育の立場からの考察</p> <p>【学習の目標】コミュニケーション教育の意味を考察し、日本の教育現場への影響を考察する。</p> <p>【学習の内容】グローバル化が進行し異文化交流が様々なレベルで増える中、個々のコミュニケーション能力の重要性が問われている。この回では、グローバル時代のコミュニケーション教育の内容を概観し、日本の教育現場における今後の展開について考察する。</p> <p>【キーワード】コミュニケーション教育、実践的コミュニケーション能力、象徴的相互作用、意味の形成過程、人間形成過程とコミュニケーション、聞く事・話すこと・関わること</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べておくこと。</p> <p>【参考文献】 資料配布</p> <p>【学習する上での留意点】 既存の概念にとらわれず、自分で主体的かつ批判的に考えることを最後まで継続すること。</p>

1. 科目名 (単位数)	教育学総論 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	EDMP5101
2. 授業担当教員	石崎 達也・内藤 伊都子・下出 美智子			
4. 授業形態	講義・演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>本講義では、多角的な視点から「教育とは何か」という本質的な問いに取り組むとともに、教育現場が抱える複雑で多様な課題の解決に向け、専門的知見や研究方法の基礎を身につけることが目的である。様々な学問分野の専門性を有した研究者らが共同で講義を行うことにより、今日の教育的課題を多角的かつ柔軟に捉え直し、理論と実践を統合して、これらの諸課題を解決することのできる領域横断的な課題解決力を養い、幅広い視野をもつ研究者、高度な専門的知識・技術をもつ職業人の養成を目指す。</p> <p>[オムニバス方式/全 15 回]</p> <p>(石崎 達也 5 回) -----</p> <p>〈今日〉の教育的事象を捉え直し、教育の〈未来〉について考えるためには、〈過去〉の教育的実践を歴史的な文脈や状況から丁寧に読み直すことが求められる。本講義では臨床教育学の理論と実践を紹介した上で、人間理解を深めるための方法としての人物研究について解説する。その学びの過程をとおして、各院生が各自の研究テーマに関連した人物の教育的実践に関する研究報告を行い、教育の〈過去〉－〈現在〉－〈未来〉について思考する場を提供する。</p> <p>(内藤 伊都子 5 回) -----</p> <p>グローバル時代の日本の教育場面では、どのような対人関係が形成されその関係間ではどのようなコミュニケーション事象が展開されているのか、またそこにはどのような課題が存在し取り組まれているのか。本講義では、状況的にも対人的にも多様化する日本の教育環境において、文化的影響やコミュニケーションの実践などについて解説していく。また、研究や社会調査を進めていく上で対人的に必要となってくる倫理的な問題についても扱っていく。</p> <p>(下出 美智子 5 回) -----</p> <p>最近、芸術と福祉（人間の幸福という意味）を結び付け、社会福祉や地域福祉の場における芸術の実践が活発に展開され注目を浴びている。本講義では、障害児童・生徒や幼児等の音楽表現を福祉という観点から見ていくことを通して、教育、特に芸術教育の新たな方法を理論的・実践的に検討する。</p>			
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「教育」を研究するための理論的・実践的方法論を学び、自らの研究に役立てることができる。</li> <li>・「教育学」という学問が辿ってきた歴史、思想を巡る諸説に関心を持ち、自らの研究に発展的につなげていくことができる。</li> <li>・教員と学習者の関係を中心に、教育場面で表出されるコミュニケーション行動の意味を多面的に解釈し、対人関係や文化的影響について考察する。</li> <li>・障害児童・生徒や幼児等が芸術（特に音楽）にいかに関わっていくのか、理論的・実践的に考察することができる。</li> <li>・人が音や音楽を通して表現することの意味を探求することができる。</li> </ul>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>各々の担当教員のレポートを提出すること。</p> <p>(石崎 達也) テーマごとにレポート課題を課す。詳細は講義の中で指示する。</p> <p>(内藤 伊都子) 指定した文献を講読し、講義内容を踏まえてレポートを作成する。詳細は講義の中で指示する。</p> <p>(下出 美智子) 講義テーマに応じた文献を事前に購読し、基本事項について理解しておく。事後に講義内容に応じたレポートを作成する。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】なし</p> <p>【参考書】和田修二編『臨床教育学』アカデミア出版 下出美智子『知的障害のある青年達の音楽行為』風間書房</p>			
11. 成績評価の方法	レポート 50%、日常の授業態度及び出席状況を 50%として、総合的に評価する。			
12. 受講生への メッセージ	これからの教員や研究者には、既存の専門分野に閉じ込められるような専門性ではなく、関連する専門分野や全く異なる専門分野を含む多様なものに関心を有し、既存の枠にとらわれない見方をしながら自らの教育・研究活動を行っていく力が求められている。将来、教員や研究者を目指す受講生には、このような幅広い広い知識を基盤とした高い専門性と創造性が求められていることを自覚し、講義や研究活動をとおして自らの資質・能力の向上に努めてほしい。			
13. オフィスアワー	下出：伊勢崎キャンパス所属の教員のため、事前にメールで連絡を取って下さい。 石崎・内藤：講義内で通知する。			
14	学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	オリエンテーション			
	<p>【学習の目標】教育学の特質・学際性を理解した上で、教育学を学ぶ目的を明確にする。</p> <p>【学習の内容】教育学という学問の特徴、教育研究のあり方について学ぶ。</p> <p>【キーワード】教育学、教育心理学、教育社会学</p> <p>【学習の課題】講義内容をまとめた上で、各自の教育学を学ぶ目的について自分の言葉で語ることができる。</p> <p>【参考文献】資料配付、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】事前にシラバスを熟読してくること。</p>			

2 . テーマ	臨床教育学の理論と実践
	<p>【学習の目標】 教育学の一分野である臨床教育学の概要を理解した上で、その課題と可能性を説明することができる。</p> <p>【学習の内容】 臨床教育学に関する研究成果をもとに、臨床教育学の課題と可能性に関する議論を行う。</p> <p>【キーワード】 臨床教育学、現象学、解釈学</p> <p>【学習の課題】 議論した内容をまとめ、各自の問題意識に即したレポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 和田修二編『臨床教育学』アカデミア出版</p> <p>【学習する上での留意点】 事前に指定箇所を熟読し、疑問点や質問などをまとめてくること。</p>
3 . テーマ	歴史に学ぶ臨床教育学①
	<p>【学習の目標】 学問と道徳の関係、学問を志す人間のあり方について探究する。</p> <p>【学習の内容】 受講生による口頭発表を行い、その発表をもとに議論を深める。</p> <p>【キーワード】 学問の意味、学問と道徳、生活指導、道徳教育、実学とは何か</p> <p>【学習の課題】 議論した内容をまとめ、各自の問題意識に即したレポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 福沢諭吉『学問のすすめ』（1978年 岩波書店）、齋藤孝『日本を教育した人々』（2007年 筑摩書房）</p> <p>【学習する上での留意点】 事前に指定箇所を熟読し、疑問点や質問などをまとめてくること。</p>
4 . テーマ	歴史に学ぶ臨床教育学②
	<p>【学習の目標】 人間の心の葛藤を描く小説を読むことをとおして、人間理解の方法を探究する。</p> <p>【学習の内容】 受講生による口頭発表を行い、その発表をもとに議論を深める。</p> <p>【キーワード】 心の葛藤、国語教育の実践、文学作品と教育、人間理解</p> <p>【学習の課題】 議論した内容をまとめ、各自の問題意識に即したレポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 夏目漱石『こころ』（1989年 岩波書店）、齋藤孝『日本を教育した人々』（2007年 筑摩書房）</p> <p>【学習する上での留意点】 事前に指定箇所を熟読し、疑問点や質問などをまとめてくること。</p>
5 . テーマ	人物研究の意義と方法
	<p>【学習の目標】 各自の研究テーマに関連する人物を深く探究したレポートを作成し、発表することができる。</p> <p>【学習の内容】 院生による口頭発表を行い、各発表に関して意見交換を行う。</p> <p>【キーワード】 資料・研究文献の検索・収集法、論文作成につながるレポートの書き方</p> <p>【学習の課題】 これまで各自が研究してきたテーマに関連する人物を選び、レポートを作成し報告すること。</p> <p>【参考文献】 資料配付、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 先行研究や文献等、十分な資料収集を行った上でレポートを作成すること。引用参考文献も付記すること。</p>
6 . テーマ	教育場面における対人関係
	<p>【学習の目標】 教育場面における人間関係の調整や社会的相互作用について探求する。</p> <p>【学習の内容】 日本の教育環境を概観し、教育場面での対人関係の形成や維持について考察していく。</p> <p>【キーワード】 対人関係の形成・発展・維持、対人不安、教員と学習者の関係、個人と集団、親密性 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べておくこと。</p> <p>【参考文献】 石井敏・久米昭元 編『異文化コミュニケーション事典』春風社、2013。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身のもつ対人関係を分析し、関連付けて考えてみること。</p>
7 . テーマ	教育とコミュニケーション
	<p>【学習の目標】 教育場面におけるコミュニケーションの意義を探求する。</p> <p>【学習の内容】 コミュニケーションとはなにかについて概観し、教育とコミュニケーションの関連性について考察していく。</p> <p>【キーワード】 対人・集団・組織コミュニケーション、言語メッセージ、非言語、符号化、チャンネル など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べておくこと。</p> <p>【参考文献】 杉尾宏 編著『教育コミュニケーション論』北大路書房、2011。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々のコミュニケーション行動を意識的に観察し、関連付けて考えてみること。</p>
8 . テーマ	多文化共生と教育
	<p>【学習の目標】 多様性に富む学習者の状況や教育環境について検討し、文化的差異や異文化への理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 多文化共生社会における日本の教育環境について概観し、問題やその対応などについて考察していく。</p> <p>【キーワード】 多文化共生、外国語活動、現行学習指導要領、外国人児童教育、留学生 30 万人計画、ニューカマー など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べておくこと。</p> <p>【参考文献】 現行学習指導要領、資料配付、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身が所属する文化、集団、組織などに関連付けて考えてみること。</p>
9 . テーマ	教育とコミュニケーション能力
	<p>【学習の目標】 コミュニケーションとして表出された行動の意味について多面的に解釈できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 学校教育で養成を目指す能力と社会で必要とされる能力の意味について考察していく。</p> <p>【キーワード】 学士力、社会人基礎力、コミュニケーション能力、スキル など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べておくこと。</p> <p>【参考文献】 資料配付、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身のコミュニケーション行動を分析し、行動の意味を批判的に考えてみること。</p>

10. テーマ	倫理教育
<p>【学習の目標】 研究や社会調査を進めるうえで必要となる研究倫理について理解することができる。</p> <p>【学習の内容】 研究倫理における対人的な手続きや資料・データの取り扱い、倫理教育の重要性について考察していく。</p> <p>【キーワード】 研究倫理、研究対象者、個人情報保護、インフォームド・コンセント など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べておくこと。</p> <p>【参考文献】 資料配付、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマと関連付け、必要となる倫理的対応を考えてみること。</p>	
11. テーマ	芸術教育と福祉①—知的障害のある青年達の音楽行為
<p>【学習の目標】 『知的障害のある青年達の音楽行為』を購読し、障害者の表現について理解を深めることができる。</p> <p>【学習の内容】 上記の書籍（指定箇所）の購読と内容に関するディスカッション。</p> <p>【キーワード】 知的障害、音楽行為</p> <p>【学習の課題】 議論した内容をまとめる。</p> <p>【参考文献】 下出美智子『知的障害のある青年達の音楽行為』</p> <p>【学習する上での留意点】 事前に指定箇所を熟読し、疑問点や質問等をまとめておくこと。</p>	
12. テーマ	芸術教育と福祉②—知的障害のある青年達の音楽行為
<p>【学習の目標】 前回（テーマ 11）に関連した映像を視聴し、「表現」の視点から分析・考察することができる。</p> <p>【学習の内容】 映像（DVD）の分析と分析結果に関するディスカッション。</p> <p>【キーワード】 知的障害、音楽行為、映像分析</p> <p>【学習の課題】 テーマ 11 とテーマ 12 を踏まえ、人が表現することの意味等を考えながらレポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 下出美智子『知的障害のある青年達の音楽行為』</p> <p>【学習する上での留意点】 事前に指定箇所を熟読し理解しておくこと。</p>	
13. テーマ	芸術教育と福祉③—幼児の表現活動（音楽を中心に）
<p>【学習の目標】 幼児の表現活動に関する資料を購読し、理解を深めることができる。</p> <p>【学習の内容】 我が国の「幼稚園教育要領」や幼児の表現に関する実践論文の購読と、その内容に関するディスカッション。</p> <p>【キーワード】 幼児教育、幼児の表現活動</p> <p>【学習の課題】 議論した内容をまとめる。</p> <p>【参考文献】 資料は事前に配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】 配布された資料を熟読し、疑問点や質問等をまとめておくこと。</p>	
14. テーマ	芸術教育と福祉④—幼児の表現活動（音楽を中心に）
<p>【学習の目標】 幼児の表現活動に関する映像を視聴し、「表現」等の視点から分析・考察することができる。</p> <p>地域の幼稚園の教育活動に関する資料を基に、次回に予定されている「幼稚園見学」の準備を整えることができる。</p> <p>【学習の内容】 映像（DVD）の分析とディスカッション。</p> <p>地域の幼稚園見学についての準備。</p> <p>【キーワード】 幼児の表現、幼稚園の教育活動</p> <p>【学習の課題】 議論した内容のまとめと幼稚園見学の事前準備。</p> <p>【参考文献】 資料は事前に配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】 配布された資料を熟読し、疑問点や質問等をまとめておくこと。</p>	
15. テーマ	芸術教育と福祉⑤—地域の幼稚園見学
<p>【学習の目標】 地域の幼稚園を訪問して幼稚園教育についての理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 幼稚園の教育活動や施設見学、幼児との触れ合い、幼稚園教員の講話を聞く</p> <p>【キーワード】 幼稚園の生活、幼児の活動</p> <p>【学習の課題】 幼稚園見学の内容をまとめ、各自の問題意識に即したレポートを作成する。</p> <p>【参考文献】 資料は事前に配布する。</p> <p>【学習する上での留意点】 留学生は自国の幼稚園と比較してレポートを作成する。そのために事前に資料を入手しておくこと。</p>	

1. 科目名 (単位数)	異文化コミュニケーション演習 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5364
2. 授業担当教員	別府 結起			
4. 授業形態	discussion, presentation, lecture		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	異文化を知ることとは、その対比の対象である自文化、つまりは自分について理解することである。外国人とのコミュニケーション、異文化接触の摩擦問題のみならず、自己と世界の関わり、自己と自文化の関係、そして異文化接触のダイナミズムを探り、理解を深めることで、「異質性を楽しむ」態度の育成を目的とする。			
8. 学習目標	Students will be able to notice cultures and environment where they live. Students will be aware of the cultural differences around them. Student will be able to find ways for different cultures to peacefully coexist.			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	To be announced in class			
10. 教科書・参考書・ 教材	This Is Culture: 理論と実践で学ぶ異文化コミュニケーション NAN'UN-DO (南雲堂) Gregory Goodmacher & 梶浦麻子			
11. 成績評価	Attendance and Participation 25% Presentation 25% Reports 25% Homework 25%			
12. 受講生への メッセージ	Hello everyone. Welcome to multicultural communication seminar class. In this class, we try our best to be aware of all the different cultures around us, and find ways to coexist peacefully.			
13. オフィスアワー	To be announced in class			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	What does "Culture" mean?			
【学習の目標】	To be able to define what culture means.			
【学習の内容】	By reading the definition of culture, and find culture is not to study but to be learned naturally.			
【キーワード】	Culturally sensitive, Beliefs, Perspective, and Cultural products			
【学習の課題】	To distinguish material culture and non-material culture			
【参考文献】	Above mentioned textbook			
【学習する上での留意点】	We foster respect to people from different cultural background.			
2. テーマ	Cultural Rules for Acceptable Behavior			
【学習の目標】	To be able to know what behaviors are acceptable and unacceptable in different cultures.			
【学習の内容】	Different societies have rules regarding appropriate and inappropriate behavior.			
【キーワード】	Violate, Appropriate, inappropriate, condemn, conform			
【学習の課題】	What are "norms"?			
【参考文献】	Above mentioned textbook			
【学習する上での留意点】	Think about what behaviors are appropriate in general.			
3. テーマ	Stereotyping			
【学習の目標】	To be able to know what "Stereotype" is about.			
【学習の内容】	Stereotype has come to mean images and ideas that prevent us from seeing others as individuals.			
【キーワード】	Identical, prejudice, reflect, mistrust, classify			
【学習の課題】	Positive, Negative, and Neutral Stereotypes			
【参考文献】	Above mentioned textbook			
【学習する上での留意点】	To be aware of stereotypes we tend to use in daily lives.			
4. テーマ	Media and Culture			
【学習の目標】	To be able to notice medias and culture are deeply related.			
【学習の内容】	The influence of mass media			
【キーワード】	Caucasians, mass media, biased, role models, minority, majority, critical			
【学習の課題】	Getting the Media's Message properly			
【参考文献】	Above mentioned textbook			
【学習する上での留意点】	Find at least one media controlled issue around us.			
5. テーマ	Nonverbal Communication: Gestures and Body Language			
【学習の目標】	To learn what gestures and body languages are appropriate in which culture			
【学習の内容】	More than Words Can Say			
【キーワード】	Encode, consciously, unconsciously, adapt, interpret			
【学習の課題】	The Importance of Nonverbal Communication			
【参考文献】	Above mentioned textbook			
【学習する上での留意点】	Clothes that are accepted and not-accepted			
6. テーマ	Cultural Perspective of Time			
【学習の目標】	To search the value of time and how it is perceived different ways			
【学習の内容】	Monochronic cultures and Polychronic cultures			
【キーワード】	punctual, Clock time, task, frustrated, on and in time, social obligations			
【学習の課題】	To understand people have different set of time perception			

【参考文献】	Above mentioned textbook
【学習する上での留意点】	To think about the other culture's perspective of time
7 . テーマ	Touch and Space
【学習の目標】	To know what is a safe space and how we see close relationships
【学習の内容】	Too close or too far?
【キーワード】	Intimate, duration, aggressive, factors, gender
【学習の課題】	To know what are appropriate touches and space for certain cultures.
【参考文献】	Above mentioned textbook
【学習する上での留意点】	To think about our own cultures what are appropriate nonverbal communication
8 . テーマ	Review of multicultural communication: Presentation of students
【学習の目標】	Students choose a topic from the theme we have studied, and present their findings
【学習の内容】	Cultural Rules for Acceptable Behavior, Stereotyping, Media and Culture, Nonverbal Communication
【キーワード】	Presentation, discussion
【学習の課題】	Students find issue concerning their own and present their own ideas and opinions
【参考文献】	Above mentioned textbook
【学習する上での留意点】	Review our own understanding of different cultures and express their own cultural self
9 . テーマ	Verbal Communication Norms
【学習の目標】	To be able to consider what norms of speaking patterns are.
【学習の内容】	It's all in how you say it
【キーワード】	communication styles, verbal, marital status, annoy
【学習の課題】	Different communication styles can cause problems
【参考文献】	Above mentioned textbook
【学習する上での留意点】	Consider our own communication styles
10 . テーマ	The Individual and the Group
【学習の目標】	To seek what types or cultures you belong to: Individual versus Group
【学習の内容】	Me vs. Us
【キーワード】	Group membership, conflicts, individual, independent, harmony, achievements, leadership
【学習の課題】	Can we live alone?: Each individual could be independent and a member of groups at the same time
【参考文献】	Above mentioned textbook
【学習する上での留意点】	Collectivist or Individualist
11 . テーマ	Subcultures
【学習の目標】	To be able to pay attention to subcultures around us
【学習の内容】	A sense of belonging
【キーワード】	mainstream, dialects, community, multicultural country, reference
【学習の課題】	Subcultures have values, beliefs, and behaviors that differ in important ways from mainstream culture
【参考文献】	Above mentioned textbook
【学習する上での留意点】	Have non-biased sense of unique traits of people belonging to subculture groups
12 . テーマ	Status
【学習の目標】	To be able to find the way to establish where you stand, what you are
【学習の内容】	Where we stand
【キーワード】	status, privileged, compete, in contrast, seniority, self-confidence, charisma
【学習の課題】	Social scientists describe two types of status system: ascribed and achieved
【参考文献】	Above mentioned textbook
【学習する上での留意点】	To have insight of privileged and less-privileged groups
13 . テーマ	What is a family
【学習の目標】	To be able to foster broad sense of family
【学習の内容】	My family, Your family
【キーワード】	nuclear family, spouse, family structure, monogamy, polygamy, heterosexual, extended family, stepfamily
【学習の課題】	What exactly is a family?
【参考文献】	Above mentioned textbook
【学習する上での留意点】	To succeed at intercultural communication, we need to accept and respect a growing variety of families
14 . テーマ	Gender as Culture
【学習の目標】	To have a strong sense of self: gender roles and what gender difference bring us
【学習の内容】	Men's Role, Women's Role?
【キーワード】	nurture, nature, masculine, feminine, claim, biology
【学習の課題】	Gender-biased differences in both verbal and nonverbal communication
【参考文献】	Above mentioned textbook
【学習する上での留意点】	habits and customs that tie and require men and women
15 . テーマ	Our Connected World
【学習の目標】	To have a sense of global citizen
【学習の内容】	Globalization Affects...
【キーワード】	dominant, globalization, integrated, interdependent, homogeneous, abandon
【学習の課題】	No nation, no one can survive on its or his own without international trade and relationship
【参考文献】	Above mentioned textbook
【学習する上での留意点】	To conclude own sense of living in a multicultural society



1. 科目名 (単位数)	異文化コミュニケーション演習 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	EDMP5364
2. 授業担当教員	内藤 伊都子			
4. 授業形態	講義、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	異文化理解特論を履修していることが望ましい。			
7. 講義概要	異文化コミュニケーションは、異文化環境下でのコミュニケーションや文化背景が異なる者同士によるコミュニケーション事象などを対象としている。多文化共生やグローバル化が進む国際社会では、どのような対人関係が形成され、その関係間ではどのようなコミュニケーション事象が展開されているのか。コミュニケーションの要因やコミュニケーション行動などについて、異文化研究や文化比較をする際の問題を取り上げながら、異文化コミュニケーションをテーマとした研究計画や研究手法について、実践的に進めていく。			
8. 学習目標	1 コミュニケーションについて、異文化研究や比較研究についての方法を実践的に理解することができるようになる。 2 コミュニケーション行動の文化比較をすることの意味を考察する。 3 異文化コミュニケーションの研究アプローチから、データ収集、データ分析・解釈など研究のプロセスを理解することができるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	各回の学習の課題、キーワードについて事前に調べたり考えをまとめたりしておくこと。 指定した文献を講読し、講義内容やグループのプレゼンテーションを踏まえてレポートを作成する。 詳細は講義内で指示する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 資料は適宜教室内で配付する。 【参考書】 末田清子・抱井尚子・田崎勝也・猿橋順子 編著『コミュニケーション研究法』ナカニシヤ出版、2011。 西條剛央 著『ライブ講義・質的研究とはなにか SCQRM ベーシック編』新曜社、2007。 石井敏・久米昭元 編『異文化コミュニケーション事典』春風社、2013。 日本コミュニケーション学会 編『現代日本のコミュニケーション研究』三修社、2011。 堀洋道 監修・山本真理子 編 他『心理尺度集 I～VI』サイエンス社、2001 他。 その他文献は講義内で適宜紹介する。			
11. 成績評価の方法	グループワーク 30% プレゼンテーション 30% プレゼンテーション評価レポート 40% これらを総合的に評価する。			
12. 受講生への メッセージ	異なる文化、多様な文化の人々の行動に興味を持っていることが望ましい。 自身の身近な生活の中にある異文化を意識して人間行動を観察し、関連付けながら受講することを勧める。 講義内容を積極的に聴き、自身の意見や考えについて活発に発信していくこと。			
13. オフィスアワー	初回の講義内で通知する。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	異文化コミュニケーション研究とはなにか			
	【学習の目標】文化とはなにか、コミュニケーションとはなにかについて改めて理解を深める。 【学習の内容】異文化理解特論の内容を踏まえ、異文化コミュニケーションに影響を与える各要因について概観していく。 【キーワード】文化、コミュニケーション、異文化接触、文化的価値、非言語、不確実性、異文化適応 など。 【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。 【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。 【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。			
2. テーマ	異文化コミュニケーション研究の方法			
	【学習の目標】異文化コミュニケーション研究のアプローチについて理解することができる。 【学習の内容】異文化コミュニケーションを研究する多様な方法論のうち、主要な手法について解説していく。 【キーワード】社会調査法、量的研究、質的研究、ミックス法 など。 【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。 【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。 【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。			
3. テーマ	先行研究調査			
	【学習の目標】先行研究調査の目的や重要性について理解を深める。 【学習の内容】先行研究をレビューし、従来の研究により明らかにされた点、矛盾点、欠落点についてなどについて考察していく。 【キーワード】文献研究、概念化、理論、文献引用 など。 【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。 【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。 【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。			
4. テーマ	リサーチ・クエスチョンと仮説			
	【学習の目標】リサーチ・クエスチョンと仮説を検討する。			

	<p>【学習の内容】 先行研究調査をもとに、リサーチ・クエスチョンや仮説の立て方などについて解説していく。</p> <p>【キーワード】 研究計画、リサーチ・クエスチョン、仮説、横断的調査、縦断的調査、探索的調査 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
5 . テ ー マ	リサーチ・デザイン
	<p>【学習の目標】 リサーチ・デザインを検討する。</p> <p>【学習の内容】 社会調査を設計し、必要な準備や手続きについて解説していく。</p> <p>【キーワード】 調査対象、調査内容、分析方法、調査依頼、手続き、調査票、予備調査 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
6 . テ ー マ	異文化コミュニケーションと研究対象
	<p>【学習の目標】 調査の範囲と限界について理解することができる。</p> <p>【学習の内容】 文化研究の社会調査を実施する際に、どこ、だれ、なにを対象にするのかを検討する。</p> <p>【キーワード】 サンプリング、調査地、調査対象者、測定要因、一般化 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
7 . テ ー マ	異文化研究の等価性
	<p>【学習の目標】 文化を扱うことの意味や比較することの意味について理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 文化を比較するとはどういうことか、文化比較のための準備や手続きについて解説していく。</p> <p>【キーワード】 測定方法、バックトランスレーション、地域性、信頼性、ダミー変数 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
8 . テ ー マ	量的アプローチ：コミュニケーション行動の測定
	<p>【学習の目標】 コミュニケーション行動を測定する尺度案を作成することができる。</p> <p>【学習の内容】 既存の尺度を用いながら、研究テーマと関連した測定尺度の作成方法について解説していく。</p> <p>【キーワード】 測定尺度、リッカート法、フェイスシート、質問項目、デモグラフィック要因 など</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
9 . テ ー マ	量的アプローチ：データ収集と分析
	<p>【学習の目標】 モデルデータの分析と結果から、文化的特徴について読み解く。</p> <p>【学習の内容】 文化別分析と直接比較の分析方法と検証結果の解釈について概要を解説していく。</p> <p>【キーワード】 標準化、下位尺度、有意差検定、主効果 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
10 . テ ー マ	質的アプローチ：インタビュー
	<p>【学習の目標】 インタビューの種類とその特徴について理解することができる。</p> <p>【学習の内容】 インタビューの方法や手続きについて概要を解説していく。</p> <p>【キーワード】 構造化インタビュー、半構造化インタビュー、ライフヒストリー、インタビューガイド、研究倫理 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
11 . テ ー マ	質的アプローチ：データ収集と分析
	<p>【学習の目標】 モデルデータからカテゴリー生成案を作成する。</p> <p>【学習の内容】 質的アプローチのデータ収集と分析方法について概要を解説していく。</p> <p>【キーワード】 事例研究、KJ 法、カテゴリー生成、会話分析、グラウンド・セオリー・アプローチ など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。</p>
12 . テ ー マ	言語コミュニケーションの実践
	<p>【学習の目標】 言語コミュニケーション行動に表出される文化的特徴について説明できる。</p> <p>【学習の内容】 文化的な言語コミュニケーションの表現方法や用語の等価性や整合性について解説していく。</p> <p>【キーワード】 論述表現、垣根表現、婉曲表現、断定表現、用語の整合性 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p>

【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。 【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。	
13. テーマ	非言語コミュニケーションの実践
【学習の目標】非言語コミュニケーション行動に表わされた意味や印象について説明できる。 【学習の内容】非言語行動の観察から推察される文化的特徴について解説していく。 【キーワード】準言語・スピード、滑舌、間の取り方、姿勢、視線活動、印象形成 など。 【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。 【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。 【学習する上での留意点】自身の研究テーマや周囲のコミュニケーション事象と関連付けたりしながら受講することを勧める。	
14. テーマ	グループ発表
【学習の目標】グループが作成してきた異文化コミュニケーションの研究案を説明する。 【学習の内容】グループが作成したモデル案やモデルデータを使用して、異文化コミュニケーション研究の発表をする。 【キーワード】各テーマで挙げたキーワード全体 【学習の課題】口頭で説明ができるように十分理解しておく。 【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。 【学習する上での留意点】自身の研究で使用予定の手法があれば、不明な部分がないようにしておく。	
15. テーマ	総括
【学習の目標】ノートや資料、発表内容を整理してレポートが作成できるようにする。 【学習の内容】全体的な復習をし、これまでの発表内容とプレゼンテーション評価をレポートとしてまとめていく。 【キーワード】各テーマで挙げたキーワード全体 【学習の課題】キーワードを手掛かりに、既習内容について不明な点がないか全体的に確認しておくこと。 【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。 【学習する上での留意点】これまでの講義内容、発表内容を踏まえてレポートを作成できるようにノートや資料を整理していく。	

1. 科目名 (単位数)	異文化理解特論 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5363
2. 授業担当教員	坂井 二郎			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし			
7. 講義概要	「相手の気持ちになって考えてみる」ことが大切だという言葉がわれわれは日常的に耳にする。そうすればコミュニケーションはより円滑に進むのだと。おそらくこれは正しい。と同時に非常にむずかしい。相手の気持ちや立場を、自分の知識や経験をもとにして自分の言葉で理解した(と思える)とき、われわれはいったい何を理解しているのだろうか。「同一文化」の中でさえしばしばとてもむずかしい他者理解を異文化間で達成することなどできるのだろうか。この異文化理解が容易でない一方、グローバル化の進む現在、異文化理解に関する専門的知識とスキルは、教育現場を始めとするさまざまな場面で必要性を増している。本講義では他者理解という根源的な問いを掘り下げつつ、異文化理解のプロセスとその研究法を多様な角度から考察する事を目的とする。また、異文化理解の教育現場での適用例も検証していく。			
8. 学習目標	1. 異文化理解のプロセスを現象学的見地から考察し、そのプロセスに付随する課題を論理的かつ複眼的に理解する。 2. 異文化理解を促進する多様な研究方法を理解する。 3. 異文化理解の知見の教育現場での実践を理解する。			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	1. 異文化理解を促進する研究方法を一つ選択し、その長所と課題を A4 用紙 2 枚程度でまとめ発表する。 2. グローバル化する現代日本の教育現場における異文化理解に関連する諸問題についてレポートを作成する。			
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 石井敏・久米昭元 編著「異文化コミュニケーション研究法」有斐閣ブックス <b>【参考文献】</b> 池田理知子、E.M. クレーマー 著「異文化コミュニケーション・入門」有斐閣アルマ 佐久川肇 編著「質的研究のための現象学入門—対人支援の「意味」をわかりたい人へ」医学書院 佐藤郁衛 著「異文化間教育—文化間移動と子どもの教育」明石書店 丸山高司 「ガダマー：地平の融合」講談社 大阪多様性教育ネットワーク「多様性教育入門」解放出版社 塩澤正・吉川寛・石川有香編「英語教育と文化」大修館書店			
11. 成績評価の方法	小レポート 30% レポート 40% 授業時の課題提出 30%			
12. 受講生へのメッセージ	自分とは違う考え方をする人たちに対して、「自分は自分、他人は他人」という態度ではなく、自分を開きながら相手を受け入れていく、つまり共通の土壌を作り上げながら生産的な対話の道を拓いていくことができる能力は、これからの社会で(国際社会ではもちろんのこと、日本社会においても)ますます必要とされていく能力です。			
13. オフィスアワー	初回授業時に指示する。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1-5. テーマ	異文化理解の定義・本質・プロセスを現象学見地から考察する			
<b>【学習の目標】</b> 我々は異文化を理解しようとする際、異文化の定義、異文化の理解方法を含めた暗黙の了解があり、無自覚・無批判的に自分たちの見方をあてはめながら理解を試みている。そのため文化を無自覚的に自文化中心主義の観点から理解しようとするため、公正な異文化理解には至ることはない。そのため本講義では、現象の本質を反省的態度で考察を行う現象学的アプローチを取り入れることで、より公正な異文化理解を行うことを目的とする。また、多様なレベルでの人間理解の諸相を探求し、異文化理解における複眼的視点の涵養も同時に目指す。				
<b>【学習の内容】</b> 本講義では、物事を理解する際の日常的な無批判的無自覚的な視点で異文化理解をする際の問題点をまず理解する。そのうえで、公正な異文化理解にいたるため、日常的視点を反省的・現象学的視点に変更する意義を学ぶ。その後、異文化を異なる意識構造との相関関係で反省的に理解するために必要な諸概念を学んでいく。				
<b>【キーワード】</b> 自然的態度、暗黙の了解、反省的態度、異文化理解への現象学的アプローチ、現象と意識の関係、様々な異文化世界の形成基盤としての意識構造、ガダマーの理解概念、地平の融合、文化相対主義、自文化中心主義、認知レベルの理解、感情レベルの理解、行動レベルの理解、実存レベルの理解				
<b>【学習の課題】</b> 異文化＝異なる国籍、異言語などと結び付けるという安易な暗黙の了解から脱却し、異文化理解に関する理論的な考察になじむこと。具体的には自分自身が持つ日常意識に潜む無批判性、自文化中心の視点などを自覚し是正する事を試みる事。				
<b>【参考文献】</b> 池田理知子、E.M. クレーマー「異文化コミュニケーション・入門」(第1章-第3章)有斐閣アルマ 佐久川肇 編 植田嘉好子、山本玲菜 「質的研究のための現象学入門」医学書院 丸山高司 「ガダマー：地平の融合」講談社				
<b>【学習する上での留意点】</b> 「異文化理解」に関する既存の概念や暗黙の了解にとらわれず、「異文化理解」の実態を批判的に考察すること。				

6-12.テーマ	異文化理解の研究方法を複眼的に考察する
<p><b>【学習の目標】</b> 異文化理解を促進する研究法を複眼的に考察する</p> <p><b>【学習の内容】</b> 異文化理解を促進する研究法は多様に存在する。その多くは、教育学を含む社会科学の研究手法と共通しており、修士論文作成においても重要な知見を与えてくれる。そのため、この7回の授業で様々な質的または量的研究法を異文化理解にテーマを絞りながら学習していく。</p> <p><b>【キーワード】</b> 参与観察法、会話研究法、レトリック研究法、歴史研究法、質問紙調査法、内容分析法、方法論と方法</p> <p><b>【学習の課題】</b> それぞれの研究方法には特性があり、その特性を理解し、それぞれの研究方法が相互補完的關係であることを理解することが課題である。また、それぞれの研究法が個々の研究テーマに対しどのような具体的な応用が可能か考えながら学ぶよう心掛けてください。</p> <p><b>【参考文献】</b> 石井敏・久米昭元 編著「異文化コミュニケーション研究法」有斐閣ブックス</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 異文化理解の研究法を自分の今後の研究と結びつけながら学習を進めること。</p>	
13-15.テーマ	異文化理解の教育学的実践を複眼的に考察する
<p><b>【学習の目標】</b> 異文化理解の教育学的実践を多様性教育と英語教育の立場から考察する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 異文化理解の理論や研究は、グローバル化の進む現代の教育現場に重要な知見をもたらしている。この3回の授業では、多様性教育と英語教育の実践が日本の教育現場でどのような形で可能か考察する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 多様性教育、文化・言語多様性、人権教育、ステレオタイプ・偏見・差別の構造、国際語としての英語、英語帝国主義、異文化理解と英語教育、異文化コミュニケーション能力、多言語主義</p> <p><b>【学習の課題】</b> 多様性教育と英語教育における異文化理解の役割が多様である点に常に目を向けながら学習が進められるかが重要な点である。</p> <p><b>【参考文献】</b> 大阪多様性教育ネットワーク「多様性教育入門」解放出版社 塩澤正・吉川寛・石川有香編「英語教育と文化」大修館書店</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 異文化理解の教育学的実践は様々な形で可能であり、自分であればどのような実践ができるか常に考えておくこと。</p>	

1. 科目名 (単位数)	異文化理解特論 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	EDMP5363
2. 授業担当教員	内藤 伊都子			
4. 授業形態	講義、ディスカッション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	異文化コミュニケーション演習			
7. 講義概要	<p>人は、ある文化環境の中で社会生活を営んでいる。人の移動が容易になった現代においては、自分が所属している文化だけでなく、異なる文化と接触したり、時には2つ以上の文化環境にまたがって生活したりする場合もある。そして、その文化や社会環境は人間の行動や他者との関係性などに影響を及ぼしている。</p> <p>本講義では、まず、異文化コミュニケーション研究の歴史を振り返りながらコミュニケーション学の視点からみた「文化」について概観していく。つぎに、異文化理解のための基礎概念を扱いながら、文化環境の変化にともなうコミュニケーション事象について扱っていく。さらに、社会的影響などについても考察していく。</p>			
8. 学習目標	<p>4 文化背景の異なる他者と積極的に交流したり主体的に活動したりする力に結び付けていく。</p> <p>5 多様な人々について、創造的発想力を養成し多面的に考察する。</p> <p>6 文化的環境における自己理解や成長を図るとともに、問題の早期認識や判断、対応などの力に結び付けていく。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>各回の学習の課題、キーワードについて事前に調べたり考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>指定した文献を講読し、講義内容を踏まえてレポートを作成する。</p> <p>詳細は講義内で指示する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 資料は適宜教室内で配付する。</p> <p>【参考書】 石井敏・久米昭元 編『異文化コミュニケーション事典』春風社、2013。 日本コミュニケーション学会 編『現代日本のコミュニケーション研究』三修社、2011。 池田理知子 編著『よくわかる異文化コミュニケーション』ミネルヴァ書房、2010。 その他文献は講義内で適宜紹介する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>グループワーク 30%</p> <p>小レポート 30%</p> <p>期末レポート 40%</p> <p>これらを総合的に評価する。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>異なる文化、多様な文化に積極的な興味を持っていることが望ましい。</p> <p>自身の身近な生活の中にある異文化を意識して観察し、関連付けながら受講することを勧める。</p> <p>講義内容を積極的に聴き、必要に応じて自身が振り返る際に理解できる言葉・表現でメモすることを勧める。</p> <p>講義内容を積極的に聴き、自身の意見や考えについて活発に発信していくこと。</p>			
13. オフィスアワー	初回の講義内で通知する。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	異文化接触の現状			
	<p>【学習の目標】自身の異文化体験から文化を客観的に認識し、身近に存在している異文化に気づけるようになる。</p> <p>【学習の内容】文化が異なるとはどういうことか、自身の異文化体験から文化について考察していく。</p> <p>【キーワード】異文化接触、食文化、大衆文化、多文化共生 など。</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>			
2. テーマ	文化の学習			
	<p>【学習の目標】自身がどのように社会環境の中で文化を獲得してきたかについて認識を新たにする。</p> <p>【学習の内容】文化を扱う学問領域のなかでコミュニケーション学の視点から文化とはなにかについて概観していく。</p> <p>【キーワード】文化、エティック・イーミック、普遍性と多様性 など。</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>			
3. テーマ	異文化コミュニケーション研究の歴史と概要			
	<p>【学習の目標】コミュニケーション学から異文化研究の流れをつかむことができるようになる。</p> <p>【学習の内容】コミュニケーション学研究の歴史から異文化の視点が取り入れられた背景を概観していく。</p> <p>【キーワード】オーラル・コミュニケーション、レトリック、哲学者とソフィスト、スピーチ研究 など。</p> <p>【学習の課題】上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>			
4. テーマ	文化とコミュニケーション			
	<p>【学習の目標】コミュニケーション事象に含まれる情報利用の文化的差異について理解できるようになる。</p> <p>【学習の内容】文化コンテキストとコミュニケーション行動から文化背景の異なる他者について考察していく。</p>			

	<p>【キーワード】 コミュニケーション・モデル、メッセージ、チャンネル、エンコーディング、デコーディング など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
5 . テ ー マ	文化的自己観
	<p>【学習の目標】 自身の文化的自己観を分析できるようにする。</p> <p>【学習の内容】 文化によって作られた人間観・心のモデルについて概観し、異文化の対人関係について考察する。</p> <p>【キーワード】 相互独立的自己観、相互協調的自己観、自己概念、会話制約理論 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
6 . テ ー マ	文化的価値
	<p>【学習の目標】 自身の常識や価値観について多面的な考え方ができるようになる。</p> <p>【学習の内容】 価値観とはなにか、価値観と行動はどのように結びついているかなどについて扱っていく。</p> <p>【キーワード】 価値観、個人主義・集団主義、権力格差、男性性・女性性 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
7 . テ ー マ	文化と言語
	<p>【学習の目標】 言語そのものではなく、言語コミュニケーション行動に表出される文化的差異について気づくことができる。</p> <p>【学習の内容】 言語の共通性と多様性、文化と言語の関係、言語と思考の関係などについて扱っていく。</p> <p>【キーワード】 言語コミュニケーション、言語相対性仮説、思考、会話スタイル など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
8 . テ ー マ	文化と非言語
	<p>【学習の目標】 非言語コミュニケーション行動に表出される文化的差異について気づくことができる。</p> <p>【学習の内容】 非言語行動自体にも文化的特徴があることについて事例を取り上げながら扱っていく。</p> <p>【キーワード】 非言語コミュニケーション、空間行動、身体接触、身体動作、準言語、被服行動 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
9 . テ ー マ	異文化環境と対人関係
	<p>【学習の目標】 文化の内と外からの視点を通して、比較することの意味について理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 自文化と他文化を比較するとはどういうことか、対人関係を中心に考察していく。</p> <p>【キーワード】 クロス・カルチュラルとインター・カルチュラル、面子、対人的ネットワーク、ホスト・ゲスト など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
10 . テ ー マ	不確実性
	<p>【学習の目標】 自身の不確実性回避傾向について分析できるようにする。</p> <p>【学習の内容】 不確実性という概念を用いたコミュニケーション理論について解説していく。</p> <p>【キーワード】 不確実性、不確実性減少理論、不安・不確実性調整理論、不確実性回避、ストレンジャー、マインドフル など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
11 . テ ー マ	マルチカルチュラリズム
	<p>【学習の目標】 自身の文化的アイデンティティについて分析できるようにする。</p> <p>【学習の内容】 2つ以上の文化の影響を受けている人々のこころの諸相等、異文化理解における心理的要因について扱っていく。</p> <p>【キーワード】 文化的アイデンティティ、バイリンガリズム、自己定義と他者定義 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>
12 . テ ー マ	異文化適応とソーシャルサポート
	<p>【学習の目標】 異文化環境下での不適応について理解を深め、自文化でのサポートに役立てるようにする。</p> <p>【学習の内容】 異文化環境下での適応や不適応の状況・状態について概観し、適応促進について考察していく。</p> <p>【キーワード】 適応、不適応、期待、ソーシャルサポート、短期適応・長期適応、再適応 など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどと関連付けながら受講することを勧める。</p>

13. テーマ	異文化トレーニング
<p>【学習の目標】 異文化トレーニングの体験を通して、経験的知識を習得することができる。</p> <p>【学習の内容】 体験可能な異文化トレーニングを実施し、異文化トレーニングの種類や効果などについて考察していく。</p> <p>【キーワード】 シミュレーション、カルチャー・アシュミュレーター、クリティカル・インシデント、ロールプレイ など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどに関連付けながら受講することを勧める。</p>	
14. テーマ	文化とメディア
<p>【学習の目標】 国際社会におけるメディアの文化的影響について探究する。</p> <p>【学習の内容】 国境を超えるメディアの文化的影響や情報の扱い方、マス・コミュニケーションの現状などについて扱っていく。</p> <p>【キーワード】 メディア、情報、マス・コミュニケーション、知的所有権、ステレオタイプ など。</p> <p>【学習の課題】 上記のキーワードについて事前に調べたり、自分なりの考えをまとめたりしておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身や周囲の人々が置かれた状況や体験したことなどに関連付けながら受講することを勧める。</p>	
15. テーマ	総括
<p>【学習の目標】 ノートや資料を整理してレポートが作成できるようにする。</p> <p>【学習の内容】 全体的な復習をし、レポート作成に向けてまとめていく。</p> <p>【キーワード】 各テーマで挙げたキーワード全体</p> <p>【学習の課題】 キーワードを手掛かりに、既習内容について不明な点がないか全体的に確認しておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた参考書、配付資料。その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 これまでの講義内容を踏まえてレポートを作成できるようにノートや資料を整理していく。</p>	



1. 科目名 (単位数)	英文表現演習 (2 単位)	伊勢崎・名古屋	3. 科目番号	EDMP5361
2. 授業担当教員	【伊勢崎】高橋 みどり・井草 玲子 【名古屋】石崎 達也			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	本演習の目的は、英語で学術論文の要旨であるアブストラクト (Abstract) を書くのに必要な事項を学習し、実際に執筆してみることである。まず、アブストラクトの基となるリサーチペーパー(研究論文)を分析し、その全体構造、段落の展開の仕方、段落内の情報構造の特徴をつかむとともに、特に名詞、代名詞、動詞、助動詞、接続詞の効果的な使い方及び構文に注意を払いながら、要旨の執筆に役立つ、適切で効果的な表現を学習する。さらに、各自の専門分野のアブストラクトの特徴を把握しながら、的確で、簡潔なアブストラクトが書けるよう練習を積む。			
8. 学習目標	1. 学術論文の特徴を知り、アブストラクトの重要性を認識する。 2. アブストラクトの特徴とその全体構造を理解する。 3. アブストラクトの推敲の仕方を学習し、自らの英文のアブストラクトの問題点を認識する。 4. 簡潔で効果的なアブストラクトを執筆するために効果的な英文パターンを学習し、活用する。 5. 各自の専門分野のアブストラクトの特徴を把握し、的確で簡潔なアブストラクトが書けるよう練習する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	教科書の指定した箇所を事前に読み、練習問題を解いて授業に臨むことが前提となります。レポート①からレポート⑥は英文アブストラクトの執筆課題が中心となります。			
10. 教科書・参考書・ 教材	受講者それぞれの英語力のレベルに合わせて資料は適宜、配布する。 資料を整理するファイル等を用意すること。 なお、伊勢崎キャンパスでは、参考書②は、教科書としても使用するので、受講者は購入のこと。 【参考文献】 ① John M. Swales and Christine B. Feak. <i>Academic Writing for Graduate Students-Essential Tasks and Skills</i> 第 2 版 (2009) The University of Michigan Press. ② ジョン・スウェイルズ/クリスティン・フィーク共著 御手洗 靖訳『効果的な英語論文を書く—その内容と表現』(2006) 大修館書店 ③ Robert Weissberg & Suzanne Buke. <i>Writing Up Research :Experimental Research Report Writing for Student of English.</i> (1990) Prentice-Hall, Inc.			
11. 成績評価の方法	レポート、小テスト 70% 研究への積極的な取り組み 10% 授業参加度 (出席、授業態度、発表) 20%			
12. 受講生への メッセージ	本演習で学習することは、アブストラクトの執筆のみならず、学術論文を読む時にも役立ちます。従って、専門分野の文献を読む際には、専門用語集を作り、役に立つ表現はメモするよう心がけ、今後の英文執筆の基礎作りに努めましょう。提出されたレポートは、書き直しもありますが、より良いアブストラクトの執筆を目指し、積極的に取り組んでください。なお、提出物は提出期限を守ってください。			
13. オフィスアワー	高橋みどり：授業の前後の休憩時間 E-mail:m-takaha@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 井草 玲子：授業の前後の休憩時間 E-mail:reigusa@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 石崎 達也：授業の前後の休憩時間 E-mail:taishiza@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	学術論文(Academic Writing)の特徴 (高橋みどり・井草玲子)			
	【学習の目標】 1. 学術論文(Academic Writing) の特徴を知り、アブストラクトの重要性を認識する。 【学習の内容】 1. 学術論文の読み手、目的、構成、文体、流れ、提示の仕方を中心に学術論文の特徴を把握する。 【キーワード】 audience, purpose, organization, style, flow, presentation 【学習の課題】 日本語のアブストラクトの一部を英訳し、提出する。(レポート①) 【参考文献】 参考書① <i>Academic Writing for Graduate Students</i> 【学習する上での留意点】 専門分野の論文に目を通し、有益な表現や専門用語には印を付け、専門用語集を作り始めましょう。			
2. テーマ	アブストラクトの特徴および全体構造 (高橋みどり)			
	【学習の目標】 1. アブストラクトの定義、特徴、そして、全体構造を理解する。 【学習の内容】 1. コンピューター・サイエンスの分野の英文のアブストラクトを読み、その内容と全体構造を理解する。 2. 児童心理学の分野のアブストラクトを読み、キーワードに示されている 5 つの情報構造に分析する。 【キーワード】 背景 (background) 目的 (purpose) 方法 (method) 結果 (result) 結論 (conclusion) 【学習の課題】 英語のアブストラクトの情報構造に照らし合わせ、日本語のアブストラクトの情報構造を分析する。 【参考文献】 参考書② 第 8 章 参考書③ 第 9 章 : Abstract 【学習する上での留意点】 普段から色々な分野のアブストラクトを読んで、その特徴と全体構造に注意を払いましょう。			
3. テーマ	短いアブストラクトの書き方のポイント (高橋みどり)			
	【学習の目標】 短いアブストラクトの構成要素を知り、提示されたテキストの構成を把握する。 【学習の内容】 ビジネスの分野の報告書のアブストラクトを読み、アブストラクトを短くするコツを学ぶ。 【キーワード】 purpose method result conclusion 【学習の課題】 英文をよく読み、省略できる構成要素を考えてみる。 【参考文献】 参考書② 第 8 章 参考書③ 第 9 章 : Abstract 【学習する上での留意点】 どのように工夫すれば、短い的確なアブストラクトが書けるか、英文のテキストをよく観察すること。			

4 . テー マ	アブストラクトの推敲のポイント (高橋みどり)
	<p>【学習の目標】 アブストラクトの推敲の仕方を学習すると共に、現在自分の書いている英文のアブストラクトの問題点を知る。</p> <p>【学習の内容】 1. 文法、内容、テキストの構成、綴りに焦点を当てた、英文の推敲の方法を学ぶ。 2. アブストラクトの内容の展開に応じた適切な時制の用い方を理解する。</p> <p>【キーワード】 推敲 (Proofreading) 内容 (Content) 構成 (Organization) 文法 (Grammar) 時制 (tense) 表現 (Expression) 句読法 (Punctuation)</p> <p>【学習の課題】 アブストラクトの全体構成に注意を払い、各文がその構造の枠組みに当てはまっているか確認し、推敲を行うこと。日本語のアブストラクトを英訳し、提出する。(レポート②)</p> <p>【参考文献】 配布した印刷物</p> <p>【学習する上での留意点】 推敲は最低 2 回行い、1 回目は内容を、2 回目は文法ミスをチェックしてください。</p>
5～6. テー マ	実験研究レポートの全体構成とその内容 (高橋みどり)
	<p>【学習の目標】 実験研究レポートの全体構成を把握し、今後の論文講読及びアブストラクト執筆に活かす。</p> <p>【学習の内容】 受講生の専門分野に関連する研究報告書を読み、テキスト全体の特徴をつかむ。</p> <p>【キーワード】 主題文 (Topic sentence) 支持文 (Supporting sentences) Title Abstract Introduction Method Results Discussion IMRD</p> <p>【学習の課題】 1. 主題文とキーワードに注意をはらいながら、英文をスピーディに読み進めていく。 2. 段落相互の関係を考えながら、IMRD (序文、方法、結果、結論) の部分を探し当てる。日本語のアブストラクトを英訳し、提出する。(レポート③)</p> <p>【参考文献】 参考書③ 第 1 章 : The Experimental Research Report</p> <p>【学習する上での留意点】 各段落のポイントを素早く見つけるため、各段落の最初と最後の文をしっかり読むこと。</p>
7～8. テー マ	序文の全体構成と情報構造、並びに研究の背景を記述する際の情報構造とその内容 (高橋みどり)
	<p>【学習の目標】 実験研究レポートの序文の全体構成を把握し、序文の情報構造を理解する。さらに、研究の背景の書き方のコツを学習する。</p> <p>【学習の内容】 5 つのステージからなる序文の構成と情報構造を理解する。次に、研究の背景の位置づけと書き方を学習する。</p> <p>【キーワード】 Introduction (序文) General information Specific information Old information New information</p> <p>【学習の課題】 テキストを素早く読むために、スキミングとスキヤニングを行い、テキスト分析を行うこと。日本語のアブストラクトを英訳し、提出する。(レポート④)</p> <p>【参考文献】 参考書② 第 2 章 参考書③ 第 2 章 : The Introduction: Establishing a Context</p> <p>【学習する上での留意点】 段落(Paragraph) 単位で英文を読んでいくこと。</p>
9～10. テー マ	先行研究及び現在の研究を記述する際の情報構造とその内容 (井草玲子)
	<p>【学習の目標】 実験研究レポートの序文の第 2 ステージの先行研究及び第 3 ステージの現在の研究の重要性を強調する表現手段を学習し、今後の論文講読及びアブストラクト執筆に役立てる。</p> <p>【学習の内容】 先行研究に言及しつつ、本研究の重要性を強調する表現を学習する。</p> <p>【キーワード】 however, but, although, while, little, few, no, some, many, much</p> <p>【学習の課題】 主節と従属節の関係及び文と文との関係をよく考え、効果的な接続詞と語(句)を使用すること。日本語のアブストラクトを英訳し、提出する。(レポート⑤)</p> <p>【参考文献】 参考書③ 第 3 章 : The Introduction: Reviewing Previous Research 参考書③ 第 4 章 : The Introduction: Advancing to Present Research</p> <p>【学習する上での留意点】 適切な表現で書けるよう、キーワードに示した語の使い方を、文法書等で良く確認しておくこと。</p>
1 1 . テー マ	研究の目的と研究の有用性を記述する際の情報構造とその内容 (井草玲子)
	<p>【学習の目標】 実験研究レポートの序文の第 4 ステージの研究目的の書き方、及び、第 5 ステージの研究の有用性を的確に表現する方法を学習し、今後の論文講読及びアブストラクト執筆に役立てる。</p> <p>【学習の内容】 研究の目的を表わす効果的な表現、動詞の時制、研究の有用性を表わすための助動詞の用い方について学習する。</p> <p>【キーワード】 主語と動詞 助動詞</p> <p>【学習の課題】 研究の方向性と研究すべき事柄に関連づけて文を構成すること。</p> <p>【参考文献】 参考書③ 第 4 章 : The Introduction: Advancing to Present Research</p> <p>【学習する上での留意点】 研究目的及び研究の有用性を執筆する際に役立つよう表現のリストを作成しておくこと。</p>
1 2 . テー マ	研究方法を記述する際の情報構造とその内容 (井草玲子)
	<p>【学習の目標】 実験研究レポートの研究方法を記述する際の情報構造と内容について確認する。</p> <p>【学習の内容】 受講生の専門分野に関連するテキストを読み、段落の展開方法と研究手順の記述方法について学習する。</p> <p>【キーワード】 Procedures (手順) Materials (設備、装置、原料、素材、アンケート、テストなども含む) 動詞の受身形</p> <p>【学習の課題】 スキミングとスキヤニングを行いながら、重要ポイントをマークしていくこと。日本語のアブストラクトを英訳し、提出する。(レポート⑥)</p> <p>【参考文献】 参考書② 第 7 章 参考書③ 第 5 章 : Method 第 6 章 : Materials</p> <p>【学習する上での留意点】 自分の専門分野で使えるような表現は、しっかり印をつけ、活用すること。</p>
1 3 . テー マ	研究結果を記述する際の情報構造とその内容 (井草玲子)
	<p>【学習の目標】 研究結果を記述する際の情報構造と内容について確認するとともに、コメントの働きを理解する。</p> <p>【学習の内容】 外国語教育の分野の研究結果に関するテキストを読み、情報の提示方法と効果的な表現を学ぶ。たとえば、助動詞の使用、比較表現、変動を表わす動詞の使用などである。</p> <p>【キーワード】 Results Location of results Findings Comments</p>

	<p>【学習の課題】 研究結果を分かりやすく記述するには、どのようなパターンが効果的か、テキストを読みながら、考察すること。</p> <p>【参考文献】 参考書② 第7章 参考書③ 第7章：Results</p> <p>【学習する上での留意点】 研究結果を表わす表現と提示方法は、研究分野によって異なるので、専門分野のテキストと図（グラフなど）を普段から収集し、表現方法に慣れておくこと。</p>
14～15 テーマ	<p>研究の結論を記述する際の情報構造とその内容・ディスカッション・まとめ (井草玲子)</p>
	<p>【学習の目標】 研究の結論を記述する際の情報構造と内容について確認するとともに、アブストラクトを執筆する際の重要点の確認をする。</p> <p>【学習の内容】 研究結果に関するテキストを読み、情報の提示方法と加えるべき内容を確認する。さらに、これまで提出したレポートを点検し、各自の英文の良いところと課題を発見し、最後に、アブストラクトを執筆する際の重要点の確認をする。</p> <p>【キーワード】 仮説 発見 更なる研究の必要性 アブストラクトの推敲</p> <p>【学習の課題】 これまで学んできた様々なアブストラクトの共通点と相違点を考察し、発表すること。</p> <p>【参考文献】 参考書③ 第8章 Discussion</p> <p>【学習する上での留意点】 普段から英語でレポートを書き、専門用語のリストを作っておくと、書く力が向上します。</p>

1. 科目名 (単位数)	学習困難児指導特論 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5334
2. 授業担当教員	立松 英子			
4. 授業形態	講義・演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>学習に困難のある子どもの多くは通常の教育方法では学びにくいだけでなく行動上、すなわち社会適応上の困難も伴っている。特別な教育ニーズに応えるためには、幅広い知識と実践力を備えることが必要である。本講義では、種々のタイプの学習困難児の特性や研究の動向、学習上の困難と行動との関係などを講義や文献購読を通して学び、児童精神医学、発達心理学等の知見を取り入れながら、実態把握から課題設定・指導方針の決定、評価につながるプロセスを学び、適切に対応するための知識・技能を身につける。</p>			
8. 学習目標	<p>1. 感覚・知覚・認知・概念形成における発達のメカニズムの基礎知識を得る。                  2. 学習困難児の研究を進めるためのモラルや手順の基礎がわかる。                  3. 心理検査や質問紙の扱い、及び調査結果の整理と解釈の概要がわかる。                  4. 学習困難児の特性に応じた教材教具の工夫ができる。                  期待される効果：教育現場などでの教育相談に応じられるようになる。                  実践研究の進め方についての知識・技能が身につく。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>1. 教科書から気になる用語や事項を複数選んでレポートし、授業で解説してください。                  2. 市販されている一般のおもちゃや参考書①②③を参考に、事例を想定して教材を作成してください。</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 萱村俊哉「教室における「気になる子どもたち」の理解と支援のために」ナカニシヤ出版                  * 毎回ご持参ください。                  【参考文献】                  立松英子 「発達支援と教材教具ー子どもに学ぶ学習の系統性ー」 ジアース教育新社                  小林保子・立松英子「保育者のための障害児療育」学術出版会                  教室でできる特別支援教育のアイデア 小学校編 月森久江編 図書文化                  日本発達障害福祉連盟 発達障害白書 2017 年版 明石書店                  竹田一則 肢体不自由児、病弱、身体虚弱児教育のためのやさしい医学・生理学 ジアース教育新社                  その他、発達障害に関連する各種論文、ジャーナル、心理検査、ウェブサイトなどを授業で紹介いたします。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>アサイメント・・・・・・・・・・50%                  出席・授業態度・・・・・・・・・・20%                  口頭試問・・・・・・・・・・30%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>学習困難児の「困難」にはさまざまな種類があり、その要因は深く、反抗や非行など、社会適応の困難につながる行動特性とも密接に関係しています。教育的観点から対応するためには、表面に表れた学習困難の状況に取り組むだけでは解決できません。認知特性をふまえた要因の理解と環境調整ができるように、種々の知識を身につけましょう。</p>			
13. オフィスアワー	<p>事前に E-mail で連絡をください。E-mail : eitatema@ed.tokyo-fukushi.ac.jp</p>			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	特別支援教育や発達障害についての基礎知識			
	<p>【学習の目標】 特別支援教育の意義や目的を確認し、各種障害についての基礎知識を確かにする。                  【学習の内容】 特別支援教育の目的、新しい学習指導要領のねらい、ICF の理念、各種発達障害の特性と学習困難の要因。                  【キーワード】 特別支援教育、特別支援学校学習指導要領、知的障害、自閉症、学習障害、注意欠陥多動性障害、てんかん                  【学習の課題】 上記キーワードについて、参考書やインターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。                  【参考文献】 小林保子・立松英子「保育者のための障害児療育」学術出版会                  日本発達障害福祉連盟 発達障害白書 2017 年版 明石書店                  ICF や関連法令のプリントを授業で配布します。                  【学習する上での留意点】 文献に書かれていることと、実際の社会事象や子どもも像をつなげて考えること。</p>			
2～3. テーマ	発達障害に関する最近の研究動向と文献検索の基礎知識			
	<p>【学習の目標】 ①文献の検索や引用の方法を知る。                  ②学習困難児に関連する最近の研究テーマに関心をもつ。                  【学習の内容】 ①周辺分野も含めて各種ジャーナルや学会報告書の存在を知り、検索の方法を知る。                  ②そのことを通して、各種発達障害における最近の課題と研究動向を知る。                  【キーワード】 児童精神医学、発達心理学、発達障害学、臨床心理学、教育心理学                  【学習の課題】 ①関心のあるテーマに沿って論文を検索する。                  ②論文を数通とりあげ、内容、構成、文献引用のしかたなどに着目しながら、内容を読解する。                  【参考文献】 日本発達障害福祉連盟 「発達障害白書 2017 年版」 明石書店                  【学習する上での留意点】 「学習困難」は教育分野での一般的な概念である。医学的な診断は別の次元でなされ、研究は周辺分野（精神医学や発達心理学と密接な関係をもちながら進められていることを踏まえて学習すること。</p>			
4～5. テーマ	感覚運動期の行動と教材教具			
	<p>【学習の目標】 感覚運動期を中心に、発達の視点から障害のある子どもの行動を捉え、学習を支援する教材教具の概要を知る。                  【学習の内容】 ①乳児期や幼児期早期の認知特性と市販されているおもちゃや教具との関係を知る。</p>			

	<p>②重度の知的障害に関連する文献を購読する。</p> <p>③感覚運動期の行動を示すビデオを視聴する。</p> <p>【キーワード】 感覚運動期、認知発達と行動、発達評価</p> <p>【学習の課題】 市販のおもちゃや参考書を参考に、乳児や幼児期早期の子どもの行動特性や興味関心について考える。</p> <p>【参考文献】 立松英子 「発達支援と教材教具—子どもに学ぶ学習の系統性—」 ジアース教育新社</p> <p>【学習する上でのポイント】 障害の重い子どもが見せる特異な行動や物へのこだわりは、発達に関連して現れることに気づくこと。</p>
6～7. テーマ	特別支援学校の中での学習困難児指導（肢体不自由・病弱）
	<p>【学習の目標】 肢体不自由や病弱と重い知的障害が合併する子どもの特性を知り、指導方法を身につける。</p> <p>【学習の内容】 ①肢体不自由や病弱と重い知的障害を合併する子どもに関連する教育実践の実態を知る。</p> <p>②医療と教育の連携の実際を知る。</p> <p>③上記の子どもたちを対象とした個別の指導計画の書き方や課題設定、個別学習の方法を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 個別の指導計画、アセスメント、医療との連携</p> <p>【学習の課題】 ①重症心身障害児についての実践研究を購読し、報告する。</p> <p>②呼吸の状態や体の動き、視線などからの意思を読み取る方法について調べる。</p> <p>③医療的ケアが必要な子どもの教育の実態について調べる。</p> <p>④個別の指導計画や個別学習のプログラムを作成する。</p> <p>【参考文献】 関連分野の文献を授業で紹介します。</p> <p>【学習する上での留意点】 障害の重い子どものかすかな反応を読み取ることが生命や健康の維持につながることに気づくこと。</p>
8～9. テーマ	特別支援学校の中での学習困難児指導(知的障害・自閉症)
	<p>【学習の目標】 重い知的障害を伴う、あるいは知的障害に自閉症を合併する子どもの特性と指導方法の理解</p> <p>【学習の内容】 ①重い知的障害や、自閉症に関連する研究の動向を知る。</p> <p>②認知発達の段階や偏りを捉えるアセスメント技法の概要を知る。</p> <p>③上記の子どもたちを対象とした個別の指導計画の書き方や課題設定、個別学習の方法を学ぶ</p> <p>【キーワード】 シンボル機能、認知発達と行動、個別の指導計画、アセスメント、教材教具</p> <p>【学習の課題】 ①上記キーワードについて、参考書やインターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。</p> <p>②療育技法の1つを取り上げ、レポートし、授業で解説すること</p> <p>【参考文献】 関連分野の文献を授業で紹介します。</p> <p>【学習する上での留意点】 言語による意思表示が困難な子どもは外界を見て理解し、行動で意思表示をしていることに気づくこと</p>
10～11. テーマ	通常の学校の中での学習困難児指導（高機能自閉症、学習障害・注意欠陥多動性障害）
	<p>【学習の目標】 高機能自閉症や学習障害、注意欠陥多動性障害の実態把握と指導計画の作成の概要を知る。</p> <p>【学習の内容】 ①上記の障害を伴う子どもの学校での行動を知る。</p> <p>②学習上の困難と適応行動の困難との関係を考える。</p> <p>③各種アセスメント技法の概要を知る。</p> <p>④通常の学級の中での支援の方法を知る。</p> <p>【キーワード】 高機能自閉症、学習障害、注意欠陥多動性障害、ICD-10、DSM-5</p> <p>【学習の課題】 ①心理検査の実施、結果の読み取りと解釈。</p> <p>②通常の学級の中での支援方法について調べる。</p> <p>③④個別の指導計画や個別学習のプログラムを作成する。</p> <p>【参考文献】 関連分野の文献を授業で紹介します。</p> <p>【学習する上での留意点】 心理検査の結果と実践とのつながりを考えること。</p>
12～13. テーマ	行動障害への対処と就労支援
	<p>【学習の目標】 学習困難と行動障害との関連を理解する。社会参加を目指した生涯教育の見直しをつけられるようになる。</p> <p>【学習の内容】 ①発達障害児にしばしば伴う行動障害について、障害種や認知特性、年齢別に整理する。</p> <p>②社会参加を目指して教育では何ができるのか討論する。</p> <p>③新しい学習指導要領で強調されているキャリア教育の目的や内容について知る。</p> <p>【キーワード】 行動障害、医療との連携、キャリア教育、企業との連携</p> <p>【学習の課題】 発達障害のある人の自伝などを参考に、行動障害の年代の変遷と、各年代にふさわしい対応について討論する。</p> <p>【参考文献】 関連分野の文献を授業で紹介します。</p> <p>【学習する上での留意点】 障害者を受け入れることが義務付けられた企業では、行動に障害のある人の特性を理解し、よさを生かしながら共に働くための努力を始めています。ニュースや新聞から最近の動向を知っておくこと。</p>
14～15. テーマ	事例にもとづく実態把握と個別指導計画の作成
	<p>【学習の目標】 事例の実態を的確に把握し、チームで討議しながら指導方針や指導計画が作成できるようになる。</p> <p>【学習の内容】 事例の読み取り、指導方針についての討議、指導計画の作成。</p> <p>【キーワード】 個別の指導計画、支援会議、特別支援教育コーディネーター</p> <p>【学習の課題】 上記キーワードについて、参考書やインターネットなどで予備知識を得て授業に臨むこと。</p> <p>【参考文献】 関連分野の文献を授業で紹介します。</p> <p>【学習する上での留意点】 開示に耐えられる指導計画とは何かを考えながら書きましよう。</p>

1. 科目名 (単位数)	学習理論特論 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5353
2. 授業担当教員	小川 英光			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	この講義を履修するためには、物事を漠然とではなく数学的に厳密に考える気力が必要である。			
7. 講義概要	教育と学習は一体をなすものである。教育と学習における最も基本的で重要な概念の一つに、物事を一般化する能力、すなわち、汎化能力がある。本講義では、脳の工学的なモデルである人工ニューラルネットワークを用いて、コンピュータに汎化能力をもたせる問題を数学的に論じる。すなわち、問題の数学的定式化の仕方、その解法、得られた解の解釈について論じる。また、丸暗記学習と汎化能力を獲得する学習の関係についても論じる。			
8. 学習目標	次の概念を習得する。 1. 人工ニューラルネットワークの構造と機能。 2. 学習と汎化能力の関係。汎化能力を評価するための評価基準。 3. 各種評価基準に対する最適な学習法。 4. 最適汎化能力をもつニューラルネットワークの構成法。 5. 記憶学習と最適汎化能力を獲得する学習の関係。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	講義中に指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 プリントや関連論文を配付する。 【参考書】 小川英光「工学系の関数解析」森北出版 (2010)			
11. 成績評価の方法	レポート : 80% 出席点 (遅刻は減点) : 20%			
12. 受講生へのメッセージ	教育を受ける目的は、社会へ出て役立つ技量を身につけることである。これは、学校で学んだ事柄を一般化する能力であり、汎化能力とよばれる。一方、学校で習うことを丸暗記する学習は記憶学習とよばれる。記憶学習によって、果たして汎化能力を獲得することができるであろうか。このような問題を数学的にきちんと議論することにより、学習の本質に関わる問題を深く考える習慣を身につけてほしい。			
13. オフィスアワー	別途連絡する。			
14. 学習の展開及び内容	【テーマ, 学習の目標, 学習の内容, キーワード, 学習の課題, 学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	講義の概要 (右脳と左脳, ニューラルネットワークと学習)			
	【学習の目標】 ヒトの脳とそのモデル化を通じて学習とは何かを考える。 【学習の内容】 ヒトの脳の右脳と左脳の働きの違いを理解し、学習の工学的モデル化を考える。 【キーワード】 右脳と左脳, ニューラルネットワークと学習 【学習する上での留意点】 物事を漠然とではなく論理的に、また定量的に考える習慣をつけること。			
2. テーマ	層状ニューラルネットワーク (構造・動作原理・表現能力)			
	【学習の目標】 層状ニューラルネットワークの動作原理を理解する。 【学習の内容】 層状ニューラルネットワークの構造と動作原理、および、ニューラルネットワークの表現能力を学ぶ。 【キーワード】 層状ニューラルネットワークの構造・動作原理・表現能力 【学習の課題】 配付資料の章末に練習問題が与えてある。 【学習する上での留意点】 一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。			
3. テーマ	層状ニューラルネットワークの学習 (誤差逆伝搬法)			
	【学習の目標】 層状ニューラルネットワークの学習方式と、その問題点について学ぶ。 【学習の内容】 誤差逆伝搬法とよばれる学習方式と、その問題点について学ぶ。 【キーワード】 ニューラルネットワークの学習、誤差逆伝搬法 【学習の課題】 配付資料の章末に練習問題が与えてある。 【学習する上での留意点】 一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。			
4. テーマ	学習と汎化 (学習の問題の数学的定式化)			
	【学習の目標】 学習問題を、層状ニューラルネットワークから離れて、純粋に科学の問題として捉える。 【学習の内容】 純粋に科学の問題として学習問題を論じるための数学的枠組み、すなわち、関数解析的学習理論の枠組みを学ぶ。 【キーワード】 学習、汎化能力、訓練データ、教師信号、学習の評価基準、学習作用素 【学習の課題】 配付資料の章末に練習問題が与えてある。 【学習する上での留意点】 一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。			
5. テーマ	記憶学習 1 (記憶学習の概念の定式化と記憶学習作用素の導出)			
	【学習の目標】 関数解析的学習理論の枠組みの中で誤差逆伝搬法の意味を捉えなおす。 【学習の内容】 誤差逆伝搬法を関数解析的学習理論の枠組で捉えることにより、誤差逆伝搬法が教師信号を丸暗記する記憶学習であることを理解し、記憶学習をおこなう学習作用素を導く。 【キーワード】 誤差逆伝搬法、記憶学習、記憶学習作用素、一般逆			

	<p>【学習の課題】 配付資料の章末に練習問題が与えてある。</p> <p>【学習する上での留意点】 一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。</p>
6 . テ ー マ	記憶学習 2 (記憶学習の性質)
	<p>【学習の目標】 直感的にわかりやすい記憶学習の性質を調べることにより、関数解析的学習理論に慣れる。</p> <p>【学習の内容】 教師信号に対してのみ正しく答えることができることを保証されている記憶学習と補間の関係、および、汎化能力との関係を調べる。</p> <p>【キーワード】 記憶学習、補間、汎化能力</p> <p>【学習の課題】 配付資料の章末に練習問題が与えてある。</p> <p>【学習する上での留意点】 一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。</p>
7 . テ ー マ	ウィーナー学習 1 (ウィーナー学習の概念の定式化と正規方程式の導出)
	<p>【学習の目標】 頻繁に現れる学習対象ほど精度良く学習できるウィーナー学習の評価基準について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 頻繁に現れる学習対象ほど精度良く学習できるウィーナー学習の評価基準を導入し、正規方程式を求める。</p> <p>【キーワード】 ウィーナー学習、共分散作用素、正規方程式</p> <p>【学習の課題】 配付資料の章末に練習問題が与えてある。</p> <p>【学習する上での留意点】 一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。</p>
8 . テ ー マ	ウィーナー学習 2 (ウィーナー学習作用素の導出とウィーナー学習の性質)
	<p>【学習の目標】 ウィーナー学習作用素の導出とウィーナー学習の性質を調べる。</p> <p>【学習の内容】 ウィーナー学習作用素を導出し、ウィーナー学習の性質を調べる。</p> <p>【キーワード】 ウィーナー学習作用素</p> <p>【学習の課題】 配付資料の章末に練習問題が与えてある。</p> <p>【学習する上での留意点】 一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。</p>
9 . テ ー マ	射影学習 1 (射影学習の概念の定式化と正規方程式の導出)
	<p>【学習の目標】 個々の学習対象に対して、それがわからないにもかかわらず、その学習対象に対する最良近似を学習する射影学習の概念について学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 個々の学習対象に対して、それがわからないにもかかわらず、その学習対象に対する最良近似を学習することができるための必要十分条件を求め、射影学習に対する正規方程式を導出する。</p> <p>【キーワード】 射影学習、正射影作用素、最良近似</p> <p>【学習の課題】 配付資料の章末に練習問題が与えてある。</p> <p>【学習する上での留意点】 一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。</p>
10 . テ ー マ	射影学習 2 (射影学習作用素の導出と射影学習の性質・最良近似と補間)
	<p>【学習の目標】 射影学習作用素の導出と射影学習の性質を調べる。</p> <p>【学習の内容】 射影学習作用素を導出するとともに、射影学習の性質を調べる。最良近似と補間の関係を明らかにする。</p> <p>【キーワード】 射影学習作用素、最良近似と補間</p> <p>【学習の課題】 配付資料の章末に練習問題が与えてある。</p> <p>【学習する上での留意点】 一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。</p>
11 . テ ー マ	最適汎化ニューラルネットワークの構成法 1 (射影学習の層状ニューラルネットワークによる実現)
	<p>【学習の目標】 関数解析的学習理論で科学の問題として求められた射影学習の結果を、ニューラルネットワークを使って工学的に実現する問題を論じる。</p> <p>【学習の内容】 ニューラルネットワークには「解の探索空間」と「解の表現空間」という 2 種類の役割があることを明らかにし、関数解析的学習理論では後者の「解の表現空間」が重要であることを示すとともに、射影学習の結果を実現する射影汎化ニューラルネットワークの構成法を論じる。</p> <p>【キーワード】 解の探索空間と解の表現空間、射影汎化ニューラルネットワーク、中間層の素子数、基底関数、結合荷重</p> <p>【学習の課題】 配付資料の章末に練習問題が与えてある。</p> <p>【学習する上での留意点】 一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。</p>
12 . テ ー マ	最適汎化ニューラルネットワークの構成法 2 (一般の評価基準に対して最適な学習の層状ニューラルネットワークによる実現)
	<p>【学習の目標】 一般の評価基準の基で最適な学習結果を、ニューラルネットワークを使って工学的に実現する方法を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 射影汎化ニューラルネットワークの構成法を参考にして、一般の評価基準 J に対して最適な学習結果を実現する J 最適汎化ニューラルネットワークの構成法を論じる。</p> <p>【キーワード】 J 最適汎化ニューラルネットワーク、中間層の素子数、基底関数、結合荷重</p> <p>【学習の課題】 配付資料の章末に練習問題が与えてある。</p> <p>【学習する上での留意点】 一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。</p>
13 . テ ー マ	許容性の理論 1 (記憶学習と汎化能力の関係、許容性の概念の導入、記憶学習と射影学習)
	<p>【学習の目標】 汎化能力を要請しない記憶学習によって汎化能力を獲得できる場合があるという一見矛盾した現象を説明するために、許容性の概念を導入し、記憶学習と射影学習の関係を明らかにする。</p> <p>【学習の内容】 記憶学習と射影学習という 2 種類の学習を考え、射影学習の意味で最適な学習を行うという目的を、記憶学習という手段を用いて実現できるかという問題設定を与える。そして、この枠組みのもとで、汎化能力を要請しない記憶学習によって射影学習という汎化能力を獲得できるための必要十分条件を求める。</p> <p>【キーワード】 許容性、2 種類の学習、目的と手段</p> <p>【学習の課題】 配付資料の章末に練習問題が与えてある。</p> <p>【学習する上での留意点】 一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。</p>

14. テーマ	許容性の理論 2 (過学習の理論)
【学習の目標】	誤差逆伝搬法では、学習回数を増やしすぎると逆に汎化能力が低下するという実験結果が数多く報告されている。これを過学習現象いう。許容性の理論を用いて、この過学習現象を解明し、その対処法を与える。
【学習の内容】	過学習現象の問題を 2 種類の学習の間の関係というとらえ方をすることにより、許容性の理論を用いて過学習現象に対処する方法を学ぶ。
【キーワード】	過学習、許容性
【学習の課題】	配付資料の章末に練習問題が与えてある。
【学習する上での留意点】	一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。
15. テーマ	講義のまとめと将来展望 (学習理論と他の学問分野との関係)
【学習の目標】	関数解析的学習理論の復習と、他の分野との関係を学ぶ。
【学習の内容】	様々な問題を数学的に明確に定式化することにより、関数解析的学習理論を展開してきた。たとえば、科学と工学の違い、目的と手段の区別、解の探索空間と表現空間の違い等々は、学習理論だけでなく、社会で出会う多くの問題に対処する際にも重要になってくる。この最終回では、そのような問題のとらえ方や、発想の転換の仕方を整理し、他の分野との関わりを論じる。
【キーワード】	科学と工学、目的と手段、解の探索空間と表現空間、発想の転換
【学習する上での留意点】	一つひとつの概念を数学的に厳密に定義する習慣をつけること。



1. 科目名 (単位数)	学級経営学特論 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5302
2. 授業担当教員	池田 芳和			
4. 授業形態	講義及び演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	本講義においては学年学級経営のための基本的な事項について明らかにするとともに、学年学級をマネジメントしていくべき観点を明らかにし、PDC Aの在り方について理論と実践を融合して取り組む方向を研究する。心を豊かにする学年学級経営について、①学年学級経営のための基本的な知識を知る、②新しい教育課題と学年学級経営について考える、③学年学級経営実践のためのマニュアル作り、④学年学級経営のリスク・マネジメント等について探究する。			
8. 学習目標	心を豊かにする学年学級経営に関する下記について探究する。 ① 学年学級経営のための基本的な知識を知る ② 新しい教育課題と学年学級経営について考える ③ 学年学級経営実践のためのマニュアル作り ④ 学年学級経営のリスク・マネジメント			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	適宜、課題を課す。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】文部科学省「学習指導要領」 文部科学省「学習指導要領解説 総則編」 文部科学省「小学校生徒指導資料 1～5」 【参考文献】文部科学省「生徒指導提要」			
11. 成績評価の方法	1. 成績の評価は、講義でのディスカッション参加の度合、レポート(小論文)、単位認定試験の結果によって決められる。 2. 院生としての基準に満たない論文は、基準を満たすまで書き直し求められる。 (評価点) A : 100~90、B+ : 89~80、B : 79~70、C : 69~60、F : 59 点以下			
12. 受講生への メッセージ	学校においては、児童生徒の健全育成が重要な課題であり、日々の学級経営がその重要な役割を担っている。子ども一人一人の意欲や自己教育力の育成を図りながら「生きる力」をはぐくむための、学年学級経営の在り方を大いに探究して欲しい。			
13. オフィスアワー	別途連絡する。			
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	学年・学級経営のための基本的知識(1)			
	【学習の目標】学年・学級担任としての役割と責任は何かについて探究する 【学習の内容】学級経営の意義とその内容、役割と責任、学級経営の歴史 【キーワード】学級経営の意義とその内容、役割と責任、学級経営の歴史 【学習の課題】組織マネジメントを理解する。 【参考文献】児島邦宏「学年・学級経営」 【学習する上での留意点】学校の使命を明らかにし、学年学級経営の意義と役割を明確にする。			
2. テーマ	学年・学級経営のための基本的知識(2)			
	【学習の目標】学年学級経営計画をどう作るかについて探究する 【学習の内容】学級経営の意義、学級経営とマーケティング、教員の姿勢・態度、学級経営の役割 【キーワード】学級経営の意義、学級経営とマーケティング、教員の姿勢・態度、学級経営の役割 【学習の課題】学年学級経営計画の作り方について理解する 【参考文献】文部科学省「小学校生徒指導資料 1~5」小学校生徒指導資料 2 児童理解の方法と資料の活用 【学習する上での留意点】児童生徒の理解とその方法			
3. テーマ	学年・学級経営のための基本的知識(3)			
	【学習の目標】学級の編成と学級集団づくりと学年・学級経営の評価について探究する 【学習の内容】個の理解と良さや可能性を生かす、学級集団の特質、学級づくりと教師の姿勢、学級経営の評価 【キーワード】目的に応じた集団づくり、能力別編成、チーム・ティーチング、小集団指導、学級経営の評価 【学習の課題】望ましい学級集団の理解と評価 【参考文献】教育方法の改善 【学習する上での留意点】使命の実現と学級集団の効果			
4. テーマ	新しい教育課題と学年学級経営(1)			
	【学習の目標】新しい教育基本法と学年・学級経営について探究する 【学習の内容】学級の使命と役割、教科指導と学級経営、生徒指導と学級経営 【キーワード】規範意識、学習意欲、生きる力、教科指導と学級経営、生徒指導と学級経営 【学習の課題】21世紀への教育課題と学年学級経営の理解 【参考文献】教育基本法、中央教育審議会答申			

【学習する上での留意点】 21世紀への教育課題の理解	
5. テーマ	新しい教育課題と学年学級経営（2）
<p>【学習の目標】 教育観の変遷と学年学級経営の考え方の変遷について探究する</p> <p>【学習の内容】 人間観の変遷と教育、個の理解と良さや可能性を生かす、学級づくりと教師の姿勢、</p> <p>【キーワード】 学習指導要領の改訂、学力観と評価観、学級づくりと教師の姿勢、</p> <p>【学習の課題】 学年学級経営に影響を及ぼしたことの理解</p> <p>【参考文献】 文部科学省「学習指導要領解説 総則編」</p> <p>【学習する上での留意点】 教育思潮の変遷の理解</p>	
6. テーマ	新しい教育課題と学年学級経営（3）
<p>【学習の目標】 開かれた学校と学年学級経営について探究する</p> <p>【学習の内容】 生きる力、説明責任、自己評価と外部評価、自己管理目標、組織マネジメント</p> <p>【キーワード】 生きる力、説明責任、自己評価と外部評価、自己管理目標、組織マネジメント</p> <p>【学習の課題】 説明責任と評価について理解</p> <p>【参考文献】 教育方法の改善</p> <p>【学習する上での留意点】 社会的な動きと組織運営に留意</p>	
7. テーマ	学年学級経営実践のためのマニュアル作り（1）
<p>【学習の目標】 子どもの実態をどのように把握するかについて探究する</p> <p>【学習の内容】 発達段階、個の実現と集団、実態把握の方法、環境条件の整理</p> <p>【キーワード】 発達段階、個の実現と集団、実態把握の方法、環境条件</p> <p>【学習の課題】 実態把握の方法の理解</p> <p>【参考文献】 文部科学省 小学校生徒指導資料2 児童理解の方法と資料の活用</p> <p>【学習する上での留意点】 学年・学級経営の目標・方法の決定</p>	
8. テーマ	学年学級経営実践のためのマニュアル作り（2）
<p>【学習の目標】 学習習慣の形成と集団形成の在り方を探究する</p> <p>【学習の内容】 学習のきまり、話し合いのきまり、発言の仕方、板書のあり方、宿題の考え方</p> <p>【キーワード】 学習のきまり、話し合いのきまり、発言の仕方、板書のあり方、宿題の考え方</p> <p>【学習の課題】 学習習慣形成の理解</p> <p>【参考文献】 教育方法の基礎</p> <p>【学習する上での留意点】 習慣形成についての考え方を捉える</p>	
9. テーマ	学年学級経営実践のためのマニュアル作り（3）
<p>【学習の目標】 生活習慣形成と集団形成の在り方を探究する</p> <p>【学習の内容】 登校前の指導、授業中、給食時、放課後、下校時、家庭での生活等の指導</p> <p>【キーワード】 通学路、あいさつ、返事、発言、安全、食育、規則正しい生活</p> <p>【学習の課題】 生活習慣形成と人間形成の理解</p> <p>【参考文献】 学級経営計画書</p> <p>【学習する上での留意点】 生活習慣の重要さの認識を捉える</p>	
10. テーマ	学年学級経営実践のためのマニュアル作り（4）
<p>【学習の目標】 教室経営の進め方について探究する</p> <p>【学習の内容】 教室経営方針、計画の具体化、作り上げる環境、学びあう環境、意欲的な環境、明るい環境</p> <p>【キーワード】 教室経営方針、計画の具体化、作り上げる環境、学びあう環境、意欲的な環境、明るい環境</p> <p>【学習の課題】 毎月、季節に応じた教室経営方針を事前に考えておく</p> <p>【参考文献】 環境と教育（自作資料）</p> <p>【学習する上での留意点】 環境が人間形成に及ぼす影響</p>	
11. テーマ	学年学級経営実践のためのマニュアル作り（5）
<p>【学習の目標】 学級事務と学級経営の評価について探究する</p> <p>【学習の内容】 経営方針・計画と事務処理、学級事務の役割と種類、学級事務への姿勢、教育機器の活用、指導要録</p> <p>【キーワード】 計画的な処理、迅速、的確、処理の順序、学級事務の役割と種類、指導要録</p> <p>【学習の課題】 効率的な処理と的確性についての理解</p> <p>【参考文献】 仕事の哲学</p> <p>【学習する上での留意点】 効率的な処理と的確性について</p>	
12. テーマ	学年学級経営のリスク・マネジメント（1）
<p>【学習の目標】 児童理解のための教育相談の在り方を探究する</p> <p>【学習の内容】 教育相談、エンカウンター、支持的風土づくり、学級の諸問題、いじめ・不登校</p> <p>【キーワード】 教育相談、エンカウンター、支持的風土づくり、学級の諸問題、いじめ・不登校</p> <p>【学習の課題】 生徒指導上の諸問題についての理解</p> <p>【参考文献】 文部科学省「生徒指導提要」小学校生徒指導資料5 児童の非社会的行動をめぐる指導上の諸問題</p> <p>【学習する上での留意点】 児童の現状と指導すべき方向</p>	
13. テーマ	学年学級経営のリスク・マネジメント（2）
<p>【学習の目標】 授業中に課題のある個の指導の在り方を探究する</p> <p>【学習の内容】 おしゃべり、LD、理解の遅い子、学習意欲が乏しい子、等の指導</p>	

	<p>【キーワード】 個の理解、他機関との相談、家庭との連携、教材の工夫等</p> <p>【学習の課題】 個々のケースにあった指導事例の研究</p> <p>【参考文献】 教育方法の改善</p> <p>【学習する上での留意点】 ケーススタディによる理解</p>
14. テーマ	学年学級経営のリスク・マネジメント (3)
	<p>【学習の目標】 校外生活への対応と苦情処理について探究する</p> <p>【学習の内容】 説明責任、上司・同僚への報告・連絡・相談、外部組織との連携、家庭との連携、迅速・丁寧</p> <p>【キーワード】 説明責任、上司・同僚への報告・連絡・相談、外部組織との連携、家庭との連携、迅速・丁寧</p> <p>【学習の課題】 問題解決・処理の進め方</p> <p>【参考文献】 学級経営の改善</p> <p>【学習する上での留意点】 広い視野から経営を見なおす</p>
15. テーマ	学年・学級経営の今後の在り方と授業評価
	<p>【学習の目標】 これからの学年学級経営の在り方についてマネジメントの方向性を探究する</p> <p>【学習の内容】 組織マネジメント、イノベーション、自己管理目標、生きる力</p> <p>【キーワード】 組織マネジメント、イノベーション、自己管理目標、生きる力</p> <p>【学習の課題】 学級経営の課題を抽出し、自己の学級経営の方向を論述する</p> <p>【参考文献】 組織マネジメント</p> <p>【学習する上での留意点】 授業を評価する</p>

1. 科目名 (単位数)	学級経営学特論 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	EDMP5302
2. 授業担当教員	鈴木 収			
4. 授業形態	講義と討論		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	本講義においては学年学級経営のための基本的な事項について明らかにするとともに、学年学級をマネジメントしていくべき観点を明らかにし、PDCAの在り方について理論と実践を融合して取り組む方向を研究する。心を豊かにする学年学級経営について、①学年学級経営のための基本的な知識を知る、②新しい教育課題と学年学級経営について考える、③学年学級経営実践のためのマニュアル作り、④学年学級経営のリスク・マネジメント等について探究する。			
8. 学習目標	心を豊かにする学年学級経営に関する下記について探究する。 ④ 学年学級経営のための基本的な知識を知る ⑤ 新しい教育課題と学年学級経営について考える ⑥ 学年学級経営実践のためのマニュアル作り ④ 学年学級経営のリスク・マネジメント			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	【中間レポート課題】 学級経営の意義とその内容、役割と責任についてその概要を説明しなさい。あわせて学級経営について自分の考えを書きなさい。(1000~1200 字) 【期末レポート課題】 日本の小中学校において、学級はどんな役割が期待されているか書きなさい。また、あなたが学級担任になったら、努力したと考える項目を三つあげ、それぞれの項目を取り上げた理由と、それらの指導ポイントを書きなさい。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】教育出版『生徒指導の研究 第三版』 代表 高橋哲夫 文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編 平成 20 年 8 月』東洋館出版社 【参考文献】文部科学省『生徒指導提要』教育図書			
11. 成績評価の方法	授業への積極的参加、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する 1 授業への積極的参加 (発言) 総合点の 15 % 2 中間課題レポート 総合点の 35 % 3 期末課題レポート 総合点の 35 % 4 日常の学習状況 総合点の 15 %			
12. 受講生への メッセージ	学校においては、児童生徒の健全育成が重要な課題であり、日々の学級経営がその重要な役割を担っている。子ども一人一人の意欲や自己教育力の育成を図りながら「生きる力」をはぐむための、学年学級経営の在り方を大いに探究して欲しい。			
13. オフィスアワー	後で授業中に連絡する。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	学年・学級経営のための基本的知識(1)			
	【学習の目標】学年・学級担任としての役割と責任は何かについて探究する 【学習の内容】学級経営の意義とその内容、役割と責任、学級経営の歴史 【キーワード】学級経営の意義とその内容、役割と責任、学級経営の歴史 【学習の課題】組織マネジメントを理解する。 【参考文献】児島邦宏「学年・学級経営」 【学習する上での留意点】学校の使命を明らかにし、学年学級経営の意義と役割を明確にする。			
2. テーマ	学年・学級経営のための基本的知識(2)			
	【学習の目標】教師と児童生徒の基本的な在り方を考える 【学習の内容】学級経営の意義、教員の姿勢・態度、教師と子どもの人間関係の確立、学級経営の役割 【キーワード】子どものつまずきは教師のつまずき、教員の姿勢・態度、学級経営の役割 【学習の課題】教師と児童生徒の基本的な在り方について理解する 【参考文献】「生徒指導提要」 【学習する上での留意点】児童生徒の理解とその方法			
3. テーマ	新しい教育課題と学年学級経営(1)			
	【学習の目標】新しい教育基本法と学年・学級経営について探究する 【学習の内容】学級の使命と役割、教科指導と学級経営、生徒指導と学級経営 【キーワード】規範意識、学習意欲、生きる力、教科指導と学級経営、生徒指導と学級経営 【学習の課題】21世紀への教育課題と学年学級経営の理解 【参考文献】教育基本法、中央教育審議会答申 【学習する上での留意点】21世紀への教育課題の理解			
4. テーマ	新しい教育課題と学年学級経営(2)			
	【学習の目標】新しい教育基本法と学年・学級経営について探究する 【学習の内容】学級の使命と役割、教科指導と学級経営、生徒指導と学級経営 【キーワード】規範意識、学習意欲、生きる力、教科指導と学級経営、生徒指導と学級経営			

	<p>【学習の課題】 21世紀への教育課題と学年学級経営の理解</p> <p>【参考文献】 教育基本法、中央教育審議会答申</p> <p>【学習する上での留意点】 21世紀への教育課題の理解</p>
5. テーマ	新しい教育課題と学年学級経営(3)
	<p>【学習の目標】 教育観の変遷と学年学級経営の考え方の変遷について探究する</p> <p>【学習の内容】 人間観の変遷と教育、個の理解と良さや可能性を生かす、学級づくりと教師の姿勢</p> <p>【キーワード】 学習指導要領の改訂、学力観と評価観、学級づくりと教師の姿勢</p> <p>【学習の課題】 学年学級経営に影響を及ぼしたことの理解</p> <p>【参考文献】 文部科学省「学習指導要領解説 総則編」</p> <p>【学習する上での留意点】 教育思潮の変遷の理解</p>
6. テーマ	新しい教育課題と学年学級経営(4)
	<p>【学習の目標】 開かれた学校と学年学級経営について探究する</p> <p>【学習の内容】 生きる力、説明責任、自己評価と外部評価、自己管理目標、組織マネジメント</p> <p>【キーワード】 生きる力、説明責任、自己評価と外部評価、自己管理目標、組織マネジメント</p> <p>【学習の課題】 説明責任と評価について理解</p> <p>【参考文献】 教育方法の改善</p> <p>【学習する上での留意点】 社会的な動きと組織運営に留意</p>
7. テーマ	学級経営の方法・進め方(1)
	<p>【学習の目標】 学級集団の性格・機能と成立の条件を確認し、それらについて自分の考えをまとめる。</p> <p>【学習の内容】 学級集団の性格・機能と成立の条件</p> <p>【キーワード】 学級集団の維持機能、課題達成機能、連帯意識、所属感、きまりの確立、成員の願いや欲求の充足</p> <p>【学習の課題】 学級集団の性格・機能と成立の条件</p> <p>【参考文献】 「生徒指導の研究 第三版」</p> <p>【学習する上での留意点】 学級集団の性格・機能と成立の条件の理解</p>
8. テーマ	学級経営の方法・進め方(2)
	<p>【学習の目標】 学級の話し合いの役割と話し合いの進め方について考える。</p> <p>【学習の内容】 話し合いの方法、話し合いのきまり、発言の仕方、学級目標の設定</p> <p>【キーワード】 学習のきまり、話し合いのきまり、発言の仕方、板書のあり方、宿題の考え方</p> <p>【学習の課題】 学級集団での話し合いの役割</p> <p>【参考文献】 「生徒指導の研究 第三版」</p> <p>【学習する上での留意点】 民主的な学級作りを支える話し合いの理解</p>
9. テーマ	学級経営の方法・進め方(3)
	<p>【学習の目標】 教室経営のねらいと具体的内容を理解し、教室経営について自分の考えをまとめる。</p> <p>【学習の内容】 教室経営、生活環境としての教室、学習環境としての教室</p> <p>【キーワード】 生活のリズム、明るく清潔な教室、季節を感じる教室、学習意欲が高まる教室、言語環境としての教室</p> <p>【学習の課題】 教室経営が子どもたちを成長させることの理解</p> <p>【参考文献】 小学校の教室環境（写真資料）</p> <p>【学習する上での留意点】 人間は環境によりその成長が支えられることの理解</p>
10. テーマ	学級経営の方法・進め方(4)
	<p>【学習の目標】 事務経営・連帯経営の概要を理解し、それについて自分の考えをまとめる。</p> <p>【学習の内容】 学級事務の内容、授業とかかわりの深い学級事務、公簿の整理保管、連携経営、連携経営の具体例</p> <p>【キーワード】 学級経営事務、公簿（指導要録・週案・出席簿、健康診断簿）、学級会計、学年経営、T T、ゲストティーチャー</p> <p>【学習の課題】 学級経営に多くの事務がその支えになっていることの理解</p> <p>【参考文献】 実際に小中学校で使用している公簿類</p> <p>【学習する上での留意点】 多くの記録に基づき児童生徒の日々の指導が行われていることの理解</p>
11. テーマ	学級経営の方法・進め方(5)
	<p>【学習の目標】 児童生徒が学校生活に適応するための教師の取り組みの概要を理解し、それについての自分の考えをまとめる。</p> <p>【学習の内容】 学校における不適応児童生徒の問題、学校における適応指導経営</p> <p>【キーワード】 不登校、いじめ、内面的共感、民主的な学級集団作り、心の居場所、人間関係づくり、教室の座席の重要性</p> <p>【学習の課題】 学校不適応の改善と学級経営の重要性の理解</p> <p>【参考文献】 文部科学省「生徒指導提要」</p> <p>【学習する上での留意点】 民主的な学級作りの重要性</p>
12. テーマ	学級経営の組織と計画
	<p>【学習の目標】 学級の組織と編制の考え方と保護者との連携の仕方を理解する。</p> <p>【学習の内容】 学級の役割、学級編制の原則、保護者（家庭）との連携の法制、家庭・地域への学校情報の広報</p> <p>【キーワード】 児童生徒の学習・生活の場、学級編制の基準、特別支援学級、保護者の責任、学校・家庭・地域の連携</p> <p>【学習の課題】 学級編制の実際と家庭・地域と連携の実際</p> <p>【参考文献】 文部科学省「生徒指導提要」</p> <p>【学習する上での留意点】 家庭・地域との連携と開かれた学校の関係</p>

13. テーマ	学年学級経営のリスク・マネジメント(1)
	<p>【学習の目標】 授業中に課題のある個の指導の在り方を探究する</p> <p>【学習の内容】 おしゃべり、LD、理解の遅い子、学習意欲が乏しい子、等の指導</p> <p>【キーワード】 個の理解、他機関との相談、家庭との連携、教材の工夫等</p> <p>【学習の課題】 個々のケースにあった指導事例の研究</p> <p>【参考文献】 教育方法の改善</p> <p>【学習する上での留意点】 ケーススタデーによる理解</p>
14. テーマ	学年学級経営のリスク・マネジメント(2)
	<p>【学習の目標】 校外生活への対応と苦情処理について探究する</p> <p>【学習の内容】 説明責任、上司・同僚への報告・連絡・相談、外部組織との連携、家庭との連携、迅速・丁寧</p> <p>【キーワード】 説明責任、上司・同僚への報告・連絡・相談、外部組織との連携、家庭との連携、迅速・丁寧</p> <p>【学習の課題】 問題解決・処理の進め方</p> <p>【参考文献】 学級経営の改善</p> <p>【学習する上での留意点】 広い視野から経営を見なおす</p>
15. テーマ	学年・学級経営の今後の在り方と授業評価
	<p>【学習の目標】 これからの学年学級経営の在り方についてマネジメントの方向性を探究する</p> <p>【学習の内容】 組織マネジメント、イノベーション、自己管理目標、生きる力</p> <p>【キーワード】 組織マネジメント、イノベーション、自己管理目標、生きる力</p> <p>【学習の課題】 学級経営の課題を抽出し、自己の学級経営の方向を論述する</p> <p>【参考文献】 組織マネジメント</p> <p>【学習する上での留意点】 授業を評価する</p>

1. 科目名 (単位数)	学校救急看護学特論 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5333
2. 授業担当教員	中村 朋子			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>児童生徒の健康が傷病発生時(慢性疾患を抱えている・医療的ケアを受けている場合などの急変も含めて)、① 養護教諭を中心とした児童生徒、教職員は救命、応急手当、安静・休養、保健指導等の対応をする(保健事業 (School Health Service))。② ①を円滑に行うには 教職員の組織、施設・設備、救急薬品等消耗品などの予算、行事、教職員の研修等が必要である。(保健管理・運営 (School Health Management))。③ ①②を支えている外的事項として医療体制、教育委員会、文科省等行政、財政、法律などの保健行政がある (School Health Administration)。これらの構造について理解する。</p>			
8. 学習目標	<p>救急看護は養護教諭と傷病者だけでなく担任や管理者等いろいろな人との関わりで成り立っている事を学ぶ。判断の対象、種類、方法について学ぶ。救急事例の分析ができるようにする。</p>			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	5回、9回、10回、11回、13回、14回の【学習の課題】にある課題でレポートを作成する。			
10. 教科書・参考書・教材	適宜 資料を配布し、文献を紹介する			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度(発表態度、討論参加状況)等50% レポート・課題提出50%			
12. 受講生へのメッセージ	学校救急看護を看護学だけでなく社会学や心理学の理論を取り入れて学習してほしい。関連する文献を読み、発表・討議する。			
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1、2. テーマ	1 学校の救急看護の課題			
【学習の目標】	学校救急看護の課題を検討する。課題を明らかにするにあたって文献の見方や調査研究の方法学ぶ。また、レポートの書き方を学ぶ。			
【学習の内容】	小・中・高校での各自の経験や、病院実習、養護実習等を話題にして救急処置・看護の課題・問題点を検討する文献ではどのようなものになっているかこの15回を通して明らかにしていく。			
【キーワード】	救急処置・看護、学校現場での実態調査、文献調査方法、レポートの書き方			
【参考文献】	村上陽一郎:新しい科学論「事実」理論をたおせるか 講談社 2001、 荻谷剛彦:知的複眼思考法講談社 2006 酒井聡樹:これから論文を書く若者のために 協立出版 2004 山崎茂明:看護研究のための文献検索ガイド 日本看護協会 2005 天野敦子・中村朋子・山崎隆恵他 養護教諭の研究能力に関する研究 日本養護教諭教育学会誌.3 (1) 9-46 2000 中島敦子・津島ひろ江:学校救急処置における新人養護教諭の困難感—頭部外傷事例から— 日本養護教諭教育学会誌 15(1)33-43 2011			
3、4. テーマ	2 学校救急看護の構造			
【学習の目標】	学校看護学の中で学校救急看護の構造を様々な側面から検討する。			
【学習の内容】	1) 事業・サービス(救急処置や看護、医療的ケアを行う。それに伴う保健指導や健康相談を行う。安全教育・安全指導等を行う) 2) 管理運営・マネジメント(学校内で1)を行うために教職員個人、組織について、救急処置や看護を行うための予算、施設・設備を準備する、研修会などの計画等) 3) 学校外の行政・制度等(救急看護に関係する行政・法律、研修、カリキュラム等)。			
【キーワード】	救急処置・看護 医療的ケア、保健指導 救急処置計画・予算			
【参考文献】	三木とみ子他:保健室経営マニュアル ぎょうせい 2008			
【学習の課題】	現在の学校保健の構造の中で学校救急看護が十分に行えるか検討する。			
【学習する上での留意点】	学校保健や学校看護の中での位置付けを検討する。			
5. テーマ	3 学校救急看護の対象者とけがや疾病異常の種類			
【学習の目標】	さまざまな健康状態にある児童生徒のけがや疾病異常について、学校で多発するものや疾患特有の急変状態について知り、その対応も含めて説明できるようになる。			
【学習の内容】	1) けがをしたり、頭痛・腹痛等で具合が悪くなった児童生徒 2) 慢性疾患を抱えている、あるいは既往歴のある疾病の急変や具合が悪くなった児童生徒を対象とする。特に慢性疾患を抱えた児童生徒について検討する。			
【キーワード】	けがや疾病異常の水準による健康問題の種類や性質			
【学習の課題】	特に慢性疾患(アレルギー疾患、心・腎疾患、呼吸器系疾患等)を抱えた児童生徒が急変しやすい健康問題とその対応について、疾患を2つあげレポートを提出する。			
【参考文献】	大塚睦子:障害児に学ぶ教育の原点 養護教諭 35年の実践から 農文協 1994 D.ロジャース小倉学・中村 朋子訳 養護教諭と学校救急—文献紹介 健康教室 213集 35-41 1968 中村朋子・樋口真理子 病弱養護学校における主体的健康管理について 茨城大学教育学部研究紀要 23 1991 鎌田文代・中村朋子:肢体不自由養護学校における医療的ケアに関する研究 茨城大学教育学部紀要 51 2002 福田博美・中村朋子他:学生への医療的ケアの指導方法の検討 愛知教育大学障害児治療教育センター 治療教育学研究 27 73-79 2007			
【学習する上での留意点】	健康問題は身体面、精神・心理面、社会面等多岐にわたることを考察できるようにする。			

6 . テーマ	4 学校救急看護の過程とそれにかかわる人々
<p><b>【学習の目標】</b> 学校救急看護の過程とそこに関わる人々について考察する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 1 問題・病態・傷害態の事実判断⇔2 どんな問題か・問題の程度、問題の意味⇔3 救急処置・看護の決定⇔4 処置ケアの実際・保健指導・経過観察・健康相談・校内、校外の連絡、受診等⇔5 救急処置・看護活動後の学校保健活動・学校保健教育と管理・学校安全教育と管理⇔6 学校救急処置の全体的評価。このように6段階の過程があり、それぞれが双方向になっていること理解する。 それぞれの活動過程で養護教諭は児童生徒、その担任、保護者、部活動の顧問、校医、医療従事者等とかかわっており、養護教諭が他者と関わっていく時にはコミュニケーションが必要であることを理解する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 救急看護の過程 判断、処置・看護、保健指導、安全教育・安全指導。コミュニケーション</p> <p><b>【学習の課題】</b> どの過程も養護教諭一人だけではなく他者がかかわっていることを理解する。</p> <p><b>【参考文献】</b> 杉浦守邦：学校救急処置マニュアル 東山書房 1979 岡美穂子・松枝睦他：養護教諭の行う救急処置—実践における「判断」と「対応」の実際—学校保健研究 53 2001 小倉学：個別的保健指導の進め方 東山書房 1981 内山源：学校保健・養護教諭の救急活動における行為とコミュニケーションの問題と改善 茨城女子短大紀要 38 2011 中村朋子：救急活動時のコミュニケーションのあり方 心とからだの健康 13 8 14-18 2013 バザール・ライリー 渡部富栄訳 看護のコミュニケーション エルゼビア・ジャパン 2007</p>	
7 . テーマ	4-1) 学校救急看護における判断について 4-2) 倫理的判断について
<p><b>【学習の目標】</b> 1) 判断の対象者、判断者、判断の過程、判断の種類 判断を円滑にする方法を考察する。 2) 判断の基礎となる倫理的判断について理解する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 1) 判断の対象者は5回で述べた。養護教諭だけでなく、本人や担任等救急事例に関った他者が関与する。程度が軽い場合は養護教諭と本人で済むが、重症ほど、いろいろな人が判断に関わってくる。判断の過程は6回で述べた。受診させるかどうか、帰宅させるかどうか、休養か授業に出るか、部活動の参加等必ずしも養護教諭の判断が優先されない。判断の種類には倫理的判断、医学的・医事的判断、非医事的判断がある。(8、9回) 2) 倫理的判断は救急看護だけでなく、養護教諭の活動すべてに考慮しなければならないことである。判断者は常に児童生徒にとって何が善き判断か、正しい判断かを考えることが必要である。倫理の原則として一般に無害、善行、自律、公正・正義、誠実・忠義などがあり、それらについて学習する</p> <p><b>【キーワード】</b> 判断者、判断の過程、判断の種類、組織的意思決、倫理的判断、倫理の原則</p> <p><b>【参考文献】</b> 中村朋子：学校救急看護の課題—養護教諭の判断を中心に— 日本養護教諭教育学会誌.18(1) 25-30 2014 鎌田尚子・中村朋子他：養護教諭の倫理綱領(案)作成と共通理解をめざして 日本養護教諭教育学会誌.14 (1) 2011 鎌田尚子・中村朋子他：養護教諭の倫理綱領(案)の理論的・実践的意義 日本養護教諭教育学会誌.16(1) 23-36 2012 服部健司・伊藤隆雄：医療倫理学のABC メヂカルフレンド社 2004 J.Davis 小西恵美子他訳 看護倫理を教える・学ぶ 日本看護協会 2028</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 救急看護の判断は養護教諭だけでなく、本人や周囲の人々が関与していることを学ぶ。</p>	
8 . テーマ	4-3) 医学的・医事的判断
<p><b>【学習の目標】</b> 養護教諭は傷害や頭痛腹痛等具合が悪くなった時の症状から、解剖学・生理学、病理学、各疾病の症状・鑑別診断学等の知識を基準にして、受診など緊急を要するもの、帰宅して保護者にまかせるもの、保健室で安静・休養させるもの、保健室で応急手当てのみで済むもの等を判断していることわかる。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 主訴や随伴症状について判断の方法は視診等の観察、問診、検診(体温・脈拍・呼吸・血圧等の測定)、触診等により、症状の軽重を明らかにして、対応を決めている。判断を正しくするには症状から考えられる診断名の学習が欠かせない。また、慢性疾患を抱えている場合は、個人ごとに急変した時どのような症状が発現するかを知っておくことが必要である。判断を誤れば、その後の対応も誤ったものになってくるので医学的・医事的判断は大切なものであり、医学的・看護的専門知識を持っている養護教諭に最も期待されていることである。しかし、けがした当初、微症状であったり、本人が自分の症状を正しく伝えられなかったり、症状を大げさに言ったり、隠したり、そばにいた担任や部活動の関係者などが症状を見落としたり、過少評価して、判断したりすることもあり養護教諭の判断が受け入れられない場合もある。どうすれば間違いのない判断ができるか考察する。どう対応することも大切である。</p> <p><b>【キーワード】</b> 医学的・医事的判断 フィジカル判断 主訴 養護教諭の判断。他者の判断</p> <p><b>【参考文献】</b> 荒木田由美子・池添志乃他：初心者のためのフィジカルアセスメント 東山書房 2008 三村由香里・松枝睦他：養護実践のための頭部外傷チェックリストの提案 日本養護教諭教育学会誌 11(1) 2011 岡田加奈子・葛西敦子他：養護診断『心理的な要因が存在する可能性のある状態』の診断名と診断指標の開発 日本養護教諭教育学会誌 10(1) 20-37 20</p> <p><b>【学習する上での留意点】</b> 精神・心理状態、社会的側面からみた健康状態の文献はあまりない。各自検討してほしい。</p>	
9 . テーマ	4-4) 非医事的判断
<p><b>【学習の目標】</b> 主に他者が傷病の軽重や対応の判断を症状等医学的・医事的なこと以外で判断することを理解する。</p> <p><b>【学習の内容】</b> 授業・教育優先、経済的、宗教的なこと、部活動優先、管理者の行政のこと等で症状以外のことで受診や帰宅、休養等のことを判断し、養護教諭の判断や対応が変更されることがある。例 担任は教育を優先して保健室での休養を認めない。痛みを我慢して授業を受けさせることが自信につながると無理に体育をさせる。保護者は経済的な理由で、宗教的な理由で受診を認めない。管理職は後で何かあって保護者から文句が出ないように軽傷でも救急車を要請する。本人は部活を休むとレギュラーから外されるので無理に無理な練習をする等。養護教諭と他者がコミュニケーションをとり、けがや疾病をした本人にとって何が善いか判断する。倫理的判断も必要なことを学習する。</p> <p><b>【キーワード】</b> 非医事的判断、症状以外の教育的、宗教的、経済的、行政的判断</p> <p><b>【学習の課題】</b> 雑誌等から非医学的判断をした事例を収集し、レポートを提出する。</p> <p><b>【参考文献】</b> 中村朋子・内山源：学校救急活動における養護教諭の判断と非医事的判断による問題点 安全教育学研究 5(1) 2005 内山源：ヘルスプロモーション・学校保健 第8章学校救急事態における非医学・非医事的判断 家政教育社 2009</p>	



10. テーマ	5 救急看護の管理・運営 1) 救急看護計画 2) 教職員、組織の役割
【学習の目標】	救急看護を円滑に行うために学校内での管理・運営として養護教諭はあらかじめ救急看護計画を立てて教職員に周知徹底しておくことを復習する。
【学習の内容】	1) 学校内の教職員の役割と 2) 救急連絡体制(受診に備えて医療機関や主治医等)を明文化しておく。3) 担任、保健主事、部活の関係者、保護者等誰が、どんなことを誰に連絡するか、救急連絡体制はどうなっているか学習する。
【キーワード】	救急看護計画 教職員の役割、連絡体制 医療機関の選択
【学習の課題】	このテーマは多くの参考文献があるので、救急体制について収集し、それらを参考にし、小、中、高どれかに校種を決め救急体制を作成し、事例を当てはめ、検討したレポートを提出する。
11. テーマ	5 救急看護の管理・運営 3) 施設・設備、予算
【学習の目標】	救急看護を円滑に行うには救急処置や看護に使用する備品・救急薬品・衛生材料が必要である。慢性疾患児童生徒の急変に備えて必要な消耗品や備品の準備、休養などに必要な保健室の施設設備等を理解する。それらを十分に確保するための予算について理解する。
【学習の内容】	必要な備品・救急薬品・衛生材料を学校医・学校薬剤師と相談して準備していることを学習する。慢性疾患の急変に備えて準備しておくものは主治医・保護者と連携して決め、管理しておく場所も決めておく。
【キーワード】	救急薬品・衛生材料、保健室の設備、備品 予算
【学習の課題】	救急看護を行うために保健室の設備(ベッドや寝具類等)配置をどのようにすればよいか校種、規模を考慮し、配置図を入れたレポートを提出する。
【参考文献】	中村 朋子・内山源他：学校保健・養護教諭の活動と予算に関する調査研究 茨城大学教育実践研究 15 191-206 1996 内山源：ヘルスプロモーション・学校保健 第 9 章 学校保健活動と予算の条件 家政教育社 2009
【学習する上での留意点】	救急看護だけでなく学校保健活動を行うためには予算が必要なことを理解してほしい。
12. テーマ	6 学校救急看護と関連する地域医療 学校保健行政や関連する法律・制度
【学習の目標】	救急看護を円滑に進めるには学校外の要因(外的事項)である地域の医療関係・福祉施設、行政に関連する法律・制度、カリキュラムなどがあることを考察する。
【学習の内容】	救急看護で受診する場合の医療機関や福祉施設などの利用の仕方を学習する。救急看護が十分に実施できるためには学校保健法だけでなく医師法・保助看法等多くの法律が関与する。また、事故が発生すれば法的責任が発生する場合もある。養護教諭養成の中で、看護や救急看護のカリキュラムをどうすればよいか検討する。
【キーワード】	救急看護を円滑に進めるには関連する学校外の要因(外的事項)法律、制度 養成課程のカリキュラム、学校事故
【学習の課題】	救急看護が円滑に行くには学校内(内的事項)だけでなく学校外の要因があることを理解する。
【参考文献】	中村朋子・内山源：学校保健における救急処置・看護の問題点と外的事項・法制度への改善へ 茨城大学教育学部紀要 46 233-253 1997 内山源：ヘルスプロモーション・学校保健 第 11 章 学校保健活動の改善、推進と養護教諭の人事 家政教育社 2009 中村朋子・内山源：学校保健・管理行政における養護教諭の人事に関する問題とアドボカシー 東邦学誌 39 (1) 2010 福田博美・中村朋子他：教育学部養護教諭養成の看護系科目の卒業生の学習ニーズ 学校保健研究 45(4) 2003 入沢充：学校事故 知っておきたい! 養護教諭の対応と法的責任 時潮社 2009 児玉悦子・鈴木木津子：学校事故から子どもを守る 判例に学ぶ教師の実践マニュアル 農文協 2006 鈴木路子・関口恵美・原千恵子他：公衆衛生看護ノート 教育新聞社 2014
13,14. テーマ	7 1) 傷害を負った児童生徒の救急事例の分析 2) 慢性疾患を抱えた児童生徒の急変の事例の分析
【学習の目標】	救急事例の記述をする時の観点を理解し、レポートにまとめる。
【学習の内容】	各自のけがや疾病異常の経験、養護実習での経験、あるいは友人の体験や文献から、①傷害の事例 ②疾病異常・医療的ケア必要とする救急事例について、これまで学んできた学習の内容を取り入れレポートにする。そのレポートをお互いに読みあい事例を共有する。意見、疑問点等批評する。それらを参考に新たな課題を含めて検討し、再度、改善されたレポートを提出する。 14 回で最終報告の発表をする。
【キーワード】	けがや疾病異常の事例 事例の記述
【学習の課題】	お互いの事例を批判的に読むことができる。
【参考文献】	中村朋子他：養護教諭の倫理綱領(案)を活用した実践事例の検討 第 21 回日本養護教諭教育学会大会 88-89 2013 中村朋子：救急事例の対応について学生が学んだことー養護実習中の事例を通してー 第 6 回日本養護教諭教育学会大会 40-41 1998
15. テーマ	8 まとめ
1, 2 回の授業で学校救急看護の課題について検討してきた。それらの課題が授業を通して解決したか、残された課題やさらに新たな課題について話し合う。文献の読み方や、レポートの書き方ができるようになったかまとめる。	

1. 科目名 (単位数)	学校救急看護学特論 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	EDMP5333
2. 授業担当教員	宋 暁鈞			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし			
7. 講義概要	乳幼児期から児童期・青年期までの心身的な発達段階において、各成長時期に発生しやすい疾病とその症状、そしてその経過を学ぶ。それを踏まえ、学校で求められている看護の機能や役割、応急措置の基礎知識と技術を学習する。特に、生徒の心身の発達段階において、事故や疾病の悪化、感染症防止対策等で救急看護が必要とされる各事項を理解する。また、具体的な事例を分析し、予測される疾病と対応方法について研究討議する。 学校での保健事業、保健管理・運営、保健行政等の構造について理解する。			
8. 学習目標	生徒の各発達時期に発生しやすい疾病とその症状を把握した上で、判断の対象、種類、方法について学ぶ。各々の事例分析することもできるようになる。 救急看護は養護教諭と傷病者だけでなく担任や管理者等いろいろな人との関わりで成り立っている事も学んで理解ができるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	1. 学童期から青年期まで、 ①この時期の心身発達の特徴についてレポート提出。 ②この時期に起こりやすい健康問題についてレポート提出。 2. 事例研究、救急看護レポート提出。 症状別と観察ポイント及び救急処置 1) 外科性疾患 (外傷) 2) 内科性疾患 (慢性疾患の急性的発作)			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 岡田加奈子等『養護教諭、看護師、保健師のための学校看護—学校環境と身体的支援を中心に』東山書房、2012年。 必要に応じて参考資料を配布する。 【参考書】 杉浦守邦『改訂 養護教諭のための診断学 内科編』東山書房、2012年。 杉浦守邦『改訂 養護教諭のための診断学 外科編』東山書房、2010年。 舟島なをみ『看護のための人間発達学』医学書院 2011年。 藤崎郁『フィジカルアセスメント 完全ガイド』学研 2012年。 高田明和『からだのしくみと病気がわかる事典』日本文芸社、2005年。 今村顕史『感染症に強くなる』JJN スペシャルNo82 医学書院 久木野憲司『解剖生理学 (標準栄養学講座)』金原出版株式会社、2007年。 高橋長雄『からだの地図帳』講談社、2010年。 その他、適宜、資料・文献を配布する。			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 (発表態度、討論参加状況) 等 50% レポート・課題提出 50%			
12. 受講生へのメッセージ	学校救急看護は、救急対応に必要な知識や基礎的技術を理解・習得するだけではなく、社会学や心理学の理論を取り入れた授業をしたい。「臨床教育学」の構築への学校救急看護学的アプローチをめぐって、興味を持って取り入れた授業をしたい。 積極的に授業に参加し、関連する文献を読み、発表・討議する。			
13. オフィスアワー	授業のない時間帯に、何時でも結構であるが、研究室で受ける。どんな事でも気軽に来て相談することができる。			
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習の上でのポイント等】				
1～2. テーマ	学校救急看護の管理・運営、行政等			
【学習の目標】	学校で求められている看護救急のシステムや役割について学ぶ。 現在実施している学校救急看護制度を理解する。			
【学習の内容】	1. 学校における救急処置の意義。 2. 救急看護の管理・運営： ①ヒト：学校内、人、組織、救急体制 ②モノ：予算、保健室の施設、設備等 ③コト：計画、行事、活動、現職教育等 3. 行政等：学校保健安全法等学校保健法、医療体制、カリキュラム、制度等。			
【キーワード】	学校救急体制、保健室の設備、管理運営、組織的連携。			
【学習の課題】	1. 学校での救急看護の管理・運営、行政等の適切か否かの検討を行う。 2. 救急と看護の意義について解説すること。			
【参考文献】	岡田加奈子等『学校看護』、東山書房、2012年 学校救急医学全書、東山書房、1990年			
【学習の上での留意点】	学校救急看護システムについて、その内容を整理しておく。 学校と病院との相違点を留意する。			

3～5.テーマ	人間発達概論（乳幼児期・児童期・青年期の心と身体の特徴）
【学習の目標】	人間のライフサイクルと発達について理解する。
【学習の内容】	乳幼児期、児童期、青年期の各時期における心と身体の特徴。
【キーワード】	乳幼児期、児童期、青年期、心と身体の発達
【学習の課題】	幼児期から青年期までの発達における共通性及び各時期に起こりやすい健康問題について考察する。
【参考文献】	舟島なをみ『看護の為の人間発達学』、医学書院 2011年 大谷尚子『養護教諭の為のフィジカルアセスメント』、日本小児医事出版社 2011年 久木野憲司他『解剖生理学（標準栄養学講座）』、金原出版株式会社 高橋長雄『からだの地図帳』、講談社、2010年
【学習する上での留意点】	人間の各発達時期に相違点があることに留意する。
6～7.テーマ	救急看護の基本事項
【学習の目標】	緊急状況での正しい判断することを学ぶ。
【学習の内容】	問診、救急処置、経過観察、治癒するまで、症状の判断方法と対応。 ①問診を通して、症状を判断する。 ②傷病児の観察：全身および局所のすばやい観察によって、重症度を判断する。 1) 部位別と観察ポイント。 2) 症状別と観察ポイント。 ③応急処置を行う。
【キーワード】	問診、経過観察、緊急対応。
【学習の課題】	問診及び観察のポイントについて学ぶ。
【参考文献】	岡田加奈子等『学校看護』、東山書房、2012年 杉浦守邦『改訂養護教諭の為の診断学・内科編』、東山書房、2012年 杉浦守邦『改訂養護教諭の為の診断学・外科編』、東山書房、2010年
【学習する上での留意点】	問診と経過観察の重要性を理解する。
8～12.テーマ	救急処置に必要な基本的手技
【学習の目標】	学校で求められている救急処置の基礎知識、技術を学ぶ。
【学習の内容】	①観察のポイント(生命徴候) ②救急処置(心肺蘇生術、気道異物除去法、止血、搬送法等) ③感染症対策。
【キーワード】	生命徴候、心肺蘇生術、感染防止。
【学習の課題】	それぞれの症例の応急処置方法について考えておく。
【参考文献】	杉浦守邦『改訂養護教諭の為の診断学・内科編』、東山書房、2012年 杉浦守邦『改訂養護教諭の為の診断学・外科編』、東山書房、2010年 高田明和『からだのしくみと病気がわかる事典』、日本文芸社 今村顕史『感染症に強くなる』、JJN スペシャルNo82 医学書院
【学習する上での留意点】	生命徴候の観察と心肺蘇生術について重視しよう。
13.テーマ	事例分析、救急看護レポート提出①
【学習の目標】	基礎疾患の急性増悪(内科的疾患)を原因とする訴えを取り上げ、実際の内科的救急処置方法を学ぶ。
【学習の内容】	気管支喘息、小児癲癇、感染症の予防対策。
【キーワード】	気管支喘息、小児癲癇、感染症予防
【学習の課題】	慢性持病の子供が急性発作際に、どのように正しくかつ迅速的な対策を取ればよいかについて考える。
【参考文献】	岡田加奈子等『学校看護』、東山書房、2012年 杉浦守邦『改訂養護教諭の為の診断学・内科編』、東山書房、2012年 大谷尚子『養護教諭の為のフィジカルアセスメント』、日本小児医事出版社 2011年
【学習する上での留意点】	基礎疾患の急性増悪際に、様々な対応があるということを覚えておく。
14.テーマ	事例の分析、救急看護レポート提出②
【学習の目標】	負傷（外科的疾患）等、具体的な知識と処置方法を学ぶ。
【学習の内容】	外傷、骨折、出血、熱傷の緊急対応。
【キーワード】	外傷、骨折、出血、熱傷
【学習の課題】	負傷した子供に、どのように正しくかつ迅速的な対策を取ればよいかについて考える。
【参考文献】	杉浦守邦『改訂養護教諭の為の診断学・外科編』、東山書房、2010年 大谷尚子『養護教諭の為のフィジカルアセスメント』、日本小児医事出版社 2011年 高田明和『からだのしくみと病気がわかる事典』、日本文芸社 久木野憲司他『解剖生理学（標準栄養学講座）』、金原出版株式会社 今村顕史『感染症に強くなる』、JJN スペシャルNo82 医学書院
【学習する上での留意点】	負傷した際に、様々な対応があるということを覚えておく。
15.テーマ	まとめ
【学習の目標】	第1回から14回を振り返って、学校看護救急の主に内容について概観する。
【学習の内容】	キーワードの意味の復習、実践への応用について考えをまとめる。
【学習の課題】	緊急処置の方法を覚えておくこと。
【参考文献】	杉浦守邦『改訂養護教諭の為の診断学・内科編』、東山書房、2012年 杉浦守邦『改訂養護教諭の為の診断学・外科編』、東山書房、2010年
【学習する上での留意点】	急に症状が出る際に、様々な対応があるということを覚えておく。

1. 科目名 (単位数)	カリキュラム開発特論 (2 単位)	伊勢崎・名古屋	3. 科目番号	EDMP5319
2. 授業担当教員	【伊勢崎】関口 恵美 【名古屋】鈴木 路子			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>学校は、子どもに何を教え、何を学ばせるのか。この「何を」の教育内容を、子どもの必要と社会の必要との基づいて検討し、構造化し、評価するのが学校カリキュラム研究の基本的課題である。子ども達が心身ともに健全に豊かに発達することを保障するカリキュラム編成の問題は、学校の教職員が各学問分野の研究者、教育行政の担当者、地域の父母・住民等の協力を得ながら、様々な角度から研究し、周知を集めて改革・改善に取り組みなくてはならない一大事業でもある。こうした視点に立って、本講では、学校カリキュラム研究の理論と方法を扱った基本文献を講読し、さらにこれらと関連したカリキュラムの実践事例の資料等も検討しながら、カリキュラムについて実証的に研究する方法の基礎を理解する。ここでは、今回改訂の学習指導要領(平成 20 年版)で、「生きる力」を育むという理念が、社会においても子ども達に必要となる力であるとして、これからの日本の教育のあり方を決める鍵になるとの考え方が示されたことに注目する。その上で、現在どのようなカリキュラムが学校現場で実践されているのか、その現状を具体的に把握し今日的課題を明らかにする。ここでは、1996 年の中央教育審議会答申で提示された学校・家庭・地域社会の連携による教育の充実に注目する。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校カリキュラム研究の理論と方法を扱った基本文献を講読する。</li> <li>2. 文献資料の要点を読解し、最近の改革動向をも含め学校カリキュラム研究の基本的知見を整理する。</li> <li>3. 学校カリキュラムについて実証的に研究する方法の基礎を理解する。</li> <li>4. 「総合的な学習の時間」の実践例を分析し、「総合的な学習の時間」の効果的なカリキュラムを示唆する。</li> <li>5. カリキュラムの概念とその系譜を理解する。</li> </ol>			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>①わが国の学校カリキュラムを支える思想がどのように変遷しどのように展開されたか、その今日的意義と課題は何かについて述べよ。</li> <li>②カリキュラム編成の規定要因とそれらが教師の教育活動に与える影響について述べよ。</li> <li>③総合的な学習の時間の意義と課題について述べよ。</li> </ol>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 山口満編著「第二版カリキュラム研究」学文社、2005</p> <p>【参考文献】 Becker,H.S.et al.(1961) Boys in White:Student culture in medical school,Univ. of Chicago Press. Filer,A.(2000)Assessment:Social Practice and Social Product,Routledge Falmer. 田中統治編「カリキュラム評価の考え方・進め方」教育開発研究所 安彦忠彦編「新版カリキュラム研究入門」勁草書房</p>			
11. 成績評価の方法	<p><b>評価の基準</b> A : 100~90 / B + : 89~80 / B : 79~70 / C : 69~60 / F : 59点以下</p> <p><b>評価の方法</b> レポート(論文)の評価、単位認定試験の評価それぞれに GP(グレードポイント)を付与し、修得した各ポイントの平均(グレードポイント・アベレージ)を、A、B+、B、C、F いずれかの評価に換算し、それぞれの総合評価が合格決定された場合のみに単位が与えられる。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>新しい学習指導要領の掲げる理念である「知識・技能を活用する能力」「学習意欲や学習習慣」「生き力」などを子どもの身につけさせることのできる高い専門性と力量を持った教師・研究者になるためには、教育課程について法令、歴史、理論、実践などの観点から多角的に研究することが不可欠である。院生一人ひとりの学習に沿いながら教師はそのコーディネーターの役割をつとめるので準備と積極性が望まれる。</p>			
13. オフィスアワー	<p>オフィスアワーの時間は掲示する。</p>			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1~3. テーマ	カリキュラム開発の理論と方法			
	<p>【学習の目標】カリキュラムの概念とその開発理論について研究を深める。</p> <p>【学習の内容】カリキュラムの概念、カリキュラム開発の今日的な課題、カリキュラム開発の方法(SBCDによるカリキュラム開発法のとらえ方)カリキュラム開発の三つのモデル、カリキュラムの効果研究の課題</p> <p>【キーワード】カリキュラムの概念、カリキュラム開発、カリキュラム開発の方法、カリキュラムの効果</p> <p>【学習の課題】カリキュラムの基本的な考え方や基礎理論について文献を講読し研究を深める。わが国の学習指導要領の変遷と、それに伴って教育課程がどのように改革されたか、総合的な学習の時間がどのように構想され展開されたか、さらにはカリキュラム開発の方法について研究し、その今日的課題について考察する。</p> <p>【参考文献】上記 10 で挙げた教科書・参考書</p>			
4~6. テーマ	カリキュラム開発の歴史的成果			
	<p>【学習の目標】教育課程を支える思想について研究を深める。教育課程の異なる重要な要素として、子どもの成長や生活を重視する立場(経験主義)と科学・学問の理論体系を重視する立場(系統主義)との二つが取り上げられる。こうした思想はどのような時代背景のもとで提唱され、批判されたのか、また今日的意義と課題は何かを考察する。</p>			

	<p>【学習の内容】 コア・カリキュラム、経験主義カリキュラム、系統主義カリキュラム児童中心カリキュラム、学問中心カリキュラム、カリキュラム類型、2008年改訂の教育課程観 総合的な学習の時間の創設と課題</p> <p>【キーワード】 経験主義、系統主義、コア・カリキュラム、カリキュラム類型、総合的な学習の時間、生きる力</p> <p>【学習の課題】 カリキュラムには様々な考え方があ。子どもの何をのぼしたいか、子どもに何を伝えたいかによっても違ってくるし、何を重視するかによってカリキュラムの中身も異なってくる。諸外国と対比しつつ、日本においては、カリキュラム開発を支える思想がどのように変遷し、どのように展開されたか、その問題点は何かについて研究を深め考察する。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた教科書・参考書</p>
7～9.テーマ	カリキュラム評価
	<p>【学習の目標】 日本において、カリキュラム研究の不可欠の要素として、カリキュラム評価の重要性が認識されるようになったのは、昭和 20 年代に当時の文部省が新教育、経験主義教育を推進し、学校における教育課程編成を強調するとともに、教育課程評価をしっかりとすることとして出された 1951 (昭和 26) 年学習指導要領からである。その後、1958 (昭和 33) 年より、学習指導要領が「告示」されるようになって、教育実践に対する拘束性を強めていくなかで、その文書から「教育課程の評価」の項目が削除された。しかし地方分権化の時代を迎えて、「学校を基礎にしたカリキュラム開発」の必要性が強調されるようになってきている。あらためて、「カリキュラム評価」の今日的意義を研究し、今後の新しいカリキュラム評価の方向を考察する。</p> <p>【学習の内容】 カリキュラム評価とは何か、カリキュラム評価とその対象、意義、目的、視点 学力をどう捉えるか、見えやすい学力・見えにくい学力、今後のカリキュラム評価の課題</p> <p>【キーワード】 カリキュラム評価、対象、目的、意義、課題、学力</p> <p>【学習の課題】 教育目標の達成がなされたかどうかをみるためには、それがどのように子どもの中に実現されたかが重要なポイントになる。そこには、学力をどう捉えるか、その評価はどのようなされるかの問題がある。戦後の日本の学力観の変遷、ならびに諸外国と日本のカリキュラム評価の実態を整理・分析し、これからの望ましいカリキュラム評価のあり方を考察する。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた教科書・参考書</p>
10～12.テーマ	特色あるカリキュラム開発の現代的試み
	<p>【学習の目標】 2002 年からの総合的な学習の時間の導入に先立って総合的な学習に対する考察が多く行われ、賛否や教育方法が論議されてきた。その多くが教師サイドからの理念や学校における実践事例のケーススタディが中心であった。本講では、「総合的な学習の時間」がどのような経緯で創設され、どのような改訂が行われたのか、その位置づけとねらいは何か、諸外国 (特にカナダやドイツ) と対比しながら研究を深める。さらに、各学校で取り組まれている実践事例を収集し検討をくわえながら、その創意工夫や成果を明らかにする。その上でカリキュラムについて実証的に研究する基礎を身につける。</p> <p>【学習の内容】 「総合的な学習の時間」の位置づけとねらい、総合的な学習による学校改革の課題 研究開発学校のカリキュラム開発事例とその評価、特別支援学校のカリキュラム開発事例とその評価 カリキュラム評価を活用した実践事例</p> <p>【キーワード】 総合学習、「生きる力」、研究開発学校・特別支援学校のカリキュラム開発事例、カリキュラム改善事例</p> <p>【学習の課題】 「総合的な学習の時間」のように学校が創意工夫を凝らして開発している実践事例を収集し検討する。成功した事例だけでなく失敗した事例についても考察して、カリキュラム開発を継続させる要因 (学習環境も含めて) を明らかにする。これらの活動を通してカリキュラム調査研究の観点と手法の基礎を習得する。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた教科書・参考書</p>
12～15.テーマ	福祉・保健と連携したカリキュラム開発の試み
	<p>【学習の目標】 「総合的な学習の時間」は、1998 (平成 10) 年学習指導要領で新設されたが、その中で、今後の社会を生きる子どもに求められる資質や能力を「生きる力」と名付け、これをバランスよく育成することがこれからの教育に求められるとし、この「生きる力」を育成する柱の一つとして「総合的な学習の時間」が構想された。今では「総合的な学習の時間」は、カリキュラム上の位置づけが一層明確となり、学校教育における重要性がより一層高まっている。</p> <p>【学習の内容】 「総合的な学習の時間」の創設とその内容、総合学習と総合的な学習 2008 (平成 20) 年学習指導要領での「総合的な学習の時間」の改訂 学習指導要領上の「総合的な学習の時間」の特徴、日本及び諸外国の実践例</p> <p>【キーワード】 総合的な学習の時間、生きる力、学習指導要領</p> <p>【学習の課題】 わが国のみならず諸外国においても総合的な学習は、比較的新しい試みで、従来の教科教育、さらには学校教育全体の改革と結びついて構想されたもので、カリキュラム改革の重要な一つの焦点となっている。しかし、わが国では当初から教育現場において多くの誤解や混乱を招き、専ら特定の教科の知識・技能の修得を図るために費やされたり、運動会の準備などと混同された実践が行われた結果、当初の趣旨が達成されないばかりか、総合的な学習の時間に対する批判が高まったこともあった。こうした経緯をふまえ、カリキュラムにおける「総合的な学習の時間」の位置づけを明確にし、その意義について考察する。また、多くの実践例を分析し、「生きる力」を育むための「総合的な学習の時間」の効果的なカリキュラムを示唆する。</p> <p>【参考文献】 Lynne E.Yirginia Hayes(2008).Transforming Health Promotion Practice Concepts,Issues,and Applications (高野順子・北山秋雄監訳「ヘルスプロモーション実践の変革」日本看護協会出版会) R.P.Liberman,W.J.DeRisi,K.T.Mueser(1992)Social Skills Training for Psychiatric Patients (池淵恵美監訳「精神障害者の生活技能ガイドブック」医学書院) 奥野英子・関口恵美他著「自立を支援する社会生活力プログラム・マニュアル」中央法規</p>

1. 科目名 (単位数)	カリキュラム開発演習 (2 単位)	伊勢崎・名古屋	3. 科目番号	EDMP5320
2. 授業担当教員	【伊勢崎】関口 恵美 【名古屋】鈴木 路子			
4. 授業形態	講義・演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	「カリキュラム開発特論」を履修後に、本科目を履修するのが望ましい。			
7. 講義概要	学校カリキュラムの研究開発の動向とともに、カリキュラム開発に必要な児童・生徒の現状や興味・関心、地域・保護者や教師の教育観や子ども観等について資料や情報を収集する。さらに特色あるカリキュラムを実施しているいくつかの学校を見学し、カリキュラムの教育的効果と課題について考察する。本学の教育理念を実現するためのカリキュラム案を開発し、実施にむけた課題の解決を提言する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カリキュラムの概念とその開発理論について文献を読解し研究する。</li> <li>2. カリキュラムの評価について文献を読解し、カリキュラム評価の方法を研究する。</li> <li>3. カリキュラム開発の様々な実践例を収集し検証する。</li> <li>4. 他領域のプログラムを応用しつつ、本学の教育理念を実現するための特色あるカリキュラムを開発する。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>①学校カリキュラムの概念とその開発理論について述べよ。</li> <li>②カリキュラム評価とは何か、またその方法について述べよ。</li> <li>③カリキュラム・マネジメントとは何か、またなぜそれが必要かについて述べよ。</li> </ol>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】</p> <p>山口満編著「第二版現代カリキュラム研究」学文社 2005 安彦忠彦編「新版カリキュラム研究入門」勁草書房 2009</p> <p>【参考文献】</p> <p>Fournier,D.M.(2005)"AVALUATION",in Mathison,S.(ed.),Encyclopedia of Evaluation,Sage, Mathison,S.(ed.) (2005) Encyclopedia of Evaluation,Sage 田中統治・根津朋美編著「カリキュラム評価入門」勁草書房 2009 田中統治編「カリキュラム評価の考え方・進め方」教育開発研究所 2005 奥野英子・関口恵美他著「自立を支援する社会生活力プログラム・マニュアル」中央法規、2006 奥野英子編著「実践から学ぶ社会生活力支援」中央法規、2007 小林正幸・相川充編著「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる」図書文化、2002</p>			
11. 成績評価の方法	<p><b>評価の基準</b></p> <p>A : 100~90 / B+ : 89~80 / B : 79~70 / C : 69~60 / F : 59点以下</p> <p><b>評価の方法</b></p> <p>レポートの評価、単位認定試験の評価それぞれに GP(グレードポイント)を付与し、修得した各ポイントの平均(グレードポイント・アベレージ)を、A、B+、B、C、F いずれかの評価に換算し、それぞれの総合評価が合格決定された場合のみに単位が与えられる。</p> <p>面接授業では、出席状況やディスカッションへの積極的な参加、授業中に課す小課題やレポート、試験等の成績を教員が総合的に判断し、A、B+、B、C、F いずれかの評価を付与する。</p> <p>レポート(論文)、単位認定試験、スクーリング等にすべて合格しないと総合評価の成績はつかない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	授業の最終目標は、児童生徒の抱えている問題の解決に有効な特色あるカリキュラムを各人が構築することにある。そのために、カリキュラム開発理論や評価理論の文献を読解し研究を深めること、実践事例を調査収集、検証し、カリキュラム改善への示唆を得ることが重要である。目標達成に向けて積極的な参加が望まれる。			
13. オフィスアワー	後日通知。			
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1~3. テーマ	カリキュラム評価の理論と方法			
	<p>【学習の目標】カリキュラム評価の理論と方法について深く研究する。</p> <p>【学習の内容】カリキュラム評価の必要性と意義、カリキュラム評価の理論と方法、中高一貫校のカリキュラム評価 特別支援学校のカリキュラム評価、カリキュラムと評価活動</p> <p>【キーワード】学校カリキュラム、評価、評価理論、方法、評価活動</p> <p>【学習の課題】カリキュラム評価は、調査データをもとに目標の達成状況を把握し、カリキュラムそれ自体を評価する活動であるが、その際、学習者の行動変化より以上に、実践者が取り組むべき改善点を明確にしたい。その視点で、本単元では、学校カリキュラム評価についての基本文献・資料を講読し研究を深める。その上で、批判点を指摘しながら独自の見解が述べられるようになる。</p> <p>【参考文献】上記 10 で挙げた教科書・参考書</p>			
4~6. テーマ	カリキュラム開発の実践例の検討ー「生きる力」を育む教育カリキュラム			
	<p>【学習の目標】平成 10 年学習指導要領において、「総合的な学習の時間」は「生きる力」の学習をめざす時間とされ、学校教育の重要なキーワードとなった。本単元では、各学校が創意工夫を凝らして開発している実践例を、小学校・中学校・高等学校の校種別に調査・収集する。その際、成功した事例だけでなく失敗した事例もあわせて収集し検証する。成功した要因と失敗した要因を明らかにし、カリキュラム開発の改善に向けた提言をする。</p> <p>【学習の内容】「総合的な学習の時間」の特色あるカリキュラムを実践している学校を訪問し、実践事例を調査・収集する。収集した事例の検証と評価を行う。</p> <p>成功した要因と失敗した要因を明らかにする。</p> <p>カリキュラム改善のための示唆を得る。</p>			

	<p>【キーワード】総合的な学習の時間、生きる力、生きる力を育む</p> <p>【学習の課題】総合的な学習の時間は、小学校3～6年生・中・高等学校において、週2～3時間が割り当てられ、児童生徒の興味関心に従った、問題解決的な学習を行うこととされた。授業の内容は、国際理解、情報、環境、福祉・健康といった教科を超えた横断的な課題が例として示された。戦後教育の歴史の中で、かつてないほどの大きな授業作りの可能性が、個々の教師に与えられたと言える。「教育の基調の転換」とさえいわれた「総合的な学習の時間」のカリキュラムの実践例から、カリキュラム開発を継続させる今日的要因を明らかにする。</p> <p>【参考文献】上記10で挙げた教科書・参考書</p>
7～9. テーマ	教育と福祉の連携Ⅰ－社会生活力プログラムを応用したカリキュラム開発
	<p>【学習の目標】近年、学校教育を取り巻く環境が劇的に変化している。例えば、子どもの安全や喫煙・飲酒・薬物乱用・暴力やいじめ等の人間関係の関する問題が深刻化している。これらの問題を放置しておけば学校教育の基盤が崩壊しかねない。ところが、従来の学校教育の範囲ではこうした問題に適切に対処することが難しい。そこで、急激に変化する社会のニーズと、それに十分に対応できない学校の現状の間にあるギャップを埋めるもの、学校カリキュラムを補完するものとして、教育プログラムの役割が期待されている。その中でも、従来の学校教育の枠組みに縛られず、社会のニーズを直接的に取り組んだ内容によって構成される、学校外の団体によって開発された教育プログラムは特に注目される。各種の外部団体による教育プログラムは、現代社会のニーズを直接的に反映した、斬新な教育内容を提供している。そこで本単元では、わが国において実践されている外部団体によって開発された「社会生活力プログラム」に焦点化する。このプログラムを学校教育に導入する際に生じる問題について考察し、日本の教育プログラム評価の現状における課題を明らかにすることを試みる。さらに、学校が主体となって、教育プログラムを活用したカリキュラム改善を進めるための提言をする。</p> <p>【学習の内容】社会リハビリテーションと社会生活力、社会生活力プログラムの基本理念、社会生活力プログラムの実施方法、社会生活力プログラムの構成、実践事例の収集と分析、カリキュラム開発への応用</p> <p>【キーワード】社会リハビリテーション、社会生活力、社会生活力プログラム</p> <p>【学習の課題】障害児教育の分野でみるならば、様々な障害をもつ一人ひとりの生徒のニーズに基づいて作成する個別的教育支援計画や移行支援計画において、「社会生活力」を高めるためのプログラムが組み込まれ、実施することが社会に出て行く準備教育として有効であるといわれる。中部地方の特別支援学校での実践例に基づいて分析と考察を深める。</p> <p>【参考文献】奥野英子・関口恵美他著「自立を支援する社会生活力プログラム・マニュアル」中央法規、2006 奥野英子編著「実践から学ぶ社会生活力支援」中央法規、2007 関口恵美「障害者の地域生活を支援するプログラムの開発と評価に関する実証的研究」 日本高齢者保健福祉学会誌第3号</p>
10～12. テーマ	教育と福祉の連携Ⅱ－生活技能訓練（Social Skills Training）を応用したカリキュラム開発
	<p>【学習の目標】生活技能訓練（SST）とは、利用者の希望に基づき、人との関わり行動をより適切で効果的に行うことができるよう手助けする援助の方法である。利用者の「ものの見方」「理解や判断」「言動の仕方」の学習を助けるもので、認知行動療法の一つに位置づけられている。人間をはじめとする動物の行動の原理について科学的に研究を重ねた行動理論や社会学習理論を基礎理論としている。わが国では、精神障害のある人たちの病院や社会復帰施設、少年院や保護観察所等の矯正施設、障害者施設等で積極的に採り入れられ活用されている。特別支援学校等の教育現場にも広がりを見せている。本単元では、このSSTに焦点化する。教育現場で開発・実践されている事例の検証を行い、このプログラムを学校教育に活用する際に生じる問題について考察する。</p> <p>【学習の内容】SSTの定義、目的、基礎となる理論、SSTの方法と手順、実践事例の収集と分析、カリキュラム開発への応用</p> <p>【キーワード】SST、社会生活技能、関わり行動、モデリング、ロールプレイ</p> <p>【学習の課題】1980年代後半頃から「小学生が変になってきた」と言われ始め、ここ十年、社会性にかかわる問題がますます際だってきた。「友達と遊べない」「孤立している」など非社会的な子どもと、「すぐに怒り出す」「泣き出したら止まらない」など感情のコントロールができない子どもが確実に増えている。学級崩壊がいわれる所以である。小学校や特別支援学校の教育現場で行われている事例を調査収集し、検証する。その結果に基づいてSSTを活用したカリキュラム改善を進めるための考察を深める。</p> <p>【参考文献】R.P.Lieberman, W.J.DeRisi,K.T.Mueser「Social Skills Training for Psychiatric Patients」1992 (池淵恵美監訳「生活技能訓練ガイドブック」医学書院、1992) Personal Effectiveness: Guiding People to Assert Themselves and Improve Their Social Skills by Robert Paul Liberman, Larry W, King, (安西信雄監訳「生活技能訓練基礎マニュアル－対人的効果訓練：自己主張と生活技能改善の手引き」2000) 小林正幸・相川充編著「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる」図書文化、2000</p>
12～15. テーマ	身近な生活課題を対象にした特色あるカリキュラムの開発
	<p>【学習の目標】これまでのカリキュラム開発についての調査研究を基に、受講者が自身の専門分野や研究テーマについてより深く理解するために役立つような教材を選択し、カリキュラム開発について系統的にレポートを作成することを目標とする。</p> <p>【学習の内容】自身の専門分野や研究テーマに関連するカリキュラム開発についての教材を選ぶ。 教材を活用した特色あるカリキュラム（案）を構築する。</p> <p>【キーワード】特色あるカリキュラム、生活課題</p> <p>【学習の課題】これまでの授業で、各地の学校で実践されているカリキュラムを調査収集し検証してきた。カリキュラム改善をすすめるための問題点も明らかになった。この結果から各人が、自身の専門分野や研究テーマに基づいたカリキュラム（案）を構築する。</p> <p>【参考文献】上記10で挙げた教科書・参考書</p>

1. 科目名 (単位数)	環境教育学特論 (2 単位)	伊勢崎・名古屋	3. 科目番号	EDMP5322
2. 授業担当教員	【伊勢崎】榎本 ヒカル・鈴木 路子 【名古屋】鈴木 路子			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	人及び人類の生活生存の場としての環境をミクロのレベルから、マクロ (地球環境・生態系) のレベルまで、総合的にとらえた環境教育の教育的意義を考え、理論構築と共に教育活動の実践力を身につける。人間を取り巻く自然環境の保全と人工環境化との相互バランスは、人間の生活生存、発育にとって、必要不可欠であることに視点をおいた環境教育学の展開は、臨床教育学の基盤と考える。さらに人間環境系としての環境教育は、人の日々の暮らしから、未来の地球環境を保全していく上で、重要な役割を果たす。植林をはじめ、森林環境、大気や気象環境、更には都市計画をはじめ、エネルギー資源もふくめた循環型社会は、地球環境の存続とよりよい人類の生存のために必要不可欠であり、緊急性を有していることを認識することから出発する。環境省総合環境政策局環境教育推進室による「学校エコ改修と環境教育推進事業」について、現地視察を行うと共に、小児環境保健への取り組みとしてのニコチル調査、環境保健サーベイランスシステム等についても検討する。			
8. 学習目標	1) 環境のとらえ方：細胞・組織・器官系としてとらえた内部環境から、人間・生態系へ 2) 人間と環境との相互作用として、生物学的適応能、生理的適応能、行動的・文化的適応能の発達を学ぶ。 3) 環境教育の意義と歴史の変遷から、各自が受けとめた環境観・教育観を発表、討論を行う。 4) 小児生態学の視点を導入した環境教育学の展開を試みる－小児生態学的にみた教材を環境教育教材化し、指導案を作成する。 5) 作成した指導案を基に VDT 学習教材を作成し、学部授業で提示し、学習効果、教育評価を実証する。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	①人間生態系からみた環境教育の教育的意義について論述せよ ②人間生態系を基盤にした環境教育教材開発を行う ③地域の拠点としての学校一学校エコ改修と環境教育推進事業 (環境省総合環境政策局環境教育推進室) について、現地訪問による知見を述べよ。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 鈴木路子著『教育生理生態学序説』家政教育社、2011.10。 鈴木路子編著『教育の基礎としての公衆衛生看護ノート』教育家庭新聞社、2014。 【参考文献】 鈴木路子編著「教育の基礎としての健康の科学」ぎょうせい 鈴木路子：科学研究費報告書ほか 森本兼義・平野秀樹・宮崎良文編「森林医学」朝倉書店、2006 大井玄・宮崎良文・平野秀樹「森林医学Ⅱ－環境と人間の健康科学－」朝倉書店、2010			
11. 成績評価の方法	<b>評価の基準</b> A : 100~90 / B + : 89~80 / B : 79~70 / C : 69~60 / F : 59点以下 <b>評価の方法</b> レポート (論文) の評価、単位認定試験の評価それぞれに GP (グレードポイント) を付与し、修得した各ポイントの平均 (グレードポイント・アベレージ) を、A、B+、B、C、F いずれかの評価に換算し、それぞれの総合評価が合格決定された場合のみに単位が与えられる。			
12. 受講生への メッセージ	環境教育は、革めた環境教育ではなく、既に存在する「国語」「算数」「理科」「社会」「特別活動」「道徳」等で多くの内容がすでになされている。寺子屋時代の教科書 (古書) の中にも、儒教、仏教の根底に流れる哲学は、すべて人間は環境の一部として、人間そのものが環境であり、環境なくしては人間の存在は無いことが示されている。これからの環境教育の在り方を志向し、「教育哲学」「教育史」「教育思想史」また自然科学においても、生態系循環、生体濃縮、進化の過程の中から、人の暮らしや生活生存するそのものが、現代の学校教育における教育目的である「生きる力の育成」に一致する。 広い視点で「環境教育の流れ」とこれからの教育課題を見つめていこうではありませんか。			
13. オフィスアワー	後日通知			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1~5. テーマ	人間生態系からみた環境教育の教育的意義について			
【学習の目標】	人間生態系とは、人類の生活生存 (人の暮らし) が、生態系にどのような影響を与え、また変化した生態系が、人類の生活生存に影響を与えることを理解し、相互作用の中で、バランスを保っていることに注目したい。 環境教育のキーコンセプト (鍵概念) は、人の命の営みは、生活生存の場との相互作用によって成り立つため、我々人類は、環境と一体になって存続することを原理とする。よりよい人類の生活生存や生命の営みは、生存する場としての環境を保全することから開始される。			
【学習の内容】	教育生理学、人類生態学ですで行ってきたフィールド調査を事例として、環境教育における教材開発に応用展開する。 環境と人間との関係を構造的にとらえるとともに、多くの民族はその生活の場である環境からの影響を受け、命をよりよく存続させるための生物学的適応、生理学的適応、行動的適応、文化的適応の様式を獲得して、存続することができる。環境の人工化は、各種環境汚染につながり、人体に影響を与えるものである。学校病理現象としての心身症、アレルギー疾患、無気力、不登校、いじめ、うつなどのこころ・からだ・生活行動上に現れる諸現象は、人工化された環境との相互作用の中で出現すること、環境保全活動は、人間の健康・発育・生活生存に相互的に安寧をもたらすものであることを科学実証的に、また体験学習的に学習する。			



<p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【参考文献】</p>	<p>人間生態系、物質循環、生体濃縮、心身症、アレルギー疾患、不登校、いじめ、学校病理現象</p> <p>人類の生活生存の様式（人口の増加、環境の人工化、樹木の伐採、廃棄物の排出量の増大ほか）が、環境（生態系）のバランスを崩し、地球温暖化、異常気象、地下水の汚染、ほか多くの環境問題をもたらし、人類の生活生存の危機にまで至っている今日的課題を取り上げる。地球環境も、人体も、その相互作用として一義的には理解されるが、ここで人間の内部環境の向上性の維持は、空気・水・光・気圧・土壌といった生活の資源として、命と直結するものであることを科学的に実証し、人間環境系（人間生態系）の考え方を環境教育の目的、内容、方法、評価過程の中に導入する。</p> <p>上記 10 に示した教科書・参考書</p>
<p>6～10.テーマ</p>	<p>人間生態系を基盤にした環境教育教材開発を行う</p> <p>ー学習指導要領に示された環境教育の目的論・内容論・方法論を検討し、人間生態系の考え方を基盤にした教材開発を行うー</p>
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【参考文献】</p>	<p>国語、算数、理科、社会、音楽、保健、体育、図工等、各教科教育の内容に、人間生態系の見方の導入がすでになされているかについて確認する。（初等教育内容の検討）</p> <p>現行の学習指導要領及び副読本「環境教育」に示された目的・内容・方法・評価について検討する。</p> <p>①環境科学、人類生態学、教育生理生態学ほか、最新の科学的知見の導入を図る</p> <p>②人間の生活生存にかかわる教科と環境に関する教科を科学として、分離した科学的把握がなされていないか、これらを融合して、内部環境ー外部環境の恒常性、適応の概念の導入が必要なのではないか？</p> <p>③子どもたちはどの程度、環境を自分自身の心身や行動、生活と一体化された中で、認識しているかについての調査を行う。</p> <p>④地域環境、生育環境が、子どもたちの生きる力に影響を与え、どのような社会人・職業人が形成されていくか？特に、メンタルヘルス面での適応能力の育成にどうプラスされマイナスされるかについて、把握する方法を模索する。</p> <p>以上の結果を踏まえ、上記 1～5 での環境教育内容基礎科学の導入の適切か否かの検討を行う。</p> <p>環境教育、各教科別教育内容、内部環境、外部環境、自己形成過程、生育環境、人間生態学、生きる力</p> <p>各教科別教育内容を環境教育の視点から検討し、人間生態系に視点の導入を図る。</p> <p>自己形成過程に自然環境と一体になった内部環境の恒常性、適応能力の獲得過程を重ね合わせ、日本古来の仏教文化の根底が、自然環境の中での自己形成、自己修行であったことも含め、改めて、森林思考と欧米の砂漠思考の考え方の違いを認識する。</p> <p>上記 10 に示した教科書、参考書のほか、小学校・中学・高等学校課程の学習指導要領、教科書、副読本等を収集し、検討する。</p>
<p>11～15.テーマ</p>	<p>改めて、森林研究所、農水省、農学部林学科（環境学科）、工学部建築学科等、他分野における研究内容・方法、その成果についての最新の知見を知り、環境教育への導入を図るー教育学への自然科学分野の導入を図るーと共に環境省総合環境政策局環境教育推進室による「学校エコ改修と環境教育推進事業」等、行政施策としての環境教育推進事業が、児童生徒等の健康と環境との相互作用を認識させる教育プログラムとしての効果を考える。</p>
<p>【学習の目標】</p> <p>【学習の内容】</p> <p>【キーワード】</p> <p>【学習の課題】</p> <p>【参考文献】</p>	<p>環境教育のキーコンセプトは、人間の生命現象は、環境と一体の中で営まれることを認識することから始まる。</p> <p>環境教育は、人間の生存教育である。そのため、多くの生きる存在そのものが、環境教育の教材となるものである。物的素材であろうと精神修行の体験であろうとすべてのものが生きている場としての環境と一体になる。空、雲、台風、竜巻、草原、海、風、太陽、地平線、生きとし生けるものを育む場がすべて環境なのである。</p> <p>日々の生活習慣、価値観、職業の中に、環境教育のキーコンセプトが導入されていることに気付く。人間の存在教育であることを、他分野からの学び・体験から修得する。環境省総合環境政策局環境教育推進室による「学校エコ改修と環境教育推進事業」について、現地視察を行うと共に、小児環境保健への取り組みとしてのエコチル調査、環境保健サーベイランスシステム等についても検討することによって、行政施策としての環境教育推進事業の実態を把握する。</p> <p>環境教育の目標は、人間教育、人格形成、道徳倫理、すべての人間としての学習過程を通して形成されること、本授業での学びはその一端であることを十分に把握したうえで、多くの内容、異なる分野における多くの職業人からの学びを体験する。</p> <p>生命現象、道徳、倫理、生き方、自然環境、太陽、気象環境、土壌、植生、精神修行、環境認識、自己覚知</p> <p>環境教育推進事業、エコチル調査、環境保健サーベイランス・システム</p> <p>教育とは異なると思われる分野からの学びを図る。そこから、計り知れない環境教育の原点を察知することができる。</p> <p>日々の生活が、環境と共存の中で生まれ育てられていることを覚知するとともに、自分自身の生命の尊さを、存在そのものを大切に育む心を豊かにすることを体験する。さらに環境保健教育推進義行の実態と今後の課題を考える。</p> <p>上記 10 以外の各種分野の資料、出版物を自主的に入手し、読破し、表現する。</p>

1. 科目名 (単位数)	教育社会学特論 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5314
2. 授業担当教員	小野 智一			
4. 授業形態	講義・討論		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	「教育社会学」は二通りの解釈をすることができる。一つは、教育について「社会学」という方法論を用いて研究するという狭義の教育社会学であり、もう一つは、社会の中における教育という対象を学問的に研究するという広義の教育社会学である。本講義では、まず前者の教育社会学で近年盛んに研究されているテーマを概観し、その後、教育という営為を社会のさまざまな領域や事象と関連させながら捉えなおしていくという後者の教育社会学へと展開させていく。			
8. 学習目標	1. 教育社会学の主要な研究テーマに精通する。 2. 各自の研究テーマを、教育社会学の観点から検討する。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメント：講義内で設定したテーマ (授業内研究課題) について共同で調査研究に取り組む。 レポート：授業内研究課題について、3,000 字程度のレポートを学期末までに作成する。			
10. 教科書・参考書・教材	教科書は指定しない。授業で扱うテーマに応じて、必要な文献資料を配布する。 【参考書】 A.H.ハルゼー H.ローダー P.ブラウン A.S.ウェルズ『教育社会学—第三のソリューション』九州大学出版会、2005 年。 久富善之・長谷川裕 (編)『教育社会学 (教師教育テキストシリーズ 5)』学文社、2008 年。 原清治ほか『教育の比較社会学』学文社、2004 年。 陣内靖彦ほか『教育と社会』学文社、2012 年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012 年。 S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004 年。 A. H. Halsey (1997) <i>Education: Culture, Economy, and Society</i> . Oxford Univ Pr on Demand Bartlett, S. and Burton, D. M. (2012) <i>Introduction to Education Studies</i> (Third edition). Sage Publications. Murphy, L., Mufti, E., & Kassem, D. (2009) <i>Education Studies: An Introduction</i> . Open University Press.			
11. 成績評価の方法	授業への参加姿勢 20% 発表 40% レポート 40%			
12. 受講生へのメッセージ	教育社会学が研究対象とする範囲は極めて広く、ほとんどあらゆる教育事象を社会 (学) 的な観点から分析することが可能です。教育社会学の知見は、各自の研究テーマを発展させることにも大きく寄与するはずですので、授業内外で大いに勉強してください。			
13. オフィスアワー	担当教員が伊勢崎キャンパス所属であるため、Eメールでアポイントメントを取ってください。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	オリエンテーション：授業の進め方；教育社会学とはどういう学問か①；受講生の研究関心テーマの概要の報告			
【学習の目標】	教育を社会 (学) 的に研究するとはどういうことかを理解する。			
【学習の内容】	学問体系の歴史と広がり。			
【キーワード】	教育社会学・教育学・社会学			
【学習の課題】	学問のありようを理解する。			
【参考文献】	陣内靖彦ほか『教育と社会』学文社、2012 年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012 年。			
【学習する上での留意点】	教育社会学の特徴を押さえること。			
2. テーマ	教育社会学とはどういう学問か②			
【学習の目標】	社会の中における「教育」という対象を研究する教育社会学の重要概念について理解する。			
【学習の内容】	20 世紀末からの社会変動・社会変容が教育に与えた影響①			
【キーワード】	フォーディズム・ポストモダニズム・社会階級と教育			
【学習の課題】	教育と社会変容の関係を議論する。			
【参考文献】	A.H.ハルゼー H.ローダー P.ブラウン A.S.ウェルズ 『教育社会学—第三のソリューション』九州大学出版会、2005 年。			
【学習する上での留意点】	社会の変容は教育にどのような影響を与えたのか、先行研究の分析の視点に留意する。			
3. テーマ	教育社会学とはどういう学問か③			
【学習の目標】	社会の中における「教育」という対象を研究する教育社会学の重要概念について理解する。			
【学習の内容】	20 世紀末からの社会変動・社会変容が教育に与えた影響②			
【キーワード】	ジェンダー・ポストコロニアル			
【学習の課題】	教育と社会変容の関係を議論する。教育は「機会の平等」から「選択の拡大」へとパラダイムシフトする。			
【参考文献】	A.H.ハルゼー H.ローダー P.ブラウン A.S.ウェルズ 『教育社会学—第三のソリューション』九州大学出版会、2005 年。			
【学習する上での留意点】	社会変化とともに教育は「機会の平等」から「選択の拡大」へと問題の焦点をシフトした。先行研究の分析の視点に留意する。			
4. テーマ	教育社会学とはどういう学問か④			
【学習の目標】	社会の中における「教育」という対象を研究する教育社会学の重要概念について理解する。			
【学習の内容】	20 世紀末からの社会変動・社会変容が教育に与えた影響③			
【キーワード】	ニューライト・教育における市場改革			
【学習の課題】	教育と社会変容の関係を議論する。ニューライトによる教育の再編。			
【参考文献】	A.H.ハルゼー H.ローダー P.ブラウン A.S.ウェルズ 『教育社会学—第三のソリューション』九州大学出版会、2005 年。			

【学習する上での留意点】 教育への市場競争の導入について、先行研究の分析の視点に留意する。	
5 . テ ー マ	共同調査研究に取り組む①
【学習の目標】	共同調査研究テーマを設定し教育社会学的研究に取り組む
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命
【学習の課題】	教育問題をテーマとする調査研究計画を構想する。
【参考文献】	S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。
【学習する上での留意点】	共同調査研究に取り組みさまざまな研究手法の実践を試みる。
6 . テ ー マ	共同調査研究に取り組む②
【学習の目標】	共同調査研究テーマを設定し教育社会学的研究に取り組む
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命
【学習の課題】	研究計画の確定・各担当の選定
【参考文献】	S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。
【学習する上での留意点】	調査にかかわる倫理の確認を行う。
7 . テ ー マ	共同調査研究に取り組む③
【学習の目標】	共同調査研究テーマを設定し教育社会学的研究に取り組む
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命
【学習の課題】	担当毎に調査進捗状況を報告する。①
【参考文献】	S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。
【学習する上での留意点】	先行研究の検討
8 . テ ー マ	共同調査研究に取り組む④
【学習の目標】	共同調査研究テーマを設定し教育社会学的研究に取り組む
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命
【学習の課題】	担当毎に調査進捗状況を報告する。②
【参考文献】	S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。
【学習する上での留意点】	量的・質的調査法導入時の課題について検討する。
9 . テ ー マ	共同調査研究に取り組む⑤
【学習の目標】	共同調査研究テーマを設定し教育社会学的研究に取り組む
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命
【学習の課題】	担当毎に調査進捗状況を報告する。③
【参考文献】	S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。
【学習する上での留意点】	収集データの分析と仮説の検証
10 . テ ー マ	共同調査研究に取り組む⑥
【学習の目標】	共同調査研究テーマを設定し教育社会学的研究に取り組む
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命
【学習の課題】	担当毎に調査進捗状況を報告する。④
【参考文献】	S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。
【学習する上での留意点】	結果のとりまとめに着手すること。
11 . テ ー マ	共同調査研究に取り組む⑦
【学習の目標】	共同調査研究テーマを設定し教育社会学的研究に取り組む
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命
【学習の課題】	結果のとりまとめ①
【参考文献】	S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。
【学習する上での留意点】	小規模研究会での発表を視野に入れ公表準備に入る。
12 . テ ー マ	共同調査研究に取り組む⑧
【学習の目標】	共同調査研究テーマを設定し教育社会学的研究に取り組む
【学習の内容】	調査方法論・現実への関与
【キーワード】	リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命

	<p>【学習の課題】 結果のとりまとめ②</p> <p>【参考文献】 S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。</p> <p>【学習する上での留意点】 公表資料の準備</p>
13. テーマ	共同調査研究に取り組む⑨
	<p>【学習の目標】 共同調査研究テーマを設定し教育社会学的研究に取り組む</p> <p>【学習の内容】 調査方法論・現実への関与</p> <p>【キーワード】 リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命</p> <p>【学習の課題】 研究調査報告①</p> <p>【参考文献】 S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。</p> <p>【学習する上での留意点】 外部研究会に参加して発表する際のポイントを確認する。</p>
14. テーマ	共同調査研究に取り組む⑩
	<p>【学習の目標】 共同調査研究テーマを設定し教育社会学的研究に取り組む</p> <p>【学習の内容】 調査方法論・現実への関与</p> <p>【キーワード】 リサーチリテラシー・教育社会学の社会的使命</p> <p>【学習の課題】 研究調査報告②</p> <p>【参考文献】 S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012年。</p> <p>【学習する上での留意点】 共同調査研究から得た学びを、自身の修士論文に活かす。</p>
15. テーマ	教育社会学特論のまとめ
	<p>【学習の目標】 教育社会学研究の社会的使命について理解する。</p> <p>【学習の内容】 教育社会学研究の成果と社会貢献</p> <p>【キーワード】 ソフト・アカデミズム ハード・アカデミズム</p> <p>【学習の課題】 本科目の学びを振り返る</p> <p>【参考文献】 受講生の知識と理解度に応じて決定する。</p> <p>【学習する上での留意点】 修士論文構想について現時点での取りまとめをしておくこと。</p>

1. 科目名 (単位数)	教育社会学演習 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5315
2. 授業担当教員	小野 智一			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	教育社会学特論で学んだ教育社会的な知識と思考法を基礎とし、近年のいくつかの教育社会学研究の成果を精読する。その作業を通じて、各自の研究テーマの考察と分析の仕方を捉えなおすことを目的とする。			
8. 学習目標	1.近年の重要な教育社会学研究を精読し、当該分野の先端に行く研究を理解する。 2.各自の研究テーマを、1の観点から検討し直す。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	アサインメント：毎週、課題文献を課す。 レポート：各自の研究テーマとの関連性が強いものを選択し、それについて 3,000 字程度のレポートを学期末までに作成する。			
10. 教科書・参考書・教材	教科書は指定しない。授業で扱うテーマに応じて、必要な文献資料を配布する。 【参考書】 A.H.ハルゼー H.ローダー P.ブラウン A.S.ウェルズ『教育社会学—第三のソリューション』九州大学出版会、2005 年。 加野芳正・越智康詞『新しい時代の教育社会学 (シリーズ 現代の教職 7)』ミネルヴァ書房、2012 年。 原清治ほか『教育の比較社会学』学文社、2004 年。 陣内靖彦ほか『教育と社会』学文社、2012 年。 酒井朗、中村高康、多賀太『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房、2012 年。 加藤有希子『カラーセラピーと高度消費社会の信仰』サンガ、2015 年。 S.B.メリアム『質的調査法入門』ミネルヴァ書房、2004 年。 A. H. Halsey (1997) <i>Education: Culture, Economy, and Society</i> . Oxford Univ Pr on Demand Brighouse, H. (2006) <i>On Education</i> . Routledge LTD.			
11. 成績評価の方法	授業への参加姿勢 20% 発表 30% レポート 50%			
12. 受講生へのメッセージ	アウトプットを意識すると、インプットを有意義かつ効率的に行うことができます。各自の研究テーマとの関連性を意識しながら授業に臨んでください。			
13. オフィスアワー	担当教員が伊勢崎キャンパス所属であるため、Eメールでアポイントメントを取ってください。			
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	オリエンテーション：授業の進め方；教育社会学とはどういう学問か；受講生の研究関心テーマの概要発表			
【学習の目標】	教育を社会 (学) 的に研究するとはどういうことかを理解する。			
【学習の内容】	学問体系の歴史と拡がり。			
【キーワード】	教育社会学・教育学・社会学			
【学習の課題】	学問のありようを理解する。			
【参考文献】	受講生の関心と能力に応じて、決定する。			
【学習する上での留意点】	社会科学の特徴を押さえること。			
2. テーマ	教育・不平等・社会的正義			
【学習の目標】	教育社会学の古典に触れ、考察の視座を学ぶ。			
【学習の内容】	ハルゼーらによる教育のブルジョア化に関する自由主義の理論			
【キーワード】	マーシャル・自由主義			
【学習の課題】	ミドルクラス (中間層) の出現と教育の関係			
【参考文献】	A. H. Halsey (1997) <i>Education: Culture, Economy, and Society</i> . Oxford Univ Pr on Demand			
【学習する上での留意点】	社会の変容は教育にどのような影響を与えたのか、先行研究の分析の視点に留意する。			
3. テーマ	各受講者の研究テーマに関する先行研究のレビュー①			
【学習の目標】	教育社会的な観点から、各自の研究テーマを考察する。			
【学習の内容】	テーマと研究計画について			
【キーワード】	※各自の研究上のキーワード			
【学習の課題】	教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。			
【参考文献】	※研究法についての文献を紹介			
【学習する上での留意点】	文献リスト作成など研究活動で必要な工程について本講座を活用して進める。			
4. テーマ	各受講者の研究テーマに関する先行研究のレビュー②			
【学習の目標】	教育社会的な観点から、各自の研究テーマを考察する。			
【学習の内容】	テーマと研究計画について			
【キーワード】	※各自の研究上のキーワード			
【学習の課題】	教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。			
【参考文献】	※研究法についての文献を紹介			
【学習する上での留意点】	文献リスト作成など研究活動で必要な工程について本講座を活用して進める。			
5. テーマ	社会変動の決定論と開放性			
【学習の目標】	教育社会学の古典に触れ、考察の視座を学ぶ。			
【学習の内容】	平等への障害：職業的ヒエラルキー・学校教育・遺伝的能力差			
【キーワード】	構造的不平等の問題			

	<p>【学習の課題】 資源配分の構造的不平等と教育の関係</p> <p>【参考文献】 A. H. Halsey (1997) <i>Education: Culture, Economy, and Society</i>. Oxford Univ Pr on Demand</p> <p>【学習する上での留意点】 社会の変容は教育にどのような影響を与えたのか、先行研究の分析の視点に留意する。</p>
6 . テ ー マ	高度消費社会と教育①
	<p>【学習の目標】 教育以外の社会学的研究も含めて「高度消費社会」と教育の関係を探究する。</p> <p>【学習の内容】 消費社会に生きる子どもの諸相</p> <p>【キーワード】 高度消費社会</p> <p>【学習の課題】 教育以外の社会学的研究も含めて「高度消費社会」と教育の関係を探究する。</p> <p>【参考文献】 陣内靖彦ほか『教育と社会』学文社、2012年。 加藤有希子『カラーセラピーと高度消費社会の信仰』サンガ、2015年。</p> <p>【学習する上での留意点】 最新の研究論文も踏まえ、社会変容と教育の近接領域を見る。</p>
7 . テ ー マ	高度消費社会と教育②
	<p>【学習の目標】 教育以外の社会学的研究も含めて「高度消費社会」と教育の関係を探究する。</p> <p>【学習の内容】 個人主義の勃興とポジティブシンキングの功罪</p> <p>【キーワード】 セラピー・自己啓発</p> <p>【学習の課題】 教育以外の社会学的研究も含めて「高度消費社会」と教育の関係を探究する。</p> <p>【参考文献】 陣内靖彦ほか『教育と社会』学文社、2012年。 加藤有希子『カラーセラピーと高度消費社会の信仰』サンガ、2015年。</p> <p>【学習する上での留意点】 最新の研究論文も踏まえ、社会変容と教育の近接領域を見る。</p>
8 . テ ー マ	Globalization と教育
	<p>【学習の目標】 globalization を政治・経済的な側面から理解する。</p> <p>【学習の内容】 globalization の展開と世界社会論。</p> <p>【キーワード】 globalization ・世界社会論</p> <p>【学習の課題】 globalization の展開を理解する。</p> <p>【参考文献】 受講生の知識と理解度に応じて決定する。</p> <p>【学習する上での留意点】 globalization をまずは政治・経済的な側面から理解するように努めること。</p>
9 . テ ー マ	各受講者の研究テーマに関する先行研究のレビュー③
	<p>【学習の目標】 教育社会学的な観点から、各自の研究テーマを考察する。</p> <p>【学習の内容】 テーマと教育社会学のかかわりについて</p> <p>【キーワード】 ※各自の研究上のキーワード</p> <p>【学習の課題】 教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。</p> <p>【参考文献】 ※研究法についての文献を紹介</p> <p>【学習する上での留意点】 文献リスト作成など研究活動に必要な工程について本講座を活用して進める。</p>
10 . テ ー マ	各受講者の研究テーマに関する先行研究のレビュー④
	<p>【学習の目標】 教育社会学的な観点から、各自の研究テーマを考察する。</p> <p>【学習の内容】 テーマと教育社会学のかかわりについて</p> <p>【キーワード】 ※各自の研究上のキーワード</p> <p>【学習の課題】 教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。</p> <p>【参考文献】 ※研究法についての文献を紹介</p> <p>【学習する上での留意点】 文献リスト作成など研究活動に必要な工程について本講座を活用して進める。</p>
11 . テ ー マ	各受講者の研究の進捗状況の発表①
	<p>【学習の目標】 研究の進捗状況について報告する。</p> <p>【学習の内容】 テーマと教育社会学のかかわりについて</p> <p>【キーワード】 ※各自の研究上のキーワード</p> <p>【学習の課題】 教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。</p> <p>【参考文献】 ※研究法についての文献を紹介</p> <p>【学習する上での留意点】 文献リスト作成など研究活動に必要な工程について本講座を活用して進める。</p>
12 . テ ー マ	各受講者の研究の進捗状況の発表②
	<p>【学習の目標】 研究の進捗状況について報告する。</p> <p>【学習の内容】 テーマと教育社会学のかかわりについて</p> <p>【キーワード】 ※各自の研究上のキーワード</p> <p>【学習の課題】 教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。</p> <p>【参考文献】 ※研究法についての文献を紹介</p> <p>【学習する上での留意点】 文献リスト作成など研究活動に必要な工程について本講座を活用して進める。</p>
13 . テ ー マ	各受講者の研究の進捗状況の発表③
	<p>【学習の目標】 研究の進捗状況について報告する。</p> <p>【学習の内容】 テーマと教育社会学のかかわりについて</p> <p>【キーワード】 ※各自の研究上のキーワード</p> <p>【学習の課題】 教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。</p> <p>【参考文献】 ※研究法についての文献を紹介</p> <p>【学習する上での留意点】 文献リスト作成など研究活動に必要な工程について本講座を活用して進める。</p>

14. テーマ	各受講者の研究の進捗状況の発表④
【学習の目標】	研究の進捗状況について報告する。
【学習の内容】	テーマと教育社会学のかかわりについて
【キーワード】	※各自の研究上のキーワード
【学習の課題】	教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。
【参考文献】	※研究法についての文献を紹介
【学習する上での留意点】	文献リスト作成など研究活動に必要な工程について本講座を活用して進める。
15. テーマ	まとめ
【学習の目標】	教育社会学の観点からテーマを捉え直す。
【学習の内容】	テーマと教育社会学のかかわりについて
【キーワード】	※各自の研究上のキーワード
【学習の課題】	教育社会学の観点から各自の研究をサポートする。
【参考文献】	※研究法についての文献を紹介
【学習する上での留意点】	文献リスト作成など研究活動に必要な工程について本講座を活用して進める。

1. 科目名 (単位数)	教育情報メディア演習 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5352
2. 授業担当教員	柴田 隆史			
4. 授業形態	演習・ゼミ形式		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係	履修条件は特になし			
7. 講義概要	コンピュータの技術進歩に伴い、教育における情報メディアの使われ方も変化している。古くは黒板や OHP、テレビなどが使われていたが、現在ではパソコンやデータプロジェクター、高精細テレビなどといったデジタル情報機器に置き換わってきている。また、ソフトウェアに注目すれば、これまでは一方的だったコンテンツが、双方向性やインタラクティブ性をもったコンテンツに変わってきた。情報メディアの活用により教育効果を高めるために、今日の学校現場では効果的にメディアを用いた新しい学習環境を提案・実践する能力が教員に求められる。本講義では、まずマルチメディアの教育利用に関する先行研究について調べ、その内容に関してディスカッションすることで、教育情報メディアと研究の進め方について理解を深める。また、デジタルコンテンツの特徴や技術などに関しても扱い、自分でコンテンツ制作して授業や実験に利用するための演習を行う。			
8. 学習目標	特に興味がある、教育情報メディアに関するトピックについてリサーチを行い、集めた情報を整理・理解・分析をして、それをプレゼンテーションするためのスキルを磨くことを目標とする。加えて、学術論文を読み書きする科学的基礎力を身につけることを目指す。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業中に学習テーマごとに出す課題に対するディスカッションなどを経て、最終的にプレゼンテーションあるいはレポート作成をする。調査や検討などを授業時間外に行うこともある。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 資料を適宜配布する。 【参考書】 授業内で適宜紹介する。			
11. 成績評価の方法	出席状況や授業への取り組み、課題により総合的に評価する。 授業参加 30%、課題 (プレゼンテーション) 30%、課題 (提案内容報告) 40%			
12. 受講生への メッセージ	本講義では、学生が積極的に議論に参加して、自ら考えることに主体をおきます。それは研究や教育において極めて重要なことだと考えています。教育現場におけるメディアや情報機器の利用に興味をもっている学生の参加を期待します。			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	イントロダクション：講義内容の確認、履修者の知識確認、質問や相談			
2～5. テーマ	教育における情報メディアの活用			
	【学習の目標】 情報メディアの基礎知識や教育における情報メディアの応用について理解する。 【学習の内容】 教育に関係する情報メディアを使うための基礎技術やデバイス、インタフェースなどについて学ぶ。 【キーワード】 人間工学、マルチメディア、ICT 機器、タブレット端末 【学習する上での留意点】 コンピュータやマルチメディア、ユーザビリティ、人の身体特性などを考えていくことが必要となる。			
6～9. テーマ	メディアを教育に利用した先行研究のリサーチと理解			
	【学習の目標】 学術論文を読み、重要な先行事例や最新状況を理解する。 【学習の内容】 教育メディアに関する論文を基に研究の進め方と研究内容について学ぶ。 【キーワード】 メディア、メディアリテラシー、情報リテラシー、教育メディア、視聴覚メディア 【学習する上での留意点】 論文に書かれていることに対して、関連事項も含めて調べ学習をしながら理解を深めていく。			
10～12. テーマ	研究事例のまとめとプレゼンテーションおよびディスカッション			
	【学習の目標】 研究事例についてプレゼンテーションを通してその理解を確認する。 【学習の内容】 調査したことをプレゼンテーションすることで、調べたことを深く理解し説明ができるかを確認する。 【キーワード】 プレゼン、ICT 活用 【学習する上での留意点】 演習形式により、情報メディアを自分で使うことが必要となる。			
13～15. テーマ	メディアを活用した教育や教材の提案			
	【学習の目標】 新しい教育方法や教材を提案する。 【学習の内容】 これまでに調べた文献や理解したことを基に、情報メディアを活用した新しい教育について考える。 【キーワード】 デジタル教材、デジタル教科書、ICT 活用、マルチメディア 【学習する上での留意点】 新しいことを提案するためには、さらに調べ学習をして理解を深める必要がある。			



1. 科目名 (単位数)	教育情報メディア演習 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	EDMP5352
2. 授業担当教員	鈴木 茂樹			
4. 授業形態	演習・ゼミ形式		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	コンピュータの技術進歩に伴い、教育における情報メディアの使われ方も変化している。古くは黒板や OHP、テレビなどが使われていたが、現在ではパソコンやデータプロジェクター、高精細テレビなどといったデジタル情報機器に置き換わってきている。また、ソフトウェアに注目すれば、これまでは一方的だったコンテンツが、双方向性を伴った会話型コンテンツに変わってきた。情報メディアの活用により教育効果を高めるために、今日の学校現場では効果的にメディアを用いた新しい学習環境を提案・実践する能力が教員に求められる。本講義では、まずマルチメディアの教育利用に関する先行研究について調べ、その内容に関してディスカッションすることで、教育情報メディアと研究の進め方について理解を深める。また、デジタルコンテンツの特徴や技術などに関しても扱い、自分でコンテンツ制作して授業や実験に利用するための演習を行う。			
8. 学習目標	特に興味がある、教育情報メディアに関する話題について調査を行い、集めた情報を整理・理解・分析をして、それをプレゼンテーションするための技術を磨くことを目標とする。加えて、学術論文を読み書きする科学的基礎力を身につけることを目指す。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業中に学習テーマごとに出す課題に対するディスカッションなどを経て、最終的にプレゼンテーションあるいはレポート作成をする。調査や検討などを授業時間外に行うこともある。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 資料を適宜配布する。 【参考書】 授業内で適宜紹介する。			
11. 成績評価の方法	出席状況や授業への取り組み、課題により総合的に評価する。 授業参加 30% 課題 (プレゼンテーション) 30% 課題 (提案内容報告) 40%			
12. 受講生への メッセージ	本講義では、学生が積極的に議論に参加して、自ら考えることに主体をおきます。それは研究や教育において極めて重要なことだと考えています。教育現場におけるメディアや情報機器の利用に興味をもっている学生の参加を期待します。			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	イントロダクション：講義内容の確認、履修者の知識確認、質問・相談			
【学習の目標】	情報メディアとは何か？を理解する			
【学習の内容】	情報メディアの歴史に関する講義			
【キーワード】	情報メディア			
【学習の課題】	講義で学習したことをまとめる			
【参考文献】	講義で使用する教材			
【学習する上での留意点】	情報メディアとは何か調べておくこと			
2. テーマ	メディアを教育に利用した研究事例の紹介			
【学習の目標】	将来教育現場で使われるであろう様々な情報メディアについて学習する			
【学習の内容】	最新の情報メディアに関する講義			
【キーワード】	教育、情報メディア			
【学習の課題】	講義で学習したことをまとめる			
【参考文献】	講義で使用する教材			
【学習する上での留意点】	現在教育現場で使われている情報メディアについて調べておく			
3. テーマ	情報メディアを使うための基礎技術やデバイス、インタフェースなどの解説			
【学習の目標】	タブレット型デバイス・スマートフォンとインターネットを組み合わせた情報メディアの活用方法を理解する			
【学習の内容】	タブレット型デバイス・スマートフォンを用いた演習			
【キーワード】	タブレット型デバイス・スマートフォン、クラウド			
【学習の課題】	講義で学習したこと、デバイス活用のメリット・デメリットをまとめる			
【参考文献】	講義で使用する教材			
【学習する上での留意点】	クラウドコンピューティングについて調べておくこと			
4. テーマ	教育メディアに関する論文を基に研究の進め方と論文に関して解説			
【学習の目標】	研究成果の記録、論文の構成について学習する			
【学習の内容】	論文の書き方に関する講義			
【キーワード】	論文の書き方、参考文献			
【参考文献】	講義で使用する教材			
【学習する上での留意点】	論文を書くには何が必要か調べておくこと			
5. テーマ	メディアを教育に利用した先行研究のリサーチと理解 (1)			
【学習の目標】	これから導入される教育情報メディアについて調査する			
【学習の内容】	教育に関する展示会の調査			
【キーワード】	教育情報メディア、展示会			
【学習の課題】	可能ならば展示会に参加をすること			
【参考文献】	講義で使用する教材			

6 . テ ー マ	メディアを教育に利用した先行研究のリサーチと理解 (2)
【学習の目標】	論文の検索方法について学習する
【学習の内容】	論文検索に関する講義と演習
【キーワード】	論文データベース、cinii
【学習の課題】	複数の論文検索サービスを使って論文を検索する
【参考文献】	講義で使用する教材
【学習する上での留意点】	cinii について調べておくこと
7 . テ ー マ	研究事例のまとめ (1)
【学習の目標】	プレゼンテーション資料の作成について学習する
【学習の内容】	プレゼンテーション資料作成に関する講義と演習
【キーワード】	プレゼンテーション、主題
【参考文献】	講義で使用する教材
【学習する上での留意点】	これまでに調査したことのうち、一つを人に伝えるとしたら何か?を考えておくこと
8 . テ ー マ	研究事例のまとめ (2)
【学習の目標】	プレゼンテーション資料の作成について学習する
【学習の内容】	プレゼンテーション資料作成に関する講義と演習
【キーワード】	プレゼンテーション、論理的思考
【学習の課題】	発表用資料を完成させて、発表の練習をしておくこと
【参考文献】	講義で使用する教材
9 . テ ー マ	研究事例報告に関するプレゼンテーションとディスカッション (1)
【学習の目標】	プレゼンテーションに必要な知識について学習する
【学習の内容】	プレゼンテーションに関する講義、演習
【キーワード】	視覚効果
【学習の課題】	講義内容を振り返り、発表用資料を作り直すこと
【参考文献】	講義で使用する教材
【学習する上での留意点】	プレゼンテーションの練習をして講義に臨むこと
10 . テ ー マ	研究事例報告に関するプレゼンテーションとディスカッション (2)
【学習の目標】	ディスカッションの進め方について学習する
【学習の内容】	ディスカッションの方法に関する講義と演習
【キーワード】	ディスカッション、論点
【学習の課題】	ディスカッションで得た意見は全て記録しておくこと
【参考文献】	講義で使用する教材
【学習する上での留意点】	さまざまなディスカッションの方法について調べておくこと
11 . テ ー マ	メディアを活用した教育・教材の提案のための検討 (1)
【学習の目標】	論文作成技術について学習する
【学習の内容】	各事例を様々な側面から検証することに関する講義、演習
【キーワード】	論文作成技術、アカデミックライティング
【参考文献】	講義で使用する教材
【学習する上での留意点】	ディスカッションで得た意見を整理しておくこと
12 . テ ー マ	メディアを活用した教育・教材の提案のための検討 (2)
【学習の目標】	論文作成技術について学習する
【学習の内容】	各自の研究事例報告について様々な側面から検証する
【キーワード】	論文作成技術、アカデミックライティング
【学習の課題】	検証の結果をまとめておくこと
【参考文献】	講義で使用する教材
【学習する上での留意点】	ディスカッションで得た意見を整理しておくこと
13 . テ ー マ	課題研究 提案内容に関するレポート作成 (1)
【学習の目標】	これまでの調査、ディスカッションを踏まえて、これからの教育情報メディアについてのレポートを作成する
【学習の内容】	論文の書き方に関する講義、レポート作成演習
【キーワード】	論理的思考
【学習の課題】	論文という言葉に注意しながらレポートを作成すること
【参考文献】	講義で使用する教材
【学習する上での留意点】	論文の構成について復習し、必要な材料をそろえておくこと
14 . テ ー マ	課題研究 提案内容に関するレポート作成 (2)
【学習の目標】	これまでの調査、ディスカッションを踏まえて、これからの教育情報メディアについてのレポートを作成する
【学習の内容】	論文の体裁に関する講義、レポート作成演習
【キーワード】	体裁、アカデミックライティング
【学習の課題】	提出するレポートの体裁を整えておくこと
【参考文献】	講義で使用する教材
【学習する上での留意点】	論理的な文章とは何かについて学習しておくこと
15 . テ ー マ	全体総括
【学習の目標】	情報メディアの歴史を振り返り、今度の教育に必要なデバイスなどについて考察する
【学習の内容】	講義
【キーワード】	情報メディア
【参考文献】	講義で使用する教材
【学習する上での留意点】	これまでに学習した内容の振り返りをしておくこと

1. 科目名 (単位数)	教育生理学特論 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5331
2. 授業担当教員	鈴木 路子・柴田 隆史			
4. 授業形態	講義・実験・演習・討論		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>人間と環境との相互作用として、刺激反応系から見た体温調節能力の発達過程を明らかにした上で、ある学習環境下での児童の体感、疲労感、学習意欲などへの影響を実験的および事例的に明らかにする教育生理学的方法論を学ぶ。具体的には、学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資するために、教育現象への生理学的アプローチを取り上げ、温熱・光・音など教室内学習環境と児童生徒の心身状態との関連について分析・考察をおこなう。そして、その結果を臨床教育場面にどのように活かすかを考える(鈴木路子)。</p> <p>小児の視機能の発達や眼精疲労など、新しい映像情報メディアを教育に利用する際に検討すべき点を、生理学と人間工学の観点から考える。具体例として、3D 映像を用いた教材の小学校児童への適用を事例として扱う。また、本学大学院にて取り組んだ「看護救急処置」領域の 3D 教材開発に関する研究についても紹介する(柴田隆史)</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児の体温調節能力の発達について理解する。</li> <li>2 進化過程からみた小児の温度適応能力(順化・順応)の発達を明らかにすると共に、日々の生活習慣や人工環境化の影響について、深く考え、理解し、人間の生命力、生きる力との共存を認識しあう。</li> <li>3 生気象学からみた小児(幼児から、学令児、思春期までを含む)の心身状態(諸症状)の年齢的消長を考え、このことを基盤にして、現代の学校教育において出現する様々な不適応現象、学校病理現象の内的背景を考える。</li> <li>4 臨床教育学の構築への教育生理学のアプローチを考え、討論し、それぞれの解釈を統合する。</li> <li>5 人間工学的に見た学習意欲・学習能率をあげるための学習教材開発をおこない、より良い教育課程改善のための教育方法論を展開する。</li> <li>6 学校教育課程からみた教材開発、教員養成課程における理論と実践を直結させる教材開発に人間の生命現象(生理的負荷・心理生理的諸反応)を基盤にした実験研究の方法論を修得する。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>①小児期の体温調節能力の発達過程を説明せよ。</li> <li>②子どもの温度適応能力の発達と生育環境—日本の各種気象環境下で生育する小児の局所耐寒性—</li> <li>③インドネシア小児の温度環境適応能力の発達とイスラム文化—生物学的適応、生理的適応、行動的適応、文化的適応—</li> <li>④小児及び老人の視機能の発達過程と老化過程について論述せよ。</li> <li>⑤人間工学的に見た教材開発の教育的意義を考察せよ。</li> </ol>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 鈴木路子著「教育生理生態学」家政教育社、2011 鈴木路子編「人間環境・教育福祉論」光生館、2007 *柴田の担当テーマに関しては、必要に応じて適宜資料を配付する。</p> <p>【参考文献】 鈴木路子編「人間環境学」福村出版 鈴木路子・真野喜洋編「教育健康学」ぎょうせい、2010 信原幸弘・原壘・山本愛美「脳神経科学リサーチ」勁草書房、2010 清野宏「臨床粘膜免疫学」株式会社ジジ、2010 東郷正美「教育と発育との相互作用に関する研究」文部省科学研究費補助金報告書、1992~1993 H.Monobe,S.Suzuki, Seasonal variations of children exposed natural environmental stresses, J.J.Educational Research,2,1999 小林正子「いじめや家庭問題が体重に与える影響」文部省科学研究費補助金報告書、1994 Kenneth Murphy/Paul Travers/Mark Walport,Janeway's Immunobiology(笹月健彦「免疫生物学」原書第7 版、南江堂、2010)</p>			
11. 成績評価の方法	<p><b>評価の基準</b> A : 100~90 / B+ : 89~80 / B : 79~70 / C : 69~60 / F : 59点以下</p> <p><b>評価の方法</b> レポート(論文)の評価、単位認定試験の評価それぞれに GP(グレードポイント)を付与し、修得した各ポイントの平均(グレードポイント・アベレージ)を、A、B+、B、C、Fいずれかの評価に換算し、それぞれの総合評価が合格決定された場合のみに単位が与えられる。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>昭和 42 年から、15 年間かけて行った博士学位取得論文を基に、教育生理学的研究を出発点にして、生気象学的に異なる地域環境に生活生存する小児(児童生徒等)の温度適応能力の発達を核とした研究を基に作成した著書から、現代の子どもの健康課題を解決していく手がかりをつかんでみたい。</p> <p>きっと何かが見えてくるはず。現代の学校教育の複雑化した健康課題は、一つの時代の流れの中で、出現するものであるが、長期的に見た子どもの生命と生活生存は、人と環境を一体化した内面の充実と環境刺激をどう取り込むかにかかってくるのではないだろうか。「臨床教育学」の構築への教育生理学のアプローチをめぐって、興味を持って取り組むことを期待したい。さらに、本学において研究が行われた 3D 教材開発とその教材の教育現場での実践例も紹介する。院生・教員ともども教育研究方法の新たな創造を行ってゆきたい。</p>			
13. オフィスアワー	後日連絡			

14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】	
1 . テ ー マ	小児の体温調節能力の発達について一皮膚温を指標にした実験研究結果から一
【学習の目標】	夏季暑熱環境下での小児が冷房室に入退出した際の影響を物理的体温調節の発達に視点を置いて、実験した結果、体温調節の発達が 10 歳前後を境に成人型に移行することを予測した。一連の実験結果から、小児の体温調節の発達のメカニズムを生理学的に理解し、自律神経系の発達と相互関係にあること、皮膚表面温度測定の生理学的、教育学的意義を理解する。
【学習の内容】	教科書「教育生理・生態学序説」第 1 章 小児の体温調節能力の発達-皮膚温を指標にした経年的実験研究を介して- 実験方法、実験結果を再現し、これらの結果が持つ教育学的意義を考える。
【キーワード】	冷房環境、皮膚表面温度、皮膚温低下パターン、物理的体温調節、化学的体温調節
【学習の課題】	① 人工環境としての冷暖房の普及が、児童生徒の体温調節能力の発達に影響を及ぼすか ② 同じ温度環境であっても年齢の異なる小児集団では幼小児ほど、その受ける影響は大であろう。 ③ 各年齢段階によって、皮膚温低下のパターンが異なり、小児期から、成人型への移行期が、10 歳前後になることを
【教科書】	鈴木路子「教育生理衛生学序説」家政教育社、2011
2 . テ ー マ	子どもの温度適応能力の発達と生育環境—日本の各種気象環境下で生育する小児の局所耐寒性—
【学習の目標】	生育地の違いによって、子どもの温度適応能力の発達はことなること、特に都市の騒音地域における人工冷暖房校舎（全館冷暖房防音二重窓校舎）に学ぶ児童生徒の寒冷血管反応の出現パターンが異なることの背景を学ぶ
【学習の内容】	青森県三沢地域の全館冷暖房校舎、同県六ヶ所村平屋建て木造校舎、東京都大田区全館冷暖房二重窓防音校舎、同木造校舎、山梨県甲府盆地内裸保育園児、宮崎県海浜部・山間部における幼児及び小中学校児童の地域環境の違いによる局所耐寒性テスト結果（寒冷血管反応パターン）から、小児の温度適応能力の発達と生育環境との相互作用について考察する
【キーワード】	生育環境（地域環境）、気象条件、寒冷血管反応、局所耐寒性テスト
【学習の課題】	小児の温度環境適応能力の発達過程に生育環境における地域の気象条件の違いが影響を与えることの生理的意義について、実験データから考察する。
【教科書】	鈴木路子「教育生理・生態学序説」家政教育社、2011 鈴木路子編著「人間環境・教育福祉論」光生館、2007、 鈴木路子、科研報告書等
3 . テ ー マ	子どもの温度適応能力の発達と生育環境—日本の各種気象環境下で生育する小児の局所耐寒性と病欠の実態—
【学習の目標】	小児期の生育地域環境の違いが、温度適応能力の発達に及ぼす影響と病欠、とくに自然環境下の寒冷地における児童の病欠欠席が、洋小児期ほど多く、加齢に従って減衰していく傾向が認められるのに対して、都市の人工冷暖房完備防音二重窓校舎の児童には、洋小児期は比較的少ないが、その後の減衰傾向が、認められない。このことは、小児期の感染症り患と免疫機能の発達過程にゆがみが見られることが示唆されることを学ぶ。小児期の免疫の正常な発達過程は、厳しい自然環境によって獲得されるものであることが推察される、人工環境による保護的環境が、もたらす小児期の疾病傾向等、広義の免疫学的成長にゆがみを生じさせること、都市化・人工化の波は、免疫学的ゆがみとしてのアレルギー疾患の増大が予測された。
【学習の内容】	上記の目標に連動した各種データ、文献により、推論→実証データでの検証を行う。
【キーワード】	温度適応能力、局所耐寒性、病欠、寒冷刺激、寒冷刺激→ ① 皮膚感覚→視床下部→自律神経→カテコールアミン ② 皮膚感覚→副腎皮質→副腎皮質ホルモン
【学習の課題】	自然環境刺激の必要性を学ぶ。適切な寒冷刺激は、小児期の自律神経系の発達と脳下垂体—副腎系の生体防御機能の発達を促し、アトピーや喘息等、アレルギー反応の自然寛解につながることを学び（生理学的理解）、成長期の児童生徒等の学習環境、教育環境を考慮する必要性を提唱する。
【教科書】	鈴木路子「教育生理・生態学序説」家政教育社、2011 鈴木路子編著「人間環境・教育福祉論」光生館、2007
【参考書】	信原幸弘・原塑・山本愛美「脳神経科学リテラシー」勁草書房、2010 清野宏「臨床粘膜免疫学」株式会社ジジ、2010 鈴木路子・木村康一編著「保健衛生ノート—保健科教育に生かす諸科学—」ぎょうせい、1986
4 . テ ー マ	インドネシア小児の温度環境適応能力の発達とイスラム文化—生物学的適応、生理的適応、行動的適応、文化的適応—
【学習の目標】	人間はその成長過程で受けた自然環境刺激によって、生理学的適応能力を獲得する。そこには至適時期がある。また世代を超えて、その環境刺激を受けていると進化の過程をへて、遺伝子のレベルでの適応（生物学的適応）が獲得される。このような生物学的、生理学的適応には限界があるので、ひとは、生活習慣や行動を変化させてその環境によりよく生活生存できる知恵を用いる。これを行動的適応、文化的適応という。これら、人間と環境との相互作用は、見事に人の生存をより良い状態に導く。インドネシアの文化、宗教、生活習慣から、人間が亜熱帯地域での生活生存がよりよいレベルで営めるような適応の様式があることを人間の生きるための、生きる力の獲得と連動することを認識させる教材として、教育生理生態学的アプローチが存在していることを理解する。
【学習の内容】	①教育生理・生態学のアプローチの教育的意義を考える。 ②人がある地域環境で暮らすということの生態学的意義を考える ③インドネシアの気象条件と人の暮らし、そこで育まれる温和な性格、暮らしと人の適応能の発達を考える
【キーワード】	西ジャワ、インドネシア小児、生気象学、民族、イスラム教、人の暮らし
【学習の課題】	人間の環境への適応のパターンとしての生物学的適応、生理学的適応、行動的適応、文化的適応の概念と実証事例を提示し、このような適応の様相を、学校教育、教育課程にどのように生かすかについて考える。
【教科書】	鈴木路子・木村康一編著「保健衛生ノート—保健科教育に生かす諸科学—」ぎょうせい、1986

5. テーマ	教室内温度環境と児童生徒の体感・疲労感・学習意欲に関する実態調査 (鈴木) ー教育現場での問題点を教育生理学的に考察するー
	<p>【学習の目標】 各種現地調査結果を用いて、児童生徒等の心身状態を教育生理学的に解釈し、子どもにとっての学習環境の在り方を考える。</p> <p>【学習の内容】 調査結果からの学び：          ① 冬季暖房時の室内温度条件が、児童の体感、疲労感、学習意欲に及ぼす影響に関する現地調査          ー建築様式・暖房法の異なる東京都と青森県の小中学校7校の事例からー          ② 過剰暖房の学習意欲への減退と学級閉鎖・学校閉鎖等、感染症対策の現状を実証するとともに、免疫学的機序</p> <p>【キーワード】 教室内環境、学習意欲、疲労と疲労感、教育現場での実態</p> <p>【学習の課題】 1日の大半を過ごす学校の教室内環境の健康上の課題を挙げ、その対策を学校環境衛生基準の設定も含めて考える          ー日常点検、行政施策等の側面からー</p> <p>【教科書】 上記の10に示した教科書</p>
6～10. テーマ	子どもの視機能の発達と老化過程 ー情報技術の発達と視力低下現象、老化過程と視環境に注目してー (柴田)
	<p>【学習の目標】 小児期の視機能の発達を阻害する要因について考える。生育地域環境の違いが、視機能の発達に及ぼす影響や、テレビゲーム関連機器の使用が視機能へ与える影響、特に視機能の低下に関連して学校近視についての基礎を学ぶ。それにより、適正な視力管理や視環境の構築などを教育課程において提言することができる。</p> <p>【学習の内容】 上記の目標に連動した各種データや文献について学び、エビデンスベースな仮説の設定やそのための検証を行う。</p> <p>【キーワード】 視機能の発達生理、視力、情報技術、視力低下、老視、老化過程</p> <p>【学習の課題】 学術的文献に基づいた学習を基本とするが、できる限り日常生活や教育場面での事例を取り入れて考える。</p> <p>【教科書】 必要に応じて適宜資料を配付する。</p> <p>【参考書】 丸尾敏夫, 栗屋忍: 視能矯正学, 金原出版, 1998</p>
11～15. テーマ	3D 教材開発実験及び演習 ー教材テーマの設定、コンテ作成、3D 教材完成、作成した教材の適用検討ー (柴田)
	<p>【学習の目標】 3D 映像などの新しい映像情報メディアや、タブレット端末などの情報機器を用いた教材について、その必要性や有用性について考える。それにより、教育場面において先端的な情報技術を活用する考え方や技術を学ぶ。加えて、ユニバーサルデザインによる視点を教育に取り入れる考え方を学ぶ。</p> <p>【学習の内容】 実際に新しい教材を提案し、作成する演習を通して、次世代の教材を教育現場で利用するために検討すべきことについて、生理学や人間工学の観点から考える。</p> <p>【キーワード】 教材開発、映像情報メディア、視聴覚教材、視機能特性、ユニバーサルデザイン</p> <p>【学習の課題】 3D 教材の教育効果と教育的意義について考察する。</p> <p>【教科書】 必要に応じて適宜資料を配付する。</p>

1. 科目名 (単位数)	教育生理学特論 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	EDMP5331
2. 授業担当教員	宋 暁鈞			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし			
7. 講義概要	<p>児童生徒の身体の構造と機能に関する必要な知識や成長に伴い身体発達のある特徴と内分泌系のホルモン(成長ホルモン、甲状腺ホルモン等)との関連性についての理解と習得をした上で、人間と環境との相互作用として、刺激反応系から見た体温調節能力の発達過程を明らかにする。ある学習環境下での児童生徒の体感、疲労感、学習意欲などへの影響を実験的および事例的に明らかにする教育生理学的方法論を学ぶ。具体的には、学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資するために、教育現象への生理学的アプローチを取り上げ、温熱・光・音等教室内学習環境と児童生徒の心身状態との関連について分析・考察を行う。そして、その結果を臨床教育場面にどのように活かすかを考える。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学童期から少年期そして青年期に於ける心と身体の発達について理解できるようになる。</li> <li>2 成長に伴い身体のある生理的特徴と内分泌系のホルモン(成長ホルモン、甲状腺ホルモン等)との関連性について理解できるようになる。</li> <li>3 小児の体温調節能力の発達について理解できるようになる。</li> <li>4 進化過程から見た小児の温度適応能力(順化・順応)の発達を明らかにすると共に、日々の生活習慣や人工環境化の影響について、深く考え、理解し、人間の生命力、生きる力との共存を認識しあう。</li> <li>5 臨床教育学の構築への教育生理学のアプローチを考え、討論し、それぞれの解釈を統合する。</li> </ol>			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 小児期の体温調節能力の発達過程を説明せよ。</li> <li>2 身体の成長や発達に影響を及ぼす内分泌の異常に関する問題 <ol style="list-style-type: none"> <li>①成長ホルモンの亢進と低下について</li> <li>②甲状腺ホルモンの亢進と低下について</li> </ol> </li> </ol>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 鈴木路子著『教育生理学』家政教育社、2011。 鈴木路子編『人間環境・教育福祉論』光生館、2007。</p> <p>【参考文献】 鈴木路子編『人間環境学』福村出版 鈴木路子・真野喜洋編『教育健康学』ぎょうせい、2010。 信原幸弘・原望・山本愛美『脳神経科学リテラシー』勁草書房、2010。 藤崎郁『フィジカルアセスメント完全ガイド』学習研究社、2010。 小林正子『いじめや家庭問題が体重に与える影響』文部省科学研究費補助金報告書、1994。 岡田隆夫・松村幹『人体生理学ノート 改訂7版』金芳堂、2009年。 久木野憲司『解剖生理学(標準栄養学講座)』金原出版株式会社、2002年。 高橋長雄『からだの地図帳』講談社、1989年。 その他、適宜、資料・文献を配布する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p><b>評価の基準</b> A : 100~90 / B+ : 89~80 / B : 79~70 / C : 69~60 / F : 59点以下</p> <p><b>評価の方法</b> レポート(論文)の評価、単位認定試験の評価それぞれに GP(グレードポイント)を付与し、修得した各ポイントの平均(グレードポイント・アベレージ)を、A、B+、B、C、Fいずれかの評価に換算し、それぞれの総合評価が合格決定された場合のみに単位が与えられる。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>教育生理学特論は、児童生徒の身体の構造と機能に関する必要な知識や成長に伴い身体発達のある特徴と内分泌系のホルモン(成長ホルモン、甲状腺ホルモン等)との関連性についての理解と習得をした上で、現代の学校教育の複雑化した健康課題は、人と環境を一体化した内面の充実と環境刺激をどう取り込むかにかかってくることも探索の必要がある。</p> <p>「臨床教育学」の構築への教育生理学のアプローチをめぐって、興味を持って取り入れた授業をしたい。積極的に授業に参加し、関連する文献を読み、発表・討議することを期待している。</p>			
13. オフィスアワー	授業のない時間帯に、何時でも結構であるが、研究室で受ける。どんな事でも気軽に来て相談することができる。			
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	小児の体温調節能力の発達について一皮膚温を指標にした実験研究結果から一			
<p>【学習の目標】夏季暑熱環境下での小児が冷房室に入退出した際の影響を物理的体温調節の発達に視点を置いて、実験した結果、体温調節の発達が 10 歳前後を境に成人型に移行することを予測した。一連の実験結果から、小児の体温調節の発達のメカニズムを生理学的に理解し、自律神経系の発達と相互関係にあること、皮膚表面温度測定の生理学的、教育学的意義を理解する。</p> <p>【学習の内容】教科書「教育生理・生態学序説」第 1 章 小児の体温調節能力の発達・皮膚温を指標にした経年的実験研究を介して・実験方法、実験結果を再現し、これらの結果が持つ教育学的意義を考える。</p> <p>【キーワード】冷房環境、皮膚表面温度、皮膚温低下パターン、物理的体温調節、化学的体温調節</p> <p>【学習の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 人工環境としての冷暖房の普及が、児童生徒の体温調節能力の発達に影響を及ぼすか</li> <li>② 同じ温度環境であっても年齢の異なる小児集団では小児ほど、その受ける影響は大であろう。</li> <li>③ 各年齢段階によって皮膚温低下のパターンが異なり、小児期から成人型への移行期が、10 歳前後になることを理解しよう</li> </ol>				

【参考文献】	鈴木路子「教育生理衛生学序説」家政教育社、2011 岡田隆夫・松村幹「人体生理学ノート 改訂7版」金芳堂、2009年 高橋長雄「からだの地図帳」、講談社、1989年
2 . テ ー マ	子どもの温度適応能力の発達と生育環境—日本の各種気象環境下で生育する小児の局所耐寒性—
【学習の目標】	生育地の違いによって、子どもの温度適応能力の発達はことなること、特に都市の騒音地域における人工冷暖房校舎（全館冷暖房防音二重窓校舎）に学ぶ児童生徒の寒冷血管反応の出現パターンが異なることの背景を学ぶ。 【学習の内容】青森県三沢地域の全館冷暖房校舎、同県六ヶ所村平屋建て木造校舎、東京都大田区全館冷暖房二重窓防音校舎、同木造校舎、山梨県甲府盆地内裸保育園児、宮崎県海浜部・山間部における幼児及び小中学校児童の地域環境の違いによる局所性耐寒性テスト結果（寒冷血管反応パターン）から、小児の温度適応能力の発達と生育環境との相互作用について考察する。 【キーワード】生育環境（地域環境）、気象条件、寒冷血管反応、局所性耐寒性テスト 【学習の課題】小児の温度環境適応能力の発達過程に生育環境における地域の気象条件の違いが影響を与えることの生理的意義について、実験データから考察する。 【参考文献】鈴木路子「教育生理・生態学序説」家政教育社、2011 鈴木路子編著「人間環境・教育福祉論」光生館、2007 鈴木路子、科研報告書等 久木野憲司他「解剖生理学（標準栄養学講座）」金原出版株式会社、2002 高橋長雄「からだの地図帳」、講談社、1989
3 . テ ー マ	子どもの温度適応能力の発達と生育環境—日本の各種気象環境下で生育する小児の局所耐寒性と病欠の実態—
【学習の目標】	小児期の生育地域環境の違いが、温度適応能力の発達に及ぼす影響と病欠、とくに自然環境下の寒冷地における児童の病欠欠席が、洋小児期ほど多く、加齢に従って減衰していく傾向が認められるのに対して、都市の人工冷暖房完備防音二重窓校舎の児童には、洋小児期は比較的少ないが、その後の減衰傾向が、認められない。このことは、小児期の感染症り患と免疫機能の発達過程にゆがみが見られることが示唆されることを学ぶ。小児期の免疫の正常な発達過程は、厳しい自然環境によって獲得されるものであることが推察される、人工環境による保護的環境が、もたらす小児期の疾病傾向等、広義の免疫学的成長にゆがみを生じさせること、都市化・人工化の波は、免疫学的ゆがみとしてのアレルギー疾患の増大が予測された。 【学習の内容】上記の目標に連動した各種データ、文献により、推論→実証データでの検証を行う。 【キーワード】温度適応能力、局所耐寒性、病欠、寒冷刺激、寒冷刺激→ ① 皮膚感覚→視床下部→自律神経→カテコールアミン ② 皮膚感覚→副腎皮質→副腎皮質ホルモン 【学習の課題】自然環境刺激の必要性を学ぶ。適切な寒冷刺激は、小児期の自律神経系の発達と脳下垂体—副腎系の生体防御機能の発達を促し、アトピーや喘息等、アレルギー反応の自然寛解につながることを学び（生理学的理解）、成長期の児童生徒等の学習環境、教育環境を考慮する必要性を提唱する。 【参考文献】鈴木路子「教育生理・生態学序説」家政教育社、2011 鈴木路子編著「人間環境・教育福祉論」光生館、2007 信原幸弘・原塑・山本愛美「脳神経科学リテラシー」勁草書房、2010 鈴木路子・木村康一編著「保健衛生ノート—保健科教育に生かす諸科学—」ぎょうせい、1986 岡田隆夫・松村幹「人体生理学ノート 改訂7版」金芳堂、2009 高橋長雄「からだの地図帳」講談社、1989
4 . テ ー マ	インドネシア小児の温度環境適応能力の発達とイスラム文化—生物学的適応、生理的適応、行動的適応、文化的適応—
【学習の目標】	人間はその成長過程で受けた自然環境刺激によって、生理学的適応能力を獲得する。そこには至適時期がある。また世代を超えて、その環境刺激を受けていると進化の過程をへて、遺伝子のレベルでの適応（生物学的適応）が獲得される。このような生物学的、生理学的適応には限界があるので、ひとは、生活習慣や行動を変化させてその環境によりよく生活生存できる知恵を用いる。 これを行動的適応、文化的適応という。これら、人間と環境との相互作用は、見事に人の生存をより良い状態に導く。インドネシアの文化、宗教、生活習慣から、人間が亜熱帯地域での生活生存がよりよいレベルで営めるような適応の様式があることを人間の生きるための、生きる力の獲得と連動することを認識させる教材として、教育生理生態学的アプローチが存在していることを理解する。 【学習の内容】①教育生理・生態学的アプローチの教育的意義を考える。 ②人がある地域環境で暮らすということの生態学的意義を考える。 ③インドネシアの気象条件と人の暮らし、そこで育まれる温和な性格、くらしと人の適応能の発達を考える。 【キーワード】西ジャワ、インドネシア小児、生気象学、民族、イスラム教、人の暮らし 【学習の課題】人間の環境への適応のパターンとしての生物学的適応、生理学的適応、行動的適応、文化的適応の概念と実証事例を提示し、このような適応の様相を、学校教育、教育課程にどのように生かすかについて考える。 【参考文献】鈴木路子・木村康一編著「保健衛生ノート—保健科教育に生かす諸科学—」ぎょうせい、1986
5 . テ ー マ	教室内温度環境と児童生徒の体感・疲労感・学習意欲に関する実態調査—教育現場での問題点を教育生理学的に考察する—
【学習の目標】	各種現地調査結果を用いて、児童生徒等の心身状態を教育生理学的に解釈し、子どもにとっての学習環境の在り方を考える。 【学習の内容】調査結果からの学び： ① 冬季暖房時の室内温度条件が、児童の体感、疲労感、学習意欲に及ぼす影響に関する現地調査—建築様式・暖房法の異なる東京都と青森県の小中学校7校の事例から— ② 過剰暖房の学習意欲への減退と学級閉鎖・学校閉鎖等、感染症対策の現状を実証するとともに、免疫学的機序 【キーワード】教室内環境、学習意欲、疲労と疲労感、教育現場での実態 【学習の課題】1日の大半を過ごす学校の教室内環境の健康上の課題を挙げ、その対策を学校環境衛生基準の設定も含めて考える。

一日常点検、行政施策等の側面からー <b>【参考文献】</b> 鈴木路子・木村康一編著「保健衛生ノートー保健科教育に生かす諸科学ー」ぎょうせい、1986	
6～9. テーマ	子どもの五官・五感と神経学との因果関係及び骨格・筋系機能の発達過程
<b>【学習の目標】</b> 脳神経や感覚系及び骨格・筋系の構造と生理機能に関する資料を配布し、児童生徒等の心身発達状態を教育生理学的に解釈し、子どもにとっての学習能力の向上させる方法を考える。 <b>【学習の内容】</b> ①神経系の構造・機能及びこどもの発達時期に見られる変化。 ②感覚器系の構造・機能及びこどもの発達時期に見られる変化。 ③骨格系・筋系の構造・機能及びこどもの発達時期に見られる変化。 <b>【キーワード】</b> 神経、感覚、骨格・筋、集中力と疲労感、学習意欲の実態 <b>【学習の課題】</b> 児童生徒等の学習効率を向上させる方法について ーこども身体的（解剖・生理学等）の側面からー <b>【参考文献】</b> 手元にあった解剖・生理学資料 鈴木路子・木村康一編著「保健衛生ノートー保健科教育に生かす諸科学ー」ぎょうせい、1986 岡田隆夫・松村幹「人体生理学ノート 改訂7版」、金芳堂、2009 高橋長雄「からだの地図帳」、講談社、1989	
10～15. テーマ	子どもの内分泌系の発達と退化、免疫・アレルギー反応の機序
<b>【学習の目標】</b> 学童期から青年期における顕著な身長伸びには、内分泌系の成長ホルモンに関与する。成長ホルモンの低下は低身長の原因となり、甲状腺ホルモンの低下を放置すると知能の発達にも悪い影響を及ぼすことがある。また 免疫系は、自律神経系と内分泌系と情報を共有し、その機能は外界からの侵害に対して自己を防衛し内部環境を一定に保つことである。これらの生理学的基礎を基盤として、学校生活における適切な支援のあり方や医療機関との連携について理解する。 <b>【学習の内容】</b> ①内分泌系の構造と機能及びこどもの発達時期に見られる変化。 ②身体の免疫反応及びアレルギーの発生機序。 ③こどもの発達と自律神経・内分泌系・免疫系との関係。 <b>【キーワード】</b> 成長ホルモン、甲状腺ホルモン、自律神経、免疫細胞、学習能力低下、知的障害。 <b>【学習の課題】</b> 1. 幼児期から青年期、成長期間の生理的変化と特徴について 2. こども身体の成長や発達に影響を及ぼす内分泌の異常について ①成長ホルモンの分泌亢進と低下について ②甲状腺ホルモンの分泌亢進と低下について <b>【参考文献】</b> 配布した解剖・生理学資料 鈴木路子・木村康一編著「保健衛生ノートー保健科教育に生かす諸科学ー」ぎょうせい、1986 岡田隆夫・松村幹「人体生理学ノート 改訂7版」、金芳堂、2009 高橋長雄「からだの地図帳」、講談社、1989	



1. 科目名 (単位数)	教育データ分析演習 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5351
2. 授業担当教員	ロペス ルイス ミゲル・竹内 俊彦			
4. 授業形態	演習 (コンピュータを使った実技演習)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	1) (5 回) リレーショナルデータベースの基礎を学び、教育データを長期保存・管理できるデータベースの設計を行う。また、SQL で組んだクエリを実行する。 2) (10 回) R は統計解析に特化したフリーのシステムであり、その使い方を学べば Excel で行うよりもはるかに柔軟な処理が可能となる。本講義の後半では、R の基本的な使い方を学び、また R を使って簡単な統計解析を行い、自分の興味のある問題を R を用いて解くことを行う。			
8. 学習目標	データベースは、DBDesigner4 というソフトウェアを使ってリレーショナルデータベースを設計する技術を知る。また SQL 言語の基礎を学習して、データ検索を行う (ソフトウェアは MS Access)。R に関しては、R というソフトウェアにデータを登録して、そのデータに対して統計解析を行うスキルを知る。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	データ格納は、学校に対する調査から得たデータを格納するためのリレーショナルデータベースを設計する。提出形式は、コメントは十分記入された XML ファイル (詳細は 5 回時に説明)。 また後半では、統計解析システム R を学んだあと、自分の興味のある問題を R で解析しレポートにまとめ、発表する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 山田 剛史 杉澤 武俊 村井 潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社。 【参考書】 竹内俊彦『はじめての S-PLUS/R 言語プログラミング』オーム社。 舟尾 暢男、高浪 洋平『データ解析環境「R」一定番フリーソフトの基本操作からグラフィックス、統計解析まで』I・O BOOKS、2005 年 12 月。 山本森樹 『体系的に学ぶデータベースの仕組み 第 2 版』日経 BP ソフトプレス。			
11. 成績評価の方法	アサインメント (課題) . . . . . 80% 授業態度 . . . . . 20%			
12. 受講生への メッセージ	コンピュータの基本的なスキル(文字入力、インターネット検索、ファイルの保存、Word, Excel, PowerPoint の基本的な使用)ができることが履修条件である。			
13. オフィスアワー	授業中(オリエンテーション時)に指示する。また時間割表に掲載しているオフィスアワー欄を参照すること。 なおオフィスアワー以外でも時間があえば面談するが、事前にメールで連絡をすることが望ましい。 lopez@ed.tokyo-fukushi.ac.jp totakeuc@ed.tokyo-fukushi.ac.jp , PHS は 070-5579-2066。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	データ格納 (1) データベースにおけるさまざまな概念・リレーショナルデータベース			
	【学習の目標】 現在のデータ格納に至るまでの過程を理解する 【学習の内容】 データベースにおけるさまざまな概念を知る 【キーワード】 階層型 DB、ネットワーク型 DB、リレーショナル DB 【学習の課題】 データの独立性の問題について述べよ。 【参考文献】 参考書 「体系的に学ぶデータベースの仕組み 第 2 版」日経 BP ソフトプレス、pp.4~7 【学習する上での留意点】 「データ」と「情報」の違いについて考える。			
2. テーマ	データ格納 (2) リレーショナルデータベースの設計			
	【学習の目標】 リレーショナルデータベースの設計 【学習の内容】 ソフトウェア Dia を使って、リレーショナルデータベースを設計し始める (ひし形表記法) 【キーワード】 概念データモデル、論理データモデル、ER 図、IDEF1X 【学習の課題】 授業で始めた設計を完成させる 【参考文献】 参考書 「体系的に学ぶデータベースの仕組み 第 2 版」日経 BP ソフトプレス、pp.16~18、pp.42~50 【学習する上での留意点】 ER は、ひし形表記法の考え方と IDEF1X 表記法の考え方との類似点、相違点をよく理解すること			
3~4. テーマ	データ格納 (3 と 4) リレーショナルデータベースの操作・SQL クエリ			
	【学習の目標】 SQL 言語を使って DB 内データを操作する 【学習の内容】 ソフトウェア MS Access を使って、データを記入して操作する 【キーワード】 select, group by, union, right join, left join, inner join 【学習の課題】 ソフトウェア MS Access を使って、与えられた検索問題に対してクエリを作成し、実行する 【参考文献】 参考書 「体系的に学ぶデータベースの仕組み 第 2 版」日経 BP ソフトプレス、pp.118~132 【学習する上での留意点】 作成したクエリは提示された検索問題への正確な回答となっていることを確認する			
5. テーマ	データ格納 (5) リレーショナルデータベースの設計・課題提示			
	【学習の目標】 進んだ設計ソフトウェアを使って DB を設計する 【学習の内容】 ソフトウェア DBDesigner4 を使って、リレーショナルデータベースを設計し始める (IDEF1X 表記法) 【キーワード】 カーディナリティ、パーティシペーション、ロール名 【学習の課題】 授業で始めた設計を完成させる (提出はメールにて、形式は DBDesigner4 形式の設計図)			

【参考文献】	参考書 「体系的に学ぶデータベースの仕組み 第2版」日経 BP ソフトプレス、pp.57~60
【学習する上での留意点】	設計中、カーディナリティをよく確認すること
6~7. テーマ	R のインストールとコマンド入力・主要な関数
【学習の目標】	R の基本的なコマンドと使い方を学ぶ
【学習の内容】	統計解析システム R の基本的な使い方を学ぶ
【キーワード】	関数、コマンド、システム R
【学習の課題】	データ読み込み、R で簡単な分析が必要な課題を提出する
【参考文献】	「はじめての S-PLUS/R 言語プログラミング」「データ解析環境『R』」
【学習する上での留意点】	R は他の代表的なプログラミング言語とはかなり異なり、強力なベクトル演算機能がある。
8 . テーマ	1 変数,2 変数の記述統計
【学習の目標】	記述統計を R で扱う
【学習の内容】	教科書第 2 章の内容を習得する
【キーワード】	量的変数、質的変数、相関、回帰、クロス集計表
【学習の課題】	記述統計に必要な各種関数、グラフ関連の関数を用いた課題を提出する
【参考文献】	「はじめての S-PLUS/R 言語プログラミング」「データ解析環境『R』」
【学習する上での留意点】	記述統計を学びつつ、コマンドラインでの R のちょっとしたデータ加工もできるようになって欲しい
9 . テーマ	母集団と標本
【学習の目標】	母集団から標本を取り、その結果から各種の統計量の推定を行う
【学習の内容】	R で各種の分布する母集団から標本を抽出し、検定するまでを R のプログラムにて体験する
【キーワード】	母集団、標本、推定、点推定、区間推定、正規分布
【学習の課題】	自分の好きな分布をひとつ選びシミュレーション・プログラムを作成し提出する
【学習する上での留意点】	さまざまな母標本から標本サンプルのシミュレーションをすることで、イメージをつかむこと
10~11.テーマ	統計的仮説検定
【学習の目標】	カイ二乗検定
【学習の内容】	R で与えられたデータのカイ二乗検定をする
【キーワード】	検定統計量 Z, 検定統計量 t, カイ二乗検定、帰無仮説
【学習の課題】	自分の好きなデータで検定プログラムを作成し提出する
【学習する上での留意点】	仮説検定は学部で学んだはずであるが、再度、知識を定着させる
1 2 . テーマ	2 つの平均値の比較
【学習の目標】	2 集団の平均値には統計的に有意な差があるかを検定する
【学習の内容】	R で与えられたデータに検定をかける
【キーワード】	分散の同質性、Welch の検定、t 検定、対応のある t 検定
【学習の課題】	与えられたデータを検定して結果を考察し、提出する
【学習する上での留意点】	次週から自分のデータによる分析を行うことを考慮しておくこと。
13~14.テーマ	自分の調査したい問題の決定と R での解析実施
【学習の目標】	自分の修士論文のテーマに沿った統計解析プログラムの作成
【学習の内容】	自分の修士論文で用いるデータを分析し、発表用資料にまとめる
【キーワード】	修士論文、統計、データ
【学習の課題】	R のプログラム作成に関して不明な点は教員が説明する
【学習する上での留意点】	最終回に向けた発表資料も作成すること
1 5 . テーマ	自分の調査した問題の分析結果を発表する
【学習の目標】	自分の R プログラムによる分析結果の発表
【学習の内容】	解析結果の発表会
【キーワード】	発表会
【学習の課題】	自分のプログラム・リストと分析結果、発表資料の提出する
【参考文献】	「はじめての S-PLUS/R 言語プログラミング」「データ解析環境『R』」

1. 科目名 (単位数)	教育データ分析演習 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	EDMP5351
2. 授業担当教員	鈴木 茂樹			
4. 授業形態	演習 (コンピュータを使った実技演習)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	1) (5 回) リレーショナルデータベースの基礎を学び、教育データを長期保存・管理できるデータベースの設計を行う。また、SQL で組んだクエリを実行する。 2) (10 回) R は統計解析に特化したフリーのシステムであり、その使い方を学べば Excel で行うよりもはるかに柔軟な処理が可能となる。本講義の後半では、R の基本的な使い方を学び、また R を使った統計解析を行い、さまざまなデータを R を用いて分析できる力を養う。			
8. 学習目標	データベースは、DBDesigner4 というソフトを使ってリレーショナルデータベースを設計する技術を覚える。また SQL 言語の基礎を学習して、データ検索を行う (ソフトは MS Access)。R に関しては、R というソフトにデータを登録して、そのデータに対して統計解析を行うスキルを覚える。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	データベースは、学校に対する調査から得たデータを格納するためのリレーショナルデータベースを設計する。提出形式は、コメントは十分記入された XML ファイル (詳細は 5 回時に説明)。また後半では、統計解析システム R を学んだあと、自分の興味のある問題を R で解析しレポートにまとめ、発表する。			
10. 教科書・参考書・教材	【参考書】山田 剛史 杉澤 武俊 村井 潤一郎「R によるやさしい統計学」オーム社 【教材】毎回授業時に資料を配布する			
11. 成績評価の方法	アサイメント (課題) ・ ・ ・ ・ ・ 80% 授業態度 ・ ・ ・ ・ ・ 20%			
12. 受講生へのメッセージ	わからないことはそのままにせず、調べる・人に聞くなどすること。質問はいつでも気軽にしてください。 電子メール: shsuzuki@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			
13. オフィスアワー	金曜日 11:00~15:00			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	データ格納 (1)			
	【学習の目標】 データベースに関する基本的な事項、データベースシステム、リレーショナルデータベースについて学習する 【学習の内容】 データベースの基本的な知識に関する講義 【キーワード】 データベース、DBMS、リレーショナルデータベース 【学習の課題】 これまでのデータベースの歴史、最近登場したデータベースモデルについて調査する 【参考文献】 講義で使用する教材 【学習する上での留意点】 データベースの必要性について調べておくこと			
2. テーマ	データ格納 (2)			
	【学習の目標】 リレーショナルデータベースの設計 【学習の内容】 リレーショナルデータベースの設計に必要な正規化などについて学習し、実際にデータベースを作成する。 【キーワード】 正規化、リレーションシップ 【学習の課題】 データの正規化について復習問題を解く 【参考文献】 講義で使用する教材 【学習する上での留意点】 商用、非商用のデータベースシステムについて調べておくこと			
3. テーマ	データ格納 (3)			
	【学習の目標】 SQL 言語について学習しデータベースを作成する 【学習の内容】 MS Access を使った演習 【キーワード】 SQL クエリ 【学習の課題】 SQL クエリでデータベースやテーブル作成、データ入力を行う 【参考文献】 講義で使用する教材 【学習する上での留意点】 プログラム言語について調べておくこと			
4. テーマ	データ格納 (4)			
	【学習の目標】 SQL 言語について学習しデータベースの検索を行う 【学習の内容】 MS Access を使った演習 【キーワード】 SQL クエリ、検索 【学習の課題】 MS Access を使ってデータ検索の復習を行う 【参考文献】 講義で使用する教材 【学習する上での留意点】 SQL 文について調べておくこと			
5. テーマ	データベースのまとめ ・ 課題提示			
	【学習の目標】 リレーショナルデータベースを設計、実装する 【学習の内容】 DBDesigner4 を使った演習 【キーワード】 DBDesigner4、XML 【学習の課題】 リレーショナルデータベースを設計し XML ファイルで提出する 【参考文献】 講義で使用する教材			
6. テーマ	R のインストールとコマンド入力・主要な関数			
	【学習の目標】 統計解析ソフトについて学習する。また R のインストールと基本操作の習得を行う 【学習の内容】 統計解析ソフトに関する講義、R の操作習得のための演習 【キーワード】 統計解析ソフト、R 【学習の課題】 自宅で R のインストールを行う			

	【参考文献】教科書、講義で使用する教材 【学習する上での留意点】統計解析ソフトについて調べておくこと
7 . テ ー マ	R による 1 つの変数の記述統計
	【学習の目標】基本統計量の算出方法を習得する 【学習の内容】R を用いた演習 【キーワード】変数、単変量、基本統計量 【学習の課題】基本統計量の復習問題を解く 【参考文献】教科書、講義で使用する教材 【学習する上での留意点】基本統計量について調べておくこと
8 . テ ー マ	R による 2 つの変数の記述統計
	【学習の目標】多変量解析について学習する。2 変量解析の方法を習得する。 【学習の内容】多変量解析に関する講義。R を用いた演習。 【キーワード】2 変量解析、多変量解析、相関関係 【学習の課題】2 変量解析の復習問題を解く 【参考文献】教科書、講義で使用する教材 【学習する上での留意点】相関分析、回帰分析について調べておくこと
9 . テ ー マ	母集団と標本(1)
	【学習の目標】母集団と標本の関係について学習する。 【学習の内容】推定に関する講義。R を用いた演習。 【キーワード】母集団、標本、推定 【学習の課題】母集団の大きさから標本の大きさを決定する方法を復習する 【参考文献】教科書、講義で使用する教材 【学習する上での留意点】統計的推定について調べておくこと
10 . テ ー マ	母集団と標本(2)
	【学習の目標】標本分布と標本標準偏差について学習する。R を使ってグラフを描画する方法を習得する 【学習の内容】R を用いた演習 【キーワード】標本分布、標準偏差 【学習の課題】様々なデータの標準偏差を調べる 【参考文献】教科書、講義で使用する教材 【学習する上での留意点】標準偏差について調べておくこと
11 . テ ー マ	統計的仮説検定
	【学習の目標】仮説検定について学習する。R を使って実際に検定を行う 【学習の内容】検定に関する講義。R を用いた演習。 【キーワード】帰無仮説、検定 【学習の課題】仮説検定に関する問題の復習 【参考文献】教科書、講義で使用する教材 【学習する上での留意点】仮説検定について調べておくこと
12 . テ ー マ	2 つの平均値の比較
	【学習の目標】平均の比較について学習する。R を使って平均値の差の検定を行う方法を習得する 【学習の内容】平均の比較に関する講義。R を使った演習 【キーワード】平均値、分散、平均値の差 【学習の課題】平均値の差に関する復習 【参考文献】教科書、講義で使用する教材 【学習する上での留意点】平均値の差について調べておくこと
13 . テ ー マ	3 つ以上の平均値の比較
	【学習の目標】平均の比較について学習する。R を使って平均値の差の検定を行う方法を習得する 【学習の内容】平均の比較に関する講義。R を使った演習 【キーワード】平均値、分散、平均値の差、分散分析 【学習の課題】分散分析に関する復習 【参考文献】教科書、講義で使用する教材 【学習する上での留意点】分散分析について調べておくこと
14 . テ ー マ	課題研究
	【学習の目標】データをこれまでの統計解析方法を使って分析する 【学習の内容】データベースシステム、R を使った演習 【キーワード】データベース、統計解析ソフト 【学習の課題】分析結果をまとめておくこと 【参考文献】教科書、講義で使用する教材 【学習する上での留意点】これまでに学習した検定についてどのような場合に使うのか復習しておくこと
15 . テ ー マ	全体総括
	【学習の目標】2 次分析のためのデータ保管方法や分析方法についてまとめる 【学習の内容】様々なデータの活用方法に関する講義 【キーワード】2 次分析 【学習の課題】公開されている 2 次分析用のデータについて調査する 【参考文献】講義で使用する教材 【学習する上での留意点】2 次分析について調べておくこと

1. 科目名 (単位数)	教育方法学特論 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5317
2. 授業担当教員	片岡 浩・田村 にしき			
4. 授業形態	講義と演習 (ディスカッション、グループ学習等)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	我が国における現代の教育の動向や課題を概観すると共に、教育理論と実践が有効に関連しながら実践に生きる、教育方法のあり方を追求する。具体的には、臨床教育学における芸術領域の位置付けと意義について、文献購読を通して理論を学ぶ。さらに、授業観察をしたり、五感を使った表現を体験したりすることで、理論と実践を結び付けて考察する力を養う。			
8. 学習目標	1.文献購読を通して、臨床教育学における芸術領域の位置付けと意義を理解することができる。 2.授業観察と分析を通して、理論と実践を結び付けて考察することができる。 3.自ら五感を使った表現を体験することで、様々な表現についての理解を深める。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業ごとに指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 その都度、関連資料を配布する。 【参考書】 佐藤学・今井康雄編『子どもたちの想像力を育む—アート教育の思想と実践』東京大学出版会 河合隼雄『臨床教育学入門』岩波書店 佐伯胖、藤田英典、佐藤学編『シリーズ学びと文化⑤ 表現者として育つ』東京大学出版会 小島律子・澤田篤子編『音楽による表現の教育—継承から創造へ—』晃洋書房			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 10%、取り組み (試行錯誤や創意工夫など自ら感じ考え、思考し、行動する姿勢) 20% 出席状況 20%、レポート&課題 50%			
12. 受講生へのメッセージ	これから求められる教師・研究者としての資質・能力の向上に努めてほしい。			
13. オフィスアワー	初回に決定する。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	教育方法学特論について			
【学習の目標】	芸術表現の意義について考える。			
【学習の内容】	ガイダンス、人間の生活活動における芸術活動の意義について			
【キーワード】	臨床教育学、芸術、文化、創造			
【学習の課題】	人間の生活活動における芸術活動の意義について考察する。			
【参考文献】	佐藤学・今井康雄編『子どもたちの想像力を育む—アート教育の思想と実践』東京大学出版会			
【学習する上での留意点】	自らの体験に基づいて、芸術と表現の関わりと意義について、事前に考察しておくこと。			
2～4. テーマ	臨床教育学における芸術領域の位置付けと意義について			
【学習の目標】	文献購読を通して、臨床教育学における芸術領域の位置付けと意義を理解することができる。			
【学習の内容】	第1章「想像力と創造性の教育—アートと子どもの結合の諸相—」、第2章「子どもの美的経験の意味」、第5章「シュタイナー教育のアート—フォルメンが創造力を育む」とはどのようなことか—」を購読する。			
【キーワード】	臨床教育学、芸術、文化、創造			
【学習の課題】	文献の内容を整理し、レポートとしてまとめ、発表できる。			
【参考文献】	佐藤学・今井康雄編『子どもたちの想像力を育む—アート教育の思想と実践』東京大学出版会			
【学習する上での留意点】	事前に上記参考文献を読んでおくこと。			
5. テーマ	2～4で学んだことについて、各自の専門分野と照らし合わせて議論する。			
【学習の目標】	これまで文献を通して学んだことを整理し、臨床教育学における芸術領域の意義づけと意義について、自分の考えを発表することができる。			
【学習の内容】	2～4で学んだことについて整理し、各自の専門分野と照らし合わせて議論する。			
【キーワード】	臨床教育学、芸術、文化、創造			
【学習の課題】	これまで文献を通して学んだことを整理し、自分の考えを発表する。			
【参考文献】	佐藤学・今井康雄編『子どもたちの想像力を育む—アート教育の思想と実践』東京大学出版会			
【学習する上での留意点】	事前に、今まで学んだ文献の要点を整理し、自分考えを発表できるように準備しておくこと。			
6～7. テーマ	学校教育における臨床美術について			
【学習の目標】	臨床美術の現場を見学し、五感をつかった造形表現の理解を深める。			
【学習の内容】	臨床美術の現場の見学、教育内容の理解			
【キーワード】	「みる、きく、かぐ、さわる、あじわう」			
【学習の課題】	「感じ、表現する」			
【参考文献】	資料配布			
【学習する上での留意点】	体験による感覚の認識			

8～9.テーマ	学校教育における音楽科の授業分析
【学習の目標】	小学校音楽科の授業観察を通して、子どもの表現や教師の指導の工夫について考察し、理解を深める。
【学習の内容】	小学校音楽科の授業観察、授業分析
【キーワード】	小学校音楽科の授業観察、授業分析、子どもの表現
【学習の課題】	授業観察を通して、子どもの表現や教師の指導の工夫について考察する。
【参考文献】	資料配布
【学習する上での留意点】	授業観察は、教員の事前の指導を良く聞いて参加すること。
10.テーマ	6～9で学んだことについて、各自の専門分野と照らし合わせて議論する。
【学習の目標】	6～9で授業観察をしたり、分析をしたりしたことを整理し、理論と実践を結び付けて考察することができる。
【学習の内容】	上記の目標に記したテーマについてのディスカッション
【キーワード】	授業観察、授業分析、子どもの表現
【学習の課題】	テーマに基づいて自分の考えをまとめ、ディスカッションする。
【参考文献】	資料配布
【学習する上での留意点】	事前に、今まで学んだ内容を整理し、自分の考えを発表できるように準備しておくこと。
11～14.テーマ	音楽と美術を融合させた表現の教材研究
【学習の目標】	文献購読や授業観察を活かして、自ら五感を使った表現を体験することで、様々な表現についての理解を深める。
【学習の内容】	臨床美術・五感に対する刺激と感覚を活かした表現の研究
【キーワード】	臨床美術、表現、教育方法
【学習の課題】	「感性・感覚・表現」の教育実践
【参考文献】	資料配布
【学習する上での留意点】	リラックスして楽しめる実践活動と環境づくり
15.テーマ	まとめ
【学習の目標】	これまで行った文献購読や実践研究を整理し、臨床教育学における芸術領域の位置付けと意義について考察することができる。
【学習の内容】	文献研究と体験に基づく研究内容のまとめ
【キーワード】	臨床教育学、芸術、文化、創造
【学習の課題】	これまで行った文献購読や実践研究を整理し、臨床教育学における芸術領域の位置付けと意義について考察及びディスカッション
【参考文献】	佐藤学・今井康雄編『子どもたちの想像力を育むーアート教育の思想と実践』東京大学出版会
【学習する上での留意点】	事前に、今まで学んだ内容を整理し、自分考えを発表できるように準備しておくこと。

1. 科目名 (単位数)	教育方法学特論 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	EDMP5317
2. 授業担当教員	下出 美智子			
4. 授業形態	講義と演習 (ディスカッション、グループ学習等)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	我が国における現代の教育の動向や課題を概観すると共に、教育理論と実践が有効に関連しながら実践に生きる、教育方法のあり方を追求する。具体的には、知的障害のある青年達の表現活動 (ビデオ記録) の授業分析を通して、エレメンタルな表現の様相、授業の構造、授業を成立させる諸要因等について説明していく。その理論研究として、J.デューイ (JOHN DEWEY) の《芸術論 ART AS EXPERIENCE》を購読する。			
8. 学習目標	確かな学力の育成を視野に入れながら、授業の構想力と実践力、子どもの発達と実態の把握力、教材の開発力を高め、21 世紀の教育に相応しい教育方法について検討できることを目標とする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業の事前、或いは事後に、J.デューイ『芸術論—経験としての芸術—』『知的障害のある青年達の音楽行為』『音楽による表現の教育—継承から創造へ—』を購読し内容を説明できるようにしておく。			
10. 教科書・参考書・ 教材	<b>【教科書】</b> なし。必要な資料は配布する。 <b>【参考文献】</b> 1.J.デューイ『芸術論—経験としての芸術—』鈴木康司 春秋社,1969 2.JOHN DEWEY《ART AS EXPERIENCE》The Berkley Publishing Group 3.下出美智子『知的障害のある青年達の音楽行為』風間書房,2011 4.小島律子『児童の音楽的発達の考察』風間書房,平成 9 年 5.日本学校音楽教育実践学会編『学校音楽教育研究』vol.1～ vol.15,1997-2011 6.小島律子・澤田篤子編『音楽による表現の教育—継承から創造へ—』晃洋書房,1998 7.『生成を原理とする 21 世紀音楽科カリキュラム—幼稚園から高等学校まで—』日本学校音楽教育実践学会編,東京書籍,2006			
11. 成績評価の方法	レポート 50%、日常の授業態度および出席状況 50%として、総合的に評価する。			
12. 受講生への メッセージ	これから求められる教師・研究者としての資質・能力の向上に努めてほしい。			
13. オフィスアワー	初回に決定する。			
14. 学習の展開及び内容	【テーマ, 学習の目標, 学習の内容, キーワード, 学習の課題, 学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	オリエンテーション (授業の進め方、評価などについて) 教育学理論と実践の融合			
	<b>【学習の目標】</b> 教育学理論と実践の融合について理解を深める。 <b>【学習の内容】</b> 理論と実践の融合とは何か <b>【キーワード】</b> 教育学、実践学 理論と実践の融合 <b>【学習の課題】</b> 理論と実践の融合について理解できる。 <b>【参考文献】</b> 『生成を原理とする 21 世紀音楽科カリキュラム—幼稚園から高等学校まで—』 <b>【学習する上での留意点】</b> 参考文献を読み学習内容についての理解を深めておくこと。			
2～4. テーマ	《芸術論 ART AS EXPERIENCE 第 4 章「表現活動」第 5 章「表現的事物」》			
	<b>【学習の目標】</b> 『芸術論』第 4 章「表現活動」第 5 章「表現的事物」を購読し、表現とは何かについて考察できるようになる。 <b>【学習の内容】</b> 『芸術論』第 4 章と第 5 章の購読。 <b>【キーワード】</b> 表現、芸術、経験 <b>【学習の課題】</b> 第 4 章「表現活動」の内容を整理し、レポートとしてまとめ、発表できる。 <b>【参考文献】</b> J.デューイ『芸術論—経験としての芸術—』 <b>【学習する上での留意点】</b> 事前に『芸術論』の第 4 章と第 5 章を熟読しておくこと。			
5. テーマ	エレメンター (原初的) な表現—授業記録 (ビデオ・DVD) の分析と考察[1]—			
	<b>【学習の目標】</b> 「障害とは何か」について参考文献を基に理解を深め、説明できるようになる。 <b>【学習の内容】</b> 『知的障害のある青年達の音楽行為』の第 1 章「知的障害のある青年とは」の購読 <b>【キーワード】</b> 知的障害、障害の捉え方 <b>【学習の課題】</b> 「障害の捉え方」「知的障害とは何か」について購読し、説明できる。 <b>【参考文献】</b> 『知的障害のある青年達の音楽行為』第 1 章「知的障害のある青年とは」 <b>【学習する上での留意点】</b> 事前に上記参考文献を読んでおくこと。			
6～7. テーマ	エレメンタルな表現—授業記録 (ビデオ・DVD) の分析と考察[2]—			
	<b>【学習の目標】</b> 授業記録の 1 と 2 を基に授業の見方を検討する。記録 1 と記録 2 について分析視点を決め分析することができる。 <b>【学習の内容】</b> 授業記録の分析、参考文献の購読 <b>【キーワード】</b> 授業分析、言葉・動き・音 <b>【学習の課題】</b> 授業分析の方法を理解し、「言葉・動き・音の関連」の視点から分析ができる。 <b>【参考文献】</b> 『知的障害のある青年達の音楽行為』第 2 章「『ころころころ』を題材とする曲づくりの諸事例」 <b>【学習する上での留意点】</b> 授業終了後、参考文献を読んで要点を整理しておくこと。			

8～9.テーマ	エレメンタールな表現—授業記録（ビデオ・DVD）の分析と考察[3]—
	<p>【学習の目標】 授業記録3と記録4について視点を決めて分析することができる。</p> <p>【学習の内容】 授業記録の分析。参考文献の購読</p> <p>【キーワード】 授業分析、擬音語と音楽</p> <p>【学習の課題】 授業分析の方法を理解し、「擬音語と音楽の関連」の視点から分析ができる。</p> <p>【参考文献】 『知的障害のある青年達の音楽行為』第3章「音楽行為にみられる言葉と音楽(曲)との関わり」</p> <p>【学習する上での留意点】 終了後、上記の参考文献を読み要点を整理しておくこと。</p>
10～11.テーマ	エレメンタールな表現—授業記録（ビデオ・DVD）の分析と考察[4]—
	<p>【学習の目標】 授業記録の5と記録6について視点を決めて分析することができる。</p> <p>【学習の内容】 授業記録の分析。参考文献の購読</p> <p>【キーワード】 授業分析、詩と音楽</p> <p>【学習の課題】 授業分析の方法を理解し、「詩と音楽の関連」の視点から分析ができる。</p> <p>【参考文献】 『知的障害のある青年達の音楽行為』第4章「音楽行為にみられる言葉(詩)と音楽(歌)との関わり」</p> <p>【学習する上での留意点】 授業終了後、上記参考文献を読み要点を整理しておくこと。</p>
12～13.テーマ	エレメンタールな表現—授業記録（ビデオ・DVD）の分析と考察[5]
	<p>【学習の目標】 授業記録の7と記録8について視点を決めて分析することができる。</p> <p>【学習の内容】 授業記録の分析。参考文献の購読</p> <p>【キーワード】 授業分析、イメージと音楽</p> <p>【学習の課題】 授業分析の方法を理解し、「音楽とイメージの関連」の視点から分析ができる。</p> <p>【参考文献】 『知的障害のある青年達の音楽行為』第5章「音楽行為におけるイメージの働き」</p> <p>【学習する上での留意点】 授業終了後、上記参考文献を読み要点を整理しておくこと。</p>
14.テーマ	表現の授業を成立させる諸要因
	<p>【学習の目標】 表現の授業を成立させる諸要因について考察することができる。</p> <p>【学習の内容】 「授業における楽しさ」「授業におけるコミュニケーション」</p> <p>【キーワード】 楽しさ、コミュニケーション</p> <p>【学習の課題】 授業を成立させる諸要因について考察できる。</p> <p>【参考文献】 『児童の音楽的発達の考察』『学校音楽教育研究』vol.5</p> <p>【学習する上での留意点】 授業終了後、上記参考文献を読み要点を整理しておくこと。</p>
15.テーマ	表現の授業を成立させる諸要因とこれまでのまとめ
	<p>【学習の目標】 エレメンタールな表現の様相と授業を成立させる諸要因についてまとめ、発表することができる。</p> <p>【学習の内容】 上記目標に記したテーマによるレポート発表</p> <p>【キーワード】 エレメンタールな表現、授業成立の諸要因</p> <p>【学習の課題】 テーマに基づいてレポート発表ができる。</p> <p>【学習する上での留意点】 事前にレポートを作成しておくこと。</p>



1. 科目名 (単位数)	教育方法学演習 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5318
2. 授業担当教員	片岡 浩・田村 にしき			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	教育方法学特論で学んだことをもとに各自の問題意識にかかわる課題を設定してその解明を図ることで教材開発力、授業構想力、教育評価力を高める演習としたい。そのために広く教育方法に関連する文献や資料を収集し、それらの内容について吟味しこれからの学校教育の課題を解決できる力量の形成を目指す。			
8. 学習目標	「音楽、図画工作・美術」に関連するこれからの学校教育の課題、特に教育内容・方法に関する諸問題に関して自分なりの解決ができるようになることを目標とする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	授業ごとに指示する。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 なし。 【参考文献】 必要に応じて資料を配付する。			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 10%、取り組み (試行錯誤や創意工夫など自ら感じ考え、思考し、行動する姿勢) 20% 出席状況 20%、レポート&課題 50%			
12. 受講生への メッセージ	これから求められる教師として資質・能力の向上に努める。			
13. オフィスアワー	初回に決定する。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	教育方法学演習について			
【学習の目標】	芸術表現の意義について考える。			
【学習の内容】	ガイダンス、人間の生活活動における芸術活動の意義について			
【キーワード】	芸術、文化、創造			
【学習の課題】	人間の生活活動における芸術活動の意義について考察する。			
【参考文献】	佐藤学・今井康雄編『子どもたちの想像力を育む—アート教育の思想と実践』東京大学出版会 佐伯胖、藤田英典、佐藤学編『シリーズ学びと文化⑤ 表現者として育つ』東京大学出版会			
【学習する上での留意点】	「教育方法学特論」で学んだことをもとに、芸術と表現の関わりと意義について、事前に考察しておくこと。			
2. テーマ	学校教育における臨床美術の指導①			
【学習の目標】	五感をつかっった造形表現①			
【学習の内容】	演習			
【キーワード】	「みる、きく、かぐ、さわる、あじわう」			
【学習の課題】	「感じ、表現する」			
【参考文献】	資料配布			
【学習する上での留意点】	体験による感覚の認識			
3. テーマ	学校教育における日本の伝統音楽の指導①			
【学習の目標】	学習指導要領における、日本の伝統音楽の位置づけを理解する。 日本の伝統音楽の歴史について理解する。			
【学習の内容】	学習指導要領における、日本の伝統音楽の位置づけ			
【キーワード】	わらべうた、伝統音楽、郷土の音楽			
【学習の課題】	学習指導要領に、日本の伝統音楽の指導がどのように記述されているかを調べる。 日本の伝統音楽には、どのような種目があるかを調べる。			
【参考文献】	文部科学省「小学校学習指導要領解説 音楽編」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 音楽編」 田中健次『図解 日本音楽史』東京堂出版			
【学習する上での留意点】	事前に、学習指導要領を読んでおくこと。			
4. テーマ	学校教育における臨床美術の指導②			
【学習の目標】	五感をつかっった造形表現②			
【学習の内容】	演習			
【キーワード】	「みる、きく、かぐ、さわる、あじわう」			
【学習の課題】	「感じ、表現する」			
【参考文献】	資料配布			
【学習する上での留意点】	体験による感覚の認識			
5. テーマ	学校教育における日本の伝統音楽の指導②			
【学習の目標】	日本の伝統音楽の中で、代表的な音楽である箏曲の歴史や楽器の奏法を理解する。 箏を使って、簡単な弾き歌いや音楽づくりを行う。			
【学習の内容】	箏曲の歴史の理解、箏を使った弾き歌い、音楽づくり			
【キーワード】	和楽器の指導			
【学習の課題】	箏曲の歴史を調べる。			

	<p>箏を使って、簡単な弾き歌いや音楽づくりの実技を行う。</p> <p>【参考文献】 坪能由紀子監修『和楽器にチャレンジ！3 箏をひいてみよう』汐文社 山内雅子・大原啓司編著『授業や音楽会ですぐに使える楽しい箏楽譜集』音楽之友社 川口明子・猶原和子『小学校でチャレンジする！伝統音楽の授業プラン』明治図書</p> <p>【学習する上での留意点】小・中学校の指導にどのように生かすことができるか考えながら、弾き歌いや音楽づくりに取り組むこと。</p>
6 . テーマ	学校教育における臨床美術の指導③
	<p>【学習の目標】 五感をつかった造形表現③</p> <p>【学習の内容】 演習</p> <p>【キーワード】 「みる、きく、かぐ、さわる、あじわう」</p> <p>【学習の課題】 「感じ、表現する」</p> <p>【参考文献】 資料配布</p> <p>【学習する上での留意点】 体験による感覚の認識</p>
7 . テーマ	学校教育における日本の伝統音楽の指導③
	<p>【学習の目標】 「郷土の音楽」の内容と指導法について理解する。</p> <p>【学習の内容】 「郷土の音楽」に関する調べ学習、「郷土の音楽」の指導法に関するディスカッション</p> <p>【キーワード】 郷土の音楽</p> <p>【学習の課題】 ①「郷土の音楽」を1つ取り上げ、調べたことを発表する。 ②教員が、宮城県の小学校で行った「郷土の音楽」の授業実践を紹介する。 ③①、②に基づいて、「郷土の音楽」の指導法について議論する。</p> <p>【参考文献】 資料配布</p> <p>【学習する上での留意点】 事前に、「郷土の音楽」を1つ選び、調べておくこと。</p>
8 . テーマ	1～7で学んだ「表現」について、各自の専門分野と照らし合わせて議論する
	<p>【学習の目標】 芸術表現教育について</p> <p>【学習の内容】 体験をもとに論じる</p> <p>【キーワード】 「みる、きく、かぐ、さわる、あじわう」</p> <p>【学習の課題】 「感じ、表現する」</p> <p>【参考文献】 資料配布</p> <p>【学習する上での留意点】 体験による感覚の認識</p>
9 . テーマ	特別支援学校における音楽と図画工作の授業観察
	<p>【学習の目標】 特別支援学校における芸術科目の授業を観察し、教育内容や指導法について理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 特別支援学校における授業観察</p> <p>【キーワード】 特別支援学校、授業観察</p> <p>【学習の課題】 授業観察を行い、教育内容や指導法について、気付いたことをワークシートにまとめる。</p> <p>【学習する上での留意点】 授業観察は、筑波大学附属視覚特別支援学校で行うことを想定している。 教員の事前の指導を良く聞いて参加すること。</p>
10～13.テーマ	音楽と美術を融合させた教材研究
	<p>【学習の目標】 授業観察経験を活かしての教材研究</p> <p>【学習の内容】 臨床美術・五感に対する刺激と感覚を活かした造形表現の研究</p> <p>【キーワード】 音と関わる造形表現研究と教材研究</p> <p>【学習の課題】 リラックスして楽しめる実践活動の意義と研究</p> <p>【参考文献】 資料配布</p> <p>【学習する上での留意点】 リラックスして楽しめる実践活動と環境づくり</p>
14 . テーマ	9～13までの教材研究及び授業観察のまとめ
	<p>【学習の目標】 9～13までの教材研究及び授業観察を振り返り、ディスカッションを行う。</p> <p>【学習の内容】 9～13までの教材研究及び授業観察の振り返り、まとめ</p> <p>【キーワード】 臨床美術、表現、教育方法</p>
15 . テーマ	最終まとめ
	<p>【学習の目標】 音楽と美術・五感をとおした表現研究</p> <p>【学習の内容】 体験に基づく研究内容のまとめ</p> <p>【キーワード】 臨床美術、表現、教育方法</p> <p>【学習の課題】 「感性・感覚・表現」の教育実践</p> <p>【参考文献】 資料配布</p> <p>【学習する上での留意点】 自ら感じ、考え、実践する。試行錯誤し、創意工夫し、生み出すこと。</p>

1. 科目名 (単位数)	教育方法学演習 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	EDMP5318
2. 授業担当教員	下出 美智子			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	諸外国あるいは自国の学習指導要領と教科書を資料として、学習内容と活動の発展性を考察する。教科や校種は各自の興味・関心を基に選択する。授業はゼミナール形式とし、分析力や議論する力の育成を目指す。			
8. 学習目標	①必要な資料が収集できる。 ②自分が関心を持つ学習指導要領(海外)の翻訳ができる。 ③指導内容、活動の発展性の視点から資料を分析し、レポートを作成して発表できる。 ④発表内容について議論できる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	研究主題に関する(教科書分析、学習指導要領の翻訳等) レポートを作成する。発表レジュメを作成し、プレゼンテーションの練習を行う。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】 なし。 【参考文献】 必要に応じて資料を配付する。			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度(適切な質疑・応答) 20%、レポートの内容 50%、レポート発表 30%			
12. 受講生への メッセージ	これから求められる教師・研究者としての資質の向上に努めてほしい。			
13. オフィスアワー	伊勢崎キャンパス所属の教員のため、メールで事前に連絡して下さい。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	オリエンテーション(授業の進め方、評価などについて)。各自の研究主題を決める			
	【学習の目標】 自分の研究主題(教科書分析等と関わった)を考え、これからの授業に向けての準備を行う。 【学習の内容】 学習指導要領及び教科書 【キーワード】 学習指導要領、教科書 【学習の課題】 それぞれの国独自の学習目標や学習内容があることを知る。 【参考文献】 必要に応じて指示を行う。 【学習する上での留意点】 次回までに各自の興味・関心と関わって研究主題を考え資料を準備しておく。			
2. テーマ	研究主題の検討			
	【学習の目標】 教科書分析等と関わった自分の研究主題と研究方法を検討することができる。 【学習の内容】 研究主題の検討 【キーワード】 教科書、学習指導要領、研究主題 【学習の課題】 研究主題の研究方法的検討ができる。 【参考文献】 各自の興味・関心に基づいて資料を紹介する。 【学習する上での留意点】 事前に簡単なレポートを作成しておく。			
3. テーマ	研究主題の構想発表			
	【学習の目標】 自分の研究主題に関する研究構想をレポートとして作成し、発表することができる。 【学習の内容】 研究主題の構想発表(テーマ、研究目的と方法、資料等について) 【キーワード】 教科書、学習指導要領、研究主題 【学習の課題】 研究主題の構想発表ができる。 【参考文献】 各自の興味・関心に基づいて紹介する。 【学習する上での留意点】 事前に発表に沿ったレポートを作成しておく。			
4~6. テーマ	教科書分析及び学習指導要領の翻訳(1)(2)(3)			
	【学習の目標】 分析視点を持って教科書 1 を分析することができる。 諸外国の事例を扱う場合は学習指導要領を日本語に翻訳することができる。 【学習の内容】 教科書分析、学習指導要領の翻訳 【キーワード】 教科書、学習指導要領 【学習の課題】 分析視点を持って教科書分析ができる。諸外国の学習指導要領を日本語に翻訳できる。 【学習する上での留意点】 資料収集を進めておく。分析や翻訳ができたところまでレポートを作成しておく。			
7. テーマ	教科書分析及び学習指導要領の翻訳の発表と議論(1)			
	【学習の目標】 教科書 1 を分析し、レポートを作成して発表することができる。 学習指導要領を日本語に翻訳し、レポートを作成して発表することができる。 【学習の内容】 教科書分析、学習指導要領の翻訳 【キーワード】 教科書、学習指導要領 【学習の課題】 レポートを作成して発表ができる。 【学習する上での留意点】 ディスカッションに備えて発表内容を深めておく。			
8~10. テーマ	教科書分析(4)(5)(6)			
	【学習の目標】 分析視点を持って教科書 2 を分析する。			

	<p>【学習の内容】教科書分析                  【キーワード】教科書                  【学習の課題】分析視点を持って教科書 2 が分析できる。                  【学習する上での留意点】分析できたところまでレポートを作成しておく。</p>
11. テーマ	教科書分析の発表と議論(2)
	<p>【学習の目標】教科書 2 を分析し、レポートを作成して発表することができる。                  【学習の内容】教科書分析                  【キーワード】教科書                  【学習の課題】レポートを作成して発表ができる。                  【学習する上での留意点】ディスカッションに備えて発表内容を深めておく。</p>
12～14. テーマ	教科書分析(7)(8)(9)
	<p>【学習の目標】分析視点を持って教科書 3 を分析することができる。                  【学習の内容】教科書分析                  【キーワード】教科書                  【学習の課題】分析視点を持って教科書 3 が分析できる。                  【学習する上での留意点】分析できたところまでレポートを作成しておく。</p>
15. テーマ	教科書分析の発表と議論(3), これまでのまとめ
	<p>【学習の目標】教科書 3 を分析し、レポートを作成して発表することができる。これまでの学習を振り返り発表することができる。                  【学習の内容】教科書分析                  【キーワード】教科書                  【学習の課題】レポートを作成して発表できる。                  【学習する上での留意点】ディスカッションに備えて発表内容を深めておく。</p>

1. 科目名 (単位数)	教育臨床心理学特論 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5327
2. 授業担当教員	原 千恵子			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	臨床心理学がこれまでに教育実践においてどのように貢献できたかを考えると多くの疑問があるが、ここでは教育現場である学校での児童・生徒の適応不全、障害、苦悩など様々な問題についてその発生原因、解決の方法について理解し分析する。さらに実践をとおして得られる体験と統合し、現場で表出される現象は臨床心理学の理論を使って説明できるかを研究し、研究成果を公表する。この研究活動は実践的活動と融合して相互に発展させていくものである。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育現場で現在どのような問題があるかを理解する。</li> <li>2. 教育現場に適した研究方法を探究する。</li> <li>3. 問題を理解したり分析できる理論には何があるかを研究する。</li> <li>4. 先行研究を調べる。</li> <li>5. 実践活動で体験した過程、仮説を客観的に理解する。</li> </ol>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育現場へ行き、観察実習し教員の話聞く。</li> <li>2. 自分の児童・生徒の時の体験を思い出しまとめる。</li> <li>3. 臨床心理学関連の文献購読。</li> <li>4. 国の内外の研究論文を読む。</li> </ol>			
10. 教科書・参考書・教材	<b>【教科書】</b> 原 千恵子編著「心理学 A to Z」2007 <b>【参考文献】</b> 原 千恵子・奥村水沙子著 実践から学ぶやさしい臨床心理学 2003 学苑社 原 千恵子著 傾聴・心を聴く方法 2009 学苑社 下山晴彦編著 臨床心理学の新しいかたち 2004 誠信書房 鹿毛雅治編著 教育心理学の新しいかたち 2005 誠信書房 シリーズ・テキスト臨床心理学 (1 理論と方法、2 研究と倫理) 2007 誠信書房 下山晴彦編著 臨床心理学の技法 2003 福村出版			
11. 成績評価の方法	アサインメント (宿題) 及びレポート課題 70% 授業態度 30%			
12. 受講生へのメッセージ	教育臨床心理学は臨床心理学で得られた知識や技術を教育の現場で生かし、効果を得るために研究したり、実践して教育に貢献しようとするものです。講義や研究は、現実と遊離しがちですが、常に教育現場を念頭におき、現場で見られる問題を中心に「なぜ」そのような現象が起きるのか、対処したり改善するためにどのような実際的方法があるのかを考えながら研究を進めてください。			
13. オフィスアワー	木曜日 9時から 12時 そのほか研究室に在室する時はいつでもよい。			
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1～2. テーマ	現在の教育現場を理解する。			
	<b>【学習の目標】</b> 現在の教育現場では何が問題でどのような解決方法が望まれるかについて理解する。 <b>【学習の内容】</b> 実際に学校へ行き授業に参加し、教師の話聞く。 <b>【キーワード】</b> 児童・生徒の実態 児童・生徒と友人・両親・教師との人間関係 児童・生徒の家庭環境 <b>【学習の課題】</b> 学校での児童・生徒の様相を理解する。児童生徒の過去・現在の人間関係を理解する。 <b>【参考文献】</b> 鹿毛雅治編著 教育心理学の新しいかたち 2005 誠信書房 <b>【学習する上での留意点】</b> ①児童、生徒の日常を理解する。②教師から問題などを聞く。			
3～4. テーマ	教育現場で役にたつ研究方法について学ぶ。 1. 質的研究			
	<b>【学習の目標】</b> 質的研究法について学ぶ。 <b>【学習の内容】</b> 学校現場において質的研究の有効性について考える。質的研究にはエスノグラフィー、グランディッド・セオリーなどの理論があるが、これらは実験室的研究のように恣意的ではなく、観察や面接を基本とする。学校の現実を直視できる有効な方法である。 <b>【キーワード】</b> 質的研究 エスノグラフィー、グランディッド・セオリー <b>【学習の課題】</b> 学校教育の現実を観察したり、面接して記録し、データを収集する。 <b>【参考文献】</b> ジェラルド・モンク、ジョン・ウィンズレイド、キャシー・クロケット、デイヴィッド・エプストン編 国重浩一、バーナード紫 ナラティブ・アプローチの理論から実践まで 2008 北大路 Strauss,A.L.&Corbin.J. 南 裕子 (監訳) 人生を物語る一生成のライフストーリー ミネルヴァ書房 南 裕子 質的研究の基礎—グラウンデッド・セオリーの技法と手順 1999 医学書院 <b>【学習する上での留意点】</b> 児童、生徒との直接触れ合いの中から帰納的に理論を作り上げる。			
5～6. テーマ	教育現場で役にたつ研究方法について学ぶ。 2. 量的研究			
	<b>【学習の目標】</b> 情報を数値化することで客観的な情報を得る。主観が入りにくく、一般的な傾向がわかり比較したり、相関関係や、因果関係をさぐることができる。 <b>【学習の内容】</b> 調査や心理尺度を使って多量の情報を収集してデータを解析したり分析して結果を得る。被験者に偏りはないか、適切な規模のデータが得られているか、などについて注意が必要である。数値は万能ではないという認識も必要である。			

	<p>【キーワード】 統計的仮説、相関関係 因果関係</p> <p>【学習の課題】 多数のデータを収集するための準備、計画 分析</p> <p>【参考文献】 渡部 洋 心理・教育のための多変量解析入門（基礎編）1988 福村出版</p> <p>【学習する上での留意点】 数量的データのみには動かされないように留意すること。質的データも同時にとりいれることが望ましい。</p>
7～8.テーマ	<p>問題を理解したり、分析できる理論について検討する。精神分析、分析心理学などを中心とする。</p>
	<p>【学習の目標】 精神分析、分析心理学などの心理学の諸理論を理解する。</p> <p>【学習の内容】 諸理論を理解し各理論の違いを明確にする。学校臨床での問題はこれらの理論で必ずしも解明できることはないが、理論を知っていた方が問題理解が容易になることもある。</p> <p>【キーワード】 精神分析、分析心理学</p> <p>【学習の課題】 諸理論を理解する。</p> <p>【参考文献】 小此木啓吾 現代の精神分析 フロイトからフロイト以後へ 2002 講談社学術文庫 河合隼雄 ユング心理学入門 1967 培風館</p> <p>【学習する上での留意点】 諸理論だけで問題を理解しようとしないうこと。</p>
9～10.テーマ	<p>認知行動療法、来談者中心療法</p>
	<p>【学習の目標】 最近認知行動療法は種々のところで応用されている。目標や結果が明確なので、児童生徒に理解されやすい療法である。学校での問題行動を改善するために適している。来談者中心療法はカウンセリングの基礎であり、学校カウンセリングでも十分役立つ理論である。</p> <p>【学習の内容】 認知行動療法や来談者中心療法を理解し、学校での問題に対処できるようにする。</p> <p>【キーワード】 論理療法、A. エリス ベック 強迫神経症 ロジャーズ、共感、傾聴</p> <p>【学習の課題】 認知行動療法、来談者中心療法ともに基本的な治療法として比較的適用しやすいので的確に習得する。</p> <p>【参考文献】 坂野雄二 認知行動療法行動の基礎—豊かな人間理解のために—1995 培風館 久野徹也 ロジャーズを読む 1997 岩崎学術出版社、諸富祥彦 カール・ロジャーズ入門 1997 コスモスライブラリー</p> <p>【学習する上での留意点】 技術に主眼をおかず常に「こころ」を癒す、とすることを忘れないこと。</p>
11～12.テーマ	<p>心理教育</p>
	<p>【学習の目標】 心理教育は問題を解決したり、予防するために心理学的知識や技術について学ぶことである。心理教育により児童・生徒が主体的に自分の心身の健康を維持できるように指導する。</p> <p>【学習の内容】 学校教育において心理教育は問題の予防、再発防止を目的として本人を取り巻く家族、教師など、集団を対象にして教育することができる。問題に対する知識を獲得することにより、対処するスキル、自己洞察、自尊心の向上などが得られる。</p> <p>【キーワード】 問題理解、解決、予防</p> <p>【学習の課題】 対象者の心身の状況に応じた教育内容を定める。</p> <p>【参考文献】 岡林春雄 心理教育 1997 金子書房</p> <p>【学習する上での留意点】 実際上の効果を示し、具体的なスキルを身につけられるようにすること。</p>
13～14.テーマ	<p>学術雑誌、先行研究により臨床心理学の適用を理解する。</p>
	<p>【学習の目標】 学校現場で臨床心理学の理論を教育にとりいれた研究論文をよむこと。</p> <p>【学習の内容】 先行研究により臨床心理学の適用を理解する。</p> <p>【キーワード】 学校、実践的研究、スクールカウンセラー</p> <p>【学習の課題】 学校において臨床心理学がどのように応用されたかを理解する。</p> <p>【参考文献】 雑誌・心理臨床学研究 一般社団法人日本心理臨床学会</p> <p>【学習する上での留意点】 先行研究では臨床心理学の学校教育への応用がどのようであったかを理解する。</p>
15.テーマ	<p>まとめ</p>
	<p>【学習の目標】 学習をまとめ学会発表のために準備する。学校現場で役に立つ臨床心理学を中心に考える。</p> <p>【学習の内容】 講義のなかで実践に役立つテーマを見出す。</p> <p>【キーワード】 教育現場、臨床心理学、問題</p> <p>【学習の課題】 現場から発生した問題を現場でどのように解決させるか。</p> <p>【参考文献】 テキスト臨床心理学2 研究と倫理 2007 誠信書房</p> <p>【学習する上での留意点】 どの程度の時間と労力が必要かを見極めながら実施すること。</p>

1. 科目名 (単位数)	教育臨床心理学演習 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5328
2. 授業担当教員	原 千恵子			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	学校現場における様々な問題について対処する方法を具体的事例を中心に理解し、援助するための実際的方法を体験的に獲得する。心理学の理論であるロジャーズの来談者中心療法、箱庭療法、自律訓練法、認知行動療法、芸術療法などの実際的技術の習得も演習の目的とし、教育実践のなかで心理学の知見を活かす方法を身につける。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育現場での問題に対応する解決方法を理解する。</li> <li>2. 問題解決のために介入する。</li> <li>4. 教師集団と児童相談所などの社会資源とのコラボレーションを考える</li> <li>5. 実践活動で体験した過程、仮説を客観化し、調査、実験対象として研究する。</li> <li>6. 研究成果をまとめ、学会で発表する。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育現場で何が問題であるかを考える。</li> <li>2. 身近な生徒、児童と関係を作り、彼らの心を理解する</li> <li>3. 臨床心理学関連の文献購読</li> <li>4. 国の内外の研究論文を読む</li> </ol>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<b>【教科書】</b> 原 千恵子・奥村水沙子著 「実践から学ぶやさしい臨床心理学」 2003 学苑社 <b>【参考文献】</b> 原 千恵子編著「心理学 A to Z」 2007 学苑社 原 千恵子著「傾聴・心を聴く方法」 2009 学苑社 下山晴彦編「よくわかる臨床心理学」 2006 ミネルヴァ書房			
11. 成績評価の方法	アサイメント (宿題) 及びレポート課題 70% 授業態度 30%			
12. 受講生への メッセージ	教育臨床心理学演習は教育臨床心理学特論で得られた知識や技術を教育の現場で効果を得るために研究したり、実践して教育に貢献しようとするものです。講義や研究は、現実と遊離しがちですが、ここでは常に教育現場を念頭におき、現場で見られる問題を中心に「なぜ」そのような現象が起きるのか、解決へむけて対処したり改善するためにどのような実際的方法があるのかを考えながら研究を進めてください。			
13. オフィスアワー	研究室に在室している時はいつでもよい			
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1～2.テーマ	教育現場で役にたつアセスメント 1 質問紙法			
	<b>【学習の目標】</b> 質問紙法について理解し、実際に使用する。 <b>【学習の内容】</b> 質問紙法は客観性が高く、集団に実施できるので学校教育で利用価値が高い。質問紙について理解し、適切な使用方法を考える。 <b>【キーワード】</b> 質問紙の種類、質問紙の限界、質問紙の条件 <b>【学習の課題】</b> 実際に児童・生徒に使用してみて質問紙について学ぶ。 <b>【参考文献】</b> 丹野義彦 エビデンス臨床心理学— 認知行動理論の最前線 2001 日本評論社 市川伸一 (編) 心理測定法への招待—測定から見た心理学入門 1991 サイエンス社 福井 至 1997 Depression and Anxiety Mood Scale(DAMS) 開発の試み 行動療法研究, 23, 83-93 <b>【学習する上での留意点】</b> 質問紙法は信頼性、妥当性が検討され保証されていないと見なければならぬ。結果はほとんど数値で示される数値のみで理解し、比較・検討するのは危険である。数値で表現できる限界を知らねばならない。			
3～4.テーマ	教育現場で役にたつアセスメント 2 投影法			
	<b>【学習の目標】</b> 投影法を学んで学校臨床の場で適切に生かす <b>【学習の内容】</b> 投影法は人格検査の 1 つである。投影法の特徴である反応の自由度があり、対象者は防衛なく自己を表現できる。又アセスメントでありながら検査者と被検査者が互いに交流をもつことができ、治療の効果も期待できる。学校での利用価値は大きい。 <b>【キーワード】</b> 投影法、SCT, ロールシャッハ・テスト、P-F スタディ、バウムテスト <b>【学習の課題】</b> 投影法テストのいくつかを習得し、得意なテスト使いこなすこと。 <b>【参考文献】</b> Karen Bolander Assessing Personality Through Tree Drawing 高橋依子訳 樹木画によるパーソナリティの理解 1999 ナカニシヤ出版 Exner, J.E. The Rorschach: A comprehensive system, vol. 1: Basic foundation, 2nd ed. Wiley. <b>【学習する上での留意点】</b> 投影法は主観に偏りやすいので注意が必要である。客観的なテストとともに用いることが重要である。			
5～6.テーマ	知能検査を教育現場で役にたてるためにどのように利用するか。			
	<b>【学習の目標】</b> 知的能力に問題があって適応できない場合に役だてる。知能の本質を理解し、テストの限界についても考える <b>【学習の内容】</b> 知能テストの種類、目的、測定可能な能力などについて理解し適切に用いる。 <b>【キーワード】</b> 知能指数、精神年齢、ビネーテスト、WISC-III、WAIS-R <b>【学習の課題】</b> 教育の現場で適切に知能テストを用いることにより教育効果を期待する <b>【参考文献】</b> 松原達哉編著 心理テスト法入門 基礎知識と技法習得のために 2002 日本文化科学社 <b>【学習する上での留意点】</b> テストの成り立ちを考え、測定可能、不可能を理解した上で適切に用いること。テスト結果が全てでない			

ことを理解し、結果のみで判断しないこと。	
7～8.テーマ	教育効果を高めるための介入モデル 1 箱庭療法
<p>【学習の目標】 個別的な治療ばかりではなく小グループカウンセリングにも箱庭を用いてみる。</p> <p>【学習の内容】 個別で箱庭作品を作ることにより心的開放感を味わえるが、小グループに用いることにより他者への気遣い、仲間意識、共感性などを学ぶ機会を作る。</p> <p>【キーワード】 箱庭作品、共感性、自己意識、他者意識</p> <p>【学習の課題】 作品に表現されたものを理解し、児童・生徒の情緒的な安定感を得られるように用いる。</p> <p>【参考文献】 Kalf, D.M. 大原貢・山中康裕共訳 カルフ箱庭療法 1972 誠信書房 箱庭療法入門 河合隼雄 1969 誠信書房 河合隼雄・中村雄二郎・トボスの知・箱庭療法の世界 1984 TBSブリタニカ 木村晴子 箱庭療法—基礎的研究と実践 1985 創元社</p> <p>【学習する上での留意点】 諸理論だけで問題を理解しようとしないうこと</p>	
9～10.テーマ	教育効果を高めるための介入モデル 2 自律訓練法
<p>【学習の目標】 自律訓練法は他の治療法と違って集団でできる利点を持ち、児童・生徒の精神的な安定感、やる気をひきだすことができる。精神的健康度を高めることができるので一般児童、生徒に有効である。</p> <p>【学習の内容】 自律訓練法の理論と実際を理解し、児童・生徒に実施する。6 公式全部でなく、2 公式のみの習得でも効果は期待できる。自主性を育てる訓練にもなる。</p> <p>【キーワード】 標準練習、6 公式、安定感、能力開発、イライラ感、気づき</p> <p>【学習の課題】 自律訓練法をマスターし、効果を教育に利用する。児童・生徒が自発的に訓練することにより自己コントロール能力をつける。</p> <p>【参考文献】 佐々木雄二 自律訓練法の実際—心身の健康のために 1976 創元社 佐々木雄二 自律訓練法の臨床 岩崎学術出版社、笠井仁 ストレスに克つ自律訓練法 2000 講談社 松岡洋一・松岡素子自律訓練法 1999 日本評論社</p> <p>【学習する上での留意点】 標準練習の 6 公式を学ぶのは時間がかかるので、はじめの 2 公式のみを学んで応用段階としての特殊練習を行ってもよい。特殊練習により自己の目標を達成するために自律訓練法を学ぶ。</p>	
11-12.テーマ	教育効果を高めるための介入モデル 3 描画療法
<p>【学習の目標】 自己像描画、家族画、樹木画などのように絵を描くことにより、児童・生徒に介入し心身の健康を増進させる。</p> <p>【学習の内容】 描画は反応の自由度が高く、自己の内面を表現できる手段である。好きな絵を描くだけで情緒安定をはかることができ、イライラ感をなくしたり、積極的なエネルギーを得ることができる。また絵を介して個人的な対応もグループとしての対応も可能である。絵についての会話は必須で、その中で描き手の深層心理が理解できる。他の介入方法と違って作品を保存することにより、時間経過に従った変化を残すこともできる。</p> <p>【キーワード】 自己像描画、家族画、樹木画、HTP、自由、自己表現、深層心理</p> <p>【学習の課題】 自由に絵を描くことの楽しさを自らも体験すること</p> <p>【参考文献】 研究雑誌 臨床描画研究 日本描画テスト・描画療法学会編</p> <p>【学習する上での留意点】 児童・生徒が制作した作品を心から味わうようにすること。作品について話しあうこと。</p>	
13-14.テーマ	児童期の心の理解
<p>【学習の目標】 児童期の対象者は、心身の未成熟のために心理的問題が体や行動面にあらわれやすい、という特徴を持っている。そのため心身の問題がどこからきているか、見極めがつきにくい 1 面がある。日常場面の行動や、非言語的な手段による把握が必要である。</p> <p>【学習の内容】 話を聞く、と言った一般的な方法にとどまらず一緒に遊ぶ、行動を共にするなどのアプローチが必要な場合がある。この時期の対象者の心理をよく理解したうえで対応の仕方を考える。</p> <p>【キーワード】 心身の未成熟、体や行動の異常、自意識のめばえ</p> <p>【学習の課題】 発達の段階、特徴を十分理解して対応すること</p> <p>【参考文献】 伊藤隆二・橋口英俊・春日喬編 思春期・青年期の臨床心理学 1994 駿河台出版社 佐治守夫 (監修) 思春期の心理臨床 1995 日本評論社 村瀬嘉代子 こどもと大人の心の架け橋 1995 金剛出版</p> <p>【学習する上での留意点】 問題行動が多発しやすい時期なので発達と言う観点から心を理解し、不適応とか異常の判断には慎重でなければならない。</p>	
15.テーマ	思春期の心の理解
<p>【学習の目標】 思春期は第二次性徴を迎え、身体的に急激に変化するので心理的にも混乱する時期である。他者と自分との関係や自分なりの価値観を模索する。そのため周囲との不一致や不適応感をもちやすい。そのような時期を理解し、バックアップすることを目標とする。</p> <p>【学習の内容】 心身ともに不安定になりやすい時期であり、問題も深刻化しやすく、慎重な接し方が必要である。時には児童相談所とのコラボレーションも必要になることもある。一方飛躍的な発達も見られる時期であるので、学校でそのような子ども達をどのように指導するかについて十分な検討が必要である。</p> <p>【キーワード】 不安定、第二次性徴、急激な変化、児童相談所</p> <p>【学習の課題】 対象者の理解、心理的援助、</p> <p>【参考文献】 村瀬孝雄 中学生の心とからだ—思春期の危機をさぐる 1996 岩波書店 福島 章 思春期のこころの深層 1979 大和書房</p> <p>【学習する上での留意点】 大人には気づかない心の動きがある。それをどの程度理解し、バックアップできるかが重要である。</p>	



1. 科目名 (単位数)	健康相談学特論 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5332
2. 授業担当教員	八重樫 節子			
4. 授業形態	講義・(一部演習)		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係	1・2年次以上			
7. 講義概要	<p>昨今、子どもの心身不調や陰湿なネットいじめを代表とする行動の背景に、急速に複雑にからんだ家庭・社会・心理社会的環境の変化が垣間見られる。保健室は心身不調で子どもが自発的に来室する場であることから、養護教諭の職務が注目されている。他の教職員にはない独自の教育的機能が発揮できる職種だからである。養護教諭の力量のうち救急処置機能、カウンセリング機能、生徒指導機能を総合した総合的アプローチがさらに期待されよう。</p> <p>本授業においては、保健室の場が持つ機能をさらに見直すため、毎回、関連した文献を事前に配布し、精読し、授業に臨んでいただく。救急処置機能、カウンセリング機能、生徒指導機能、その他を統合させた総合的アプローチの支援モデルを共に構築することを授業の目標とする。</p> <p># 16 ではともに開発した援助モデルを最終レポート 3000 字にまとめ、討議し有効性の確認することを到達点としたい。</p>			
8. 学習目標	<p>1. 毎回紹介する論文資料を精読し、資料の説明をすることができる。</p> <p>2. 自分なり・または仲間と考案した総合的な支援モデルを説明し討議することができる。</p> <p>3. 救急看護機能、カウンセリング機能、生徒指導機能を総合させた援助モデルを発表し説明できる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<p>課題 1) 養護教諭の行う健康相談と特質 (800字) # 4 提出</p> <p>課題 2) 保健室における養護教諭の対応 (800字) # 8 提出</p> <p>課題 3) 最終レポート「養護教諭の相談における総合的対応のモデル (救急処置機能、カウンセリング機能、生徒指導機能等)」を、3000字前後でまとめ発表する。# 15 提出</p> <p>レポート (課題 1～3) 発表要旨は下記のメルアドに添付ファイルで送信提出して下さい</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】授業時ごとに資料を配布する。			
11. 成績評価の方法	<p>各授業時の振り返り表 小レポート 20%</p> <p>2 アサイメント NO1, NO2 各 20% * 2 40%</p> <p>最終レポート (2000~2300 字) 40%</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>関連諸資料を検証的に学びつつ、借り物ではなく独自の健康相談学をまとめ、カウンセリング機能と生徒指導的機能の自分なりに統合したアプローチを考え、自分の支援モデルを作り上げる。</p> <p>先行文献・資料を批判的に読み、関連学会に報告することをお勧めします。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知します。			
14. 学習の展開及び内容	【テーマ, 学習の目標, 学習の内容, キーワード, 学習の課題, 学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	養護教諭と健康相談			
	<p>【学習の目標】 「健康相談について」 法的根拠について討議する。</p> <p>【学習の内容】 「養護教諭の行う健康相談」とは何かを討議する。</p> <p>【キーワード】 ヘルスカウンセリング、保健室、心の健康</p> <p>【学習の課題】 「健康相談の今」の課題について討議する。</p> <p>【参考文献】 大谷尚子・森田光子他『養護教諭の行う健康相談』東山書房 (各自テキスト)</p> <p>【学習する上での留意点】 子どもの健康課題の背景をおさえていく。</p>			
2. テーマ	健康相談のプロセスとしてのカウンセリング			
	<p>【学習の目標】 「聞く技術の意義について」 プロセスとしてのヘルスカウンセリング (健康相談)。</p> <p>【学習の内容】 短時間・随時の支援から構成されるカウンセリングプロセスの理解。</p> <p>【キーワード】 受容、共感、自己一致、傾聴、カウンセリング技法、来談者中心療法</p> <p>【学習の課題】 行動変容 (時期)、プロセスの理解。(次週予告; Case 事前に配布)</p> <p>【参考文献】 マークヘンダーソン、ローレンスティアニー、ジェラルドスメタナ編・山内豊明監訳『聞く技術』第 2 版、日経 PP、2013。</p> <p>【学習する上での留意点】 演習を通し実体験をしていく。</p>			
3. テーマ	健康相談における見立てについて (事例研究)			
	<p>【学習の目標】 何故、見立てを行うのか。</p> <p>【学習の内容】 子どもが抱えている問題や背景の判断根拠を見極める。</p> <p>【キーワード】 アセスメント、不定愁訴、頻回来室</p> <p>【学習の課題】 健康相談における EBM について学ぶ。(次週資料配付)</p> <p>【参考文献】 テキスト『養護教諭の行う健康相談』大谷尚子 森田光子 東山書房 2012</p> <p>【学習する上での留意点】 事例から子どもの支援手立てを探っていく。</p>			
4. テーマ	養護診断学と健康相談			
	<p>【学習の目標】 健康相談のヘルスアセスメントと養護診断の関係。</p> <p>【学習の内容】 ヘルスアセスメントの実際</p> <p>【キーワード】 不定愁訴、頻回来室、</p> <p>【学習の課題】 養護診断の立て方 (次週資料配付)</p> <p>【参考文献】 高石昌弘・鈴木美智子編『保健室における養護教諭の対応』開隆堂、2003。</p>			

	【学習する上での留意点】 事例から養護診断の立て方を読み取っていく。
5 . テ ー マ	心身健康科学の活用
	<p>【学習の目標】 心身医学と環境要因。</p> <p>【学習の内容】 心理社会的環境の変化</p> <p>【キーワード】 不定愁訴、睡眠障害、自己肯定感、自尊感情、いじめ、不登校</p> <p>【学習の課題】 呼吸器系、循環器系、消化器系、内分泌系、神経・筋肉系、その他</p> <p>【参考文献】 久保千春編『心身医学標準テキスト』第 3 版、医学書院、2009。(次週資料配布) 心身関連の基礎 (他の文献検索中)</p> <p>【学習する上での留意点】 環境が及ぼす身体への影響を追求していく。</p>
6 . テ ー マ	保健室の役割 (かかわり) と生徒指導の役割 (かかわり) を検討する。
	<p>【学習の目標】 解決的・予防的・開発的な発達援助の特徴を考える。</p> <p>【学習の内容】 生徒指導のかかわりと健康相談のかかわりの特徴を調べる。</p> <p>【キーワード】 集団指導、個別指導、教育相談</p> <p>【学習の課題】 それぞれが持つメリット、デメリットについて検討する。</p> <p>【参考文献】 八並光俊・国分康孝編『新生徒指導ガイド』</p> <p>【学習する上での留意点】 それぞれの役割を生かした連携について探っていく。</p>
7 . テ ー マ	学校で養護教諭が活用できる DSM-5 とは
	<p>【学習の目標】 精神医学的診断を巡る思春期保健と養護教諭</p> <p>【学習の内容】 学校現場で高まる精神医学的診断の要請、小児及び青年の精神保健と精神疾患や発達の課題</p> <p>【キーワード】 発達障害、社会不安障害、PTSD、</p> <p>【学習の課題】 学校現場における DSM-5 の適用と養護教諭</p> <p>【参考文献】 『学校で役立つ DSM-5』 日本精神神経学会編・高橋三郎・大野裕監訳『DSM5 精神疾患の診断・統計マニュアル』医学書院、2014。</p> <p>【学習する上での留意点】 障害の理解と手立て及び医療連携を検討していく。</p>
8 . テ ー マ	様々な心的外傷 (いじめ・虐待・DV・津波・大震災等) へのサポートとスーパービジョン
	<p>【学習の目標】 「外傷や身体不調」へ対応、援助しつつ専門研修とスーパービジョン。</p> <p>【学習の内容】 「事例検討」スーパービジョン、外部専門機関連携を事例から学ぶ。</p> <p>【キーワード】 不登校、自殺、暴力行為、いじめ</p> <p>【学習の課題】 外傷既往歴、感情的反応に対する支援、スーパービジョンの受け方。</p> <p>【参考文献】 ジュディス・L・ハーマン、中井久夫訳『心的外傷と回復』みすず書房、2011。 『福島県養護教諭研究会相双支部の(東日本災害)記録』 2013 (森田光子指導)</p> <p>【学習する上での留意点】 子どもの抱える心的ストレスとサインの捉え方を学んでいく。</p>
9 . テ ー マ	「マイクロカウンセリングと基本的かかわり行動」演習
	<p>【学習の目標】 養護教諭は基本的かかわり技法をマスターする。</p> <p>【学習の内容】 かかわり行動、O・Q と C・Q、明確化、感情の反映、要約を習得。</p> <p>【学習の課題】 O・Q、C・Q、言い換え、感情の反映、要約を習得する。</p> <p>【参考文献】 Allen E.Ivey 福原眞智子訳『マイクロカウンセリング：基本的かかわり技法』丸善、1999 (次週資料配付)</p> <p>【学習する上での留意点】 演習を通し体得していく。</p>
10 . テ ー マ	「マイクロカウンセリングと積極行動」：演習
	<p>【学習の目標】 本音の対決、指示、フィードバックと自己開示。</p> <p>【参考文献】 Allen E.Ivey『マイクロカウンセリング：積極技法』(次週資料配付)</p> <p>【キーワード】 かかわり行動 開かれた質問、閉ざされた質問</p> <p>【学習の内容】 かかわり行動と積極技法。</p> <p>【学習の課題】 演習体験とシェアリングする。次週的生活分析ラベル、WIFY 用紙を配布する眼を通してくる。(次週資料配付)</p> <p>【学習する上での留意点】 演習を通しカウンセリングの技法を検討していく。</p>
11 . テ ー マ	「生活を分析し行動の動機づけを図る」演習
	<p>【学習の目標】 登校できない子どもへの動機づけ。</p> <p>【学習の内容】 生活分析的カウンセリング</p> <p>【キーワード】 家庭環境、不安障害、自尊感情の低下、</p> <p>【学習の課題】 自分の生活を視覚分析する、自分の進路に合わせた生活計画を立てる。</p> <p>【参考文献】 松原達哉『生活分析的カウンセリング理論と技法』倍風館、2003。</p> <p>【学習する上での留意点】 不登校の子どもの持つ心理背景を探っていく。</p>
12 . テ ー マ	「子どもが元気技法」(ワークショップ)
	<p>【学習の目標】 ブリーフセラピー：面接マニュアルを理解し習得する</p> <p>【学習の内容】 1) Ci と Th の関係の査定 2) 具体的なゴールをきめる 3) 有効な質問 (例外探し。スケーリング Q などを演習)</p> <p>【キーワード】 問題解決思考、短期療法</p> <p>【学習の課題】 ワークショップをシェアリングする。次週、ニックネームを考えてくる。</p> <p>【参考文献】 森俊夫・黒澤幸子『解決志向ブリーフセラピー』ほんの森出版、2002 (次週資料配付)</p> <p>【学習する上での留意点】 演習を通し技法の理解を図っていく。</p>

13. テーマ	サイコエジュケーションとしてのSGE（演習）
【学習の目標】	学校教育の今日的なふれあいの意義、SGEの目的と指導原理、SGE体験。
【学習の内容】	SGE展開、エクササイズ提示。
【キーワード】	役割演技、
【学習の課題】	キャリア教育は能力育成を主眼とし、人間形成能力（感情交流＝感じる知性EQの指数を高めること。エクササイズを準備し演習体験する。
【参考文献】	①片野智治『教師のためのエンカウンター入門』図書文化、2009 ②国分康孝・久子 片野智治『構成的グループエンカウンター事典』図書文化、2012（次週資料）
【学習する上での留意点】	子どもの立場に立った役割演技の持つ意味を理解していく。
14. テーマ	チーム支援について
【学習の目標】	子どものかかわりを変えるチーム支援を習得する。
【学習の内容】	チームで援助する発想 チームの作り方と進め方 援助資源チェックシート 事例検討会資料でシートを記入する。
【キーワード】	連携、リソース、情報の共有、SCと養護教諭の連携
【学習の課題】	コア援助チーム、拡大援助チーム、ネットワーク型援助チームの理解。
【参考文献】	石隈利紀・山口豊一・田村節子『チーム援助で子どものかかわりが変わる』ほんの森出版、2007 （次週発表要旨、最終レポート、メール提出）
【学習する上での留意点】	チーム支援での養護教諭の果たす役割を理解していく。
15. テーマ	養護教諭が行う健康相談のあり方について。
【学習の目標】	これまでの学びを振り返り、ディスカッションによりグループで総合する。
【学習の内容】	養護教諭が健康相談を行うにあたり何を大切にすることを明確に理解する。
【キーワード】	自己理解、他者理解、健康意識、保健室の機能、アセスメント
【学習の課題】	討議により到達点を高め理解を深める。
【学習する上での留意点】	事例をもとに検討していく。
『養護教諭の相談における総合的アプローチモデル（救急処置機能、カウンセリング機能、生徒指導機能）対応の健康相談』発表要旨：前日までにメール提出する	
3000字レポート『養護教諭の相談における総合的アプローチ（救急処置機能、カウンセリング機能、生徒指導の機能）』発表、討論、質疑応答、シェアリング	

1. 科目名 (単位数)	健康相談学特論 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	EDMP5332
2. 授業担当教員	宋 暁鈞			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし			
7. 講義概要	<p>本科目は、この数年内の急速な社会的なニーズにより専門性の高まりつつある健康相談について学ぶ。養護教諭の健康相談は、養護教諭が学校看護婦として採用されて以来、全国各地の保健室に来室する子どもへの試行錯誤的対応の過程で、作られてきた歴史がある。今日では、様々のストレスで身体疾患を発症したり、再燃・悪化させる狭義の心身症が低年齢化している。あるいは身体疾患に起因する不適応や、身体疾患の治療や管理・不適応から引き起こされている心身不調が多くなっている。身体不調を予防・回避し「よりよく生きる力」を体得することが大切である。例えば、幼少期から緊張場面に遭遇した折り、日常的に体得するセルフコントロールの獲得等があげられる。</p> <p>養護教諭は長年の実践の中で支援法を編み出し独自の、問題発見・解決支援法を確立してきたが、理論的な背景を元に支援実践方法を確立させる時期に来ている。</p> <p>本科目最終のゴールは、このような現代的な健康課題について文献研究 (or 各自の自験例も含む) を行い、「私の健康相談について」を作り出すことを目的とする。</p>			
8. 学習目標	<p>①健康相談活動の意義、保健室における健康相談のプロセス及び専門職としての研修の在り方を理解できるようになる。</p> <p>②健康相談活動(発育相談、疾病異常相談、遺伝の相談等)の遂行に必要な基本的知識と技術を習得できるようになる。</p> <p>③ヘルスカウンセリングの理論と方法を身に付け、応用することができるようになる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<p>①発育相談(主に低身長)の主題とその対応について考えて述べよ。</p> <p>②疾病異常相談(主に糖尿病)の主題とその対応について考えて述べよ。</p> <p>③遺伝の異常(主に奇形)の主題とその対応について考えて述べよ。</p> <p>④授業最終回 (15 回) に、「私の健康相談について」3000 字を完成させて提出する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 杉浦守邦著 『養護教諭講座 11・健康相談活動』 第2版 東山書房 2007年。</p> <p>【参考文献】 森田光子 『養護教諭の健康相談ハンドブック』 初版 東山書房 2010年。 高橋長雄 『からだの地図帳』 講談社 1989年 藤崎 郁 『フィジカルアセスメント 完全ガイド』 学研 2012年。</p> <p>その他、適宜、資料・文献を配布する。</p>			
11. 成績評価の方法	日常の授業態度 (発表態度、討論参加状況) 等 50% レポート・課題提出 50%			
12. 受講生へのメッセージ	関連諸科学 (臨床心理学、社会心理学、カウンセリング全般) 等からの借り物ではなく、養護教諭独自の健康相談学を作り上げるつもりで、文献を批判的に読み、現時点での独自の健康相談論を作り上げて頂きたい。			
13. オフィスアワー	授業のない時間帯に、何時でも結構であるが、研究室で受ける。どんな事でも気軽に来て相談することができる。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1～2. テーマ	科目オリエンテーション (①本科目の構成 ②養護教諭の行う健康相談活動の特性)			
	<p>【学習の目標】本科目の目的である養護教諭の実践力養成と何か、何故必要なのかについて理解する。</p> <p>【学習の内容】講義ガイダンス、健康度とヘルス・ニーズとの関係。</p> <p>【キーワード】健康相談、意義、独自性</p> <p>【学習の課題】テキスト1頁～21頁までの要点を整理する。</p> <p>【参考文献】電子政府総合窓口：学校保健安全法。</p> <p>【学習する上での留意点】学習に際し、常に自らの問題意識を明らかにするように努力する。</p>			
3. テーマ	健康相談の構造と健康相談のプロセス			
	<p>【学習の目標】健康相談の概要と方法について理解する。</p> <p>【学習の内容】健康相談の型と主題、情報の収集と判断。</p> <p>【キーワード】主訴、見立て、支援の目標、支援の実際</p> <p>【学習の課題】テキスト22頁～44頁までの要点を整理する。</p> <p>【参考文献】藤崎 郁 『フィジカルアセスメント 完全ガイド』 学研 2012年</p> <p>【学習する上での留意点】臨床診断学の概要について自習しておく。</p>			
4～8. テーマ	健康相談の理論と方法 (①自主来談型と呼び出し型相談のプロセス ②発育相談 ③疾病異常相談 ④遺伝の相談 ⑤性の相談)			
	<p>【学習の目標】健康相談の理論と方法について理解する。</p> <p>【学習の内容】生徒の身体の発育、疾病、遺伝等について学ぶ。</p> <p>【キーワード】発育過程、疾病の特徴、遺伝の特性</p> <p>【学習の課題】テキスト22頁～219頁までの要点を整理する。</p> <p>【参考文献】高橋長雄 『からだの地図帳』 講談社 1989年 藤崎 郁 『フィジカルアセスメント 完全ガイド』 学研 2012年</p>			

【学習する上での留意点】ポイントを整理しながら、学習の内容を覚える。	
9～10.テーマ	ヘルスカウンセリングの役割
<p>【学習の目標】身体症状が心の健康問題のサインであることについて正確に理解する。</p> <p>【学習の内容】ヘルスカウンセリングの特徴とプロセス</p> <p>【キーワード】気づき、分析、判断、解決。</p> <p>【学習の課題】テキスト 220 頁～246 頁までの要点を整理する。</p> <p>【参考文献】森田光子 『養護教諭の健康相談ハンドブック』 初版 東山書房 2010 年</p> <p>【学習する上での留意点】ヘルスカウンセリングの基礎的知識を補充しておく。</p>	
11～12.テーマ	健康相談における見立ての困難性 (①心因性の判断根拠 ②精神疾患に相談活動の実際)
<p>【学習の目標】心因性の身体症状、精神疾患について理解する。</p> <p>【学習の内容】心身症、精神疾患の症状と相談活動の方針。</p> <p>【キーワード】症状の特徴、ストレス因の探索、解決。</p> <p>【学習の課題】テキスト 22 頁～219 頁までの要点を整理する。</p> <p>【参考文献】森田光子 『養護教諭の健康相談ハンドブック』 初版 東山書房 2010 年</p> <p>【学習する上での留意点】ポイントを整理しながら、学習の内容を覚える。</p>	
13.テーマ	健康相談後の保健室における療法
<p>【学習の目標】保健室で行う療法について理解する。</p> <p>【学習の内容】依存療法、作業療法、芸術療法、発散療法等について学ぶ。</p> <p>【キーワード】メカニズム、技法、効果の観察。</p> <p>【学習の課題】テキスト 22 頁～219 頁までの要点を整理する。</p> <p>【参考文献】森田光子 『養護教諭の健康相談ハンドブック』 初版 東山書房 2010 年</p> <p>【学習する上での留意点】ポイントを整理しながら、学習の内容を覚える。</p>	
14～15.テーマ	①健康相談の現代的な意味や問題と今後の課題 ②「私の健康相談について」(3000 字)の提出。
<p>【学習の目標】健康相談の現代的な意味や問題と今後の課題について考えておく。</p> <p>【学習の内容】健康相談の意義と内容について再度学ぶ。</p> <p>【キーワード】情報の収集、整理、ケア技術。</p> <p>【学習の課題】テキスト 22 頁～219 頁までの要点を整理する。</p> <p>【参考文献】森田光子 『養護教諭の健康相談ハンドブック』 初版 東山書房 2010 年</p> <p>【学習する上での留意点】ポイントを整理しながら、本講義のまとめを行う。</p>	

ウ t 無目名 (単位数)	児童心理学特論 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5344
2. 授業担当教員	原 千恵子			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	発達を量的、質的向上と捉えるのではなく低下も含むと考えると、発達は量的質的变化と考えられ、生涯にわたる。ここではライフサイクルにおける比較的初期の発達を児童心理学ととらえる。人間の初期の発達のさまざまな現象をあつめ、整理された発達の原理・原則を学ぶ。一方、そのような児童心理学で得られた知見を実際の子育てや教育・福祉・司法の場でどのように役立てるかを考える。ここでは特にアタッチメントに焦点をあて実際に子育てや問題行動に対処する方法として考えたい。			
8. 学習目標	児童期の発達研究でどのような知見が得られているか把握する。さらに家庭における育児、学校における教育などにおける実際の問題を解決するにあたり得られた知見がどのように役立てられるか、について考える。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	子育てや教育、福祉において日常的におこる問題をどのように対処するかについて積極的に考える。			
10. 教科書・参考書・教材	内田伸子 (編)『発達心理学キーワード』有斐閣 柏木恵子『発達心理学入門 子どもの発達・学習・社会化』有斐閣 河合隼雄『こころの子育て (誕生から思春期までの 48 章)』朝日新聞出版 河合隼雄『おとなになることのむずかしさ』岩波書店 庄司順一他『アタッチメント』明石書店 数井みゆき 編著『アタッチメントの実践と応用』誠信書房 下山晴彦編・南風原朝和他『心理学研究法入門』東京大学出版会 ボウルビィ、J. 黒田実郎他 (訳)『1976 母子関係の理論 1: 愛着行動』岩崎学術出版			
11. 成績評価の方法	評価方法・評価配分 (パーセンテージ) は、試験 40%、レポート 40% 日常の授業態度 20%			
12. 受講生へのメッセージ	児童心理学は人の発達の基礎を学ぶものです。発達の過程をしっかりと把握することで人を理解することができます。一般的、客観的な発達ばかりでなく個人を中心としたこころの発達をも学びましょう。			
13. オフィスアワー	授業の前夜			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1～2. テーマ	乳幼児期の発達			
【学習の目標】	従来の発達概念ではない「受精から死までの量的・質的变化」を発達ととらえその特徴を理解する。さらに各発達ステージには課題があることを理解する。			
【学習の内容】	心身の機能の発達には分化と統合、方向性、順序性、臨界期・最適期、個人差がある。			
【キーワード】	ハヴィーガーストの発達課題、エリクソンの人格発達図式。			
【学習の課題】	乳幼児の発達の特徴を把握する。人の一生の各段階には課題が想定されていることについて考える。			
【参考文献】	内田伸子 (編)『発達心理学キーワード』有斐閣 柏木恵子『発達心理学入門 子どもの発達・学習・社会化』有斐閣			
【学習する上での留意点】	発達に関するこれまでの知見を理解する。			
3～4. テーマ	遺伝と環境			
【学習の目標】	発達は遺伝と環境のどちらに影響を受けるか。			
【学習の内容】	発達初期に影響を与えるのは何かを理解する。発達と遺伝に関する諸説を理解する。			
【キーワード】	成熟 経験 ゲゼル 輻輳説 相互作用説 刷り込み 臨界期 ローレンツ			
【学習の課題】	発達の複雑さ、多様な要因を理解する。			
【参考文献】	柏木恵子『発達心理学入門 子どもの発達・学習・社会化』有斐閣			
【学習する上での留意点】	遺伝と環境については種々の考え方があるが、どれも実証的な研究は困難なので結論は出しにくい。			
5 テーマ	発達研究法			
【学習の目標】	横断研究と縦断研究 量的研究と質的研究 などの発達研究法を理解する。			
【学習の内容】	これまでの知見がどのような研究法に基づいてなされてきたか検証し実際の研究法について学ぶ。			
【キーワード】	一卵性双生児研究、知能の発達			
【学習の課題】	発達の研究にふさわしい方法はなにか、実際上、実施可能な方法か、等について学ぶ。			
【参考文献】	下山晴彦編・南風原朝和他『心理学研究法入門』東京大学出版会			
【学習する上での留意点】	横断研究、縦断研究の折衷法があり、また同一の研究を量的と質的の双方で結果をだす方法もこころみられている。			
6 . テーマ	アタッチメント 愛着形成・行動・パターン 成長後の愛着			
【学習の目標】	人間の発達のなかで特定の個人と親密な関係を作り、深い情緒的絆を結ぼうとする基本的な欲求があり、アタッチメントという。この行動は人間性のあらゆる基礎を作るものであり長い人生を左右するものである。			
【学習の内容】	アタッチメントはどのような行為をさすか、誰により、どのように形成されるか。人の一生においてどのように重要か、について学ぶ。			
【キーワード】	ボウルビィ、エインズワース、ハーロウ、発信行動、定位行動、ストレンジシチュエーション法。			
【学習の課題】	アタッチメントを的確に学ぶ			
【参考文献】	ボウルビィ、J. 黒田実郎他 (訳)『1976 母子関係の理論 1: 愛着行動』岩崎学術出版			

7～8.テーマ	アタッチメント理論の概要：アタッチメント・システムと養育システム
【学習の目標】	アタッチメント・システムと何か、を学ぶ。
【学習の内容】	乳児はアタッチメント・システムにより外的内的安心を得て不安・危機を回避し安心できる状態を得る。これらは1対1の人間関係のなかで成立する。この関係は比較的長く維持される。
【キーワード】	泣き、ほほえみ、ハイハイ、歩行、シグナル、内的作業モデル、探索システム
【学習の課題】	アタッチメント理論を理解し、実際場面で観察する。
【参考文献】	数井みゆき 編著『アタッチメントの実践と応用』誠信書房
【学習する上での留意点】	乳児のアタッチメントのタイプを理解する。回避型、安定型アンビバレント型、無秩序・無方向型等。
9～10.テーマ	アタッチメントの形成と発達
【学習の目標】	アタッチメントがどのように形成されていくか、を理解する。
【学習の内容】	アタッチメント行動の発達の段階の理解。
【キーワード】	定位・信号行動、特定の人物への近接、接近 ボウルビー、エインスワース
【学習の課題】	アタッチメントの発達を理解する
【参考文献】	庄司順一他『アタッチメント』明石書店
【学習する上での留意点】	アタッチメントは発達する、事を理解する。
11～12.テーマ	家族療法におけるアタッチメント
【学習の目標】	個人の持つアタッチメント理論は幼少期の親子関係を説明するだけでなく、生涯における対人関係を説明する。恋人夫婦・親子などの対人関係に大きな影響を与える。
【学習の内容】	アタッチメント理論により家族関係を回復できる。安定したアタッチメントを持っている親は子の不安感を敏感にキャッチし共感し慰めることが可能である。
【キーワード】	内的作業モデル、世代間モデル、安心の基地としての家族
【学習の課題】	アタッチメント理論による家族療法、自立と依存
【参考文献】	数井みゆき 編著『アタッチメントの実践と応用』誠信書房
【学習する上での留意点】	実際の家族間のコミュニケーションの重要性を理解する。
12～13.テーマ	学校の保健室におけるアタッチメント
【学習の目標】	子どもに安心の基地を与える。相談の場である保健室が安全の場であること。
【学習の内容】	養護教諭が柔軟、誠実、尊敬、信頼、温かい、開放的であること。秘密保持、児童生徒の立場に立って傾聴し続けることにより保健室がアタッチメント形成の場となる。
【キーワード】	安全な場、秘密保持、内的治療関係、2者共同の心的探索
【学習の課題】	保護し、安全を確保するが、分離の可能性をも考えられること。
【参考文献】	数井みゆき 編著『アタッチメントの実践と応用』誠信書房
【学習する上での留意点】	子どもとのアタッチメントを実現しつつ分離も考える。
14～15.テーマ	ニート・ひきこもりの治療におけるアタッチメント
【学習の目標】	ニート・引きこもりの改善にアタッチメント・システムが果たす役割を考える。
【学習の内容】	ニート・引きこもりと親の関係；子がアタッチメントが活性化された時に親が適応的な応答ができなかった。またはできて子どもが安心できなかった。不安や怒りをもてあましている。
【キーワード】	不安、怒りの受容
【学習の課題】	ニート、ひきこもりはなおるか。
【参考文献】	数井みゆき 編著『アタッチメントの実践と応用』誠信書房
【学習する上での留意点】	安易には解決できない問題であることに留意すること。

1. 科目名 (単位数)	心理統計学演習 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5342
2. 授業担当教員	柴田 隆史			
4. 授業形態	講義・演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	本講義では、研究や調査を行うために必要な統計学の基礎理論と方法について扱い、データの分析方法や実験計画法を学ぶ。具体的には、講義形式による解説と、統計解析ソフトを利用したデータ分析による演習を行う。また、分析方法や結果の論文への記述方法などといったテクニカル・ライティングについても扱う。研究を行う上での基本的な統計処理を扱うこととする。			
8. 学習目標	1. 基礎的な心理的統計手法を理解できるようになる。 2. データに対して適切な検定を使用して分析をすることができるようになる。 3. 分析した結果について意味を解釈でき、記述できるようになる。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	授業中に学習テーマごとに出す課題に対して課題レポートを作成する。また、授業で扱うためのデータ収集やプレゼンテーションの準備などを授業時間外に行うこともある。			
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】山田剛史・村井潤一郎 著 『よくわかる心理統計』ミネルヴァ書房、2008 石村貞夫・石村友二郎 (著) 『SPSS による多変量データ解析の手順 第4版』東京図書、2011 【参考書】授業内で適宜紹介する。			
11. 成績評価の方法	出席状況や授業への取り組み、課題により総合的に評価する。 授業参加 30%、課題発表 (プレゼンテーション) 30%、課題レポート 40%			
12. 受講生への メッセージ	本講義では、受講生が積極的に演習や議論に参加して、自ら考えることに主体をおきます。それは研究や教育において極めて重要なことだと考えています。研究において客観性が大事であることは言うまでもありませんが、統計学を学ぶことで、例えば取得したデータに差があるのか、あるいは差がないのかといったことを判断することができます。			
13. オフィスアワー	初回授業で伝える。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	心理統計法について			
【学習の目標】	心理学の研究になぜ統計法が必要なかを理解する。			
【学習の内容】	心理学と記述統計、心理学と推測統計、心理統計の実際。			
【キーワード】	記述統計、推測統計、など。			
【学習の課題】	心理学の研究に統計法を用いることの利点を理解する。			
【学習する上での留意点】	これまでに学んだ統計について復習してこること。			
2. テーマ	1つの変数の特徴を記述する			
【学習の目標】	変数の特徴を理解し、記述できるようになる。			
【学習の内容】	尺度水準、変数変換、代表値、散布度、標準化。			
【キーワード】	名義尺度、比率尺度、間隔尺度、代表値、分散、Z 得点、標準偏差、など。			
【学習の課題】	①変数の特徴が理解できるようになること。 ②変数の性質によって、適用可能な統計技法が異なることを理解すること。			
【学習する上での留意点】	データ・数値の見方に慣れること。			
3. テーマ	2つの変数の関係を記述する			
【学習の目標】	2つの変数間の関係をとらえる方法を理解し、その結果を記述できるようになる。			
【学習の内容】	散布図、共分散、相関係数、クロス集計。			
【キーワード】	相関関係、共分散、相関係数、クロス集計表、カイ 2 乗値、連関係数、など。			
【学習の課題】	変数の性質に合わせて、2つの変数の関係をとらえる方法を理解すること。			
【学習する上での留意点】	自身の研究テーマや興味、実例などに関連付けて、取り組むこと。			
4. テーマ	標本から母集団を推測する (1)			
【学習の目標】	サンプルデータ (標本) から母集団を推測する方法を理解する。			
【学習の内容】	母集団分布の仮定、正規分布とその性質、標準正規分布。			
【キーワード】	母集団、ランダムサンプリング、サンプルサイズ、正規分布、標準正規分布、など。			
【学習の課題】	全数調査と標本調査の違いについて理解する。			
【学習する上での留意点】	自身の研究テーマや興味、実例などに関連付けて、取り組むこと。			
5. テーマ	標本から母集団を推測する (2)			
【学習の目標】	サンプルデータ (標本) から母集団を推測する方法を理解する。			
【学習の内容】	標本分布、標準誤差、推定量、不偏性。			
【キーワード】	標本分布、標準誤差、推定値、期待値、標本分散、不偏分散、など。			
【学習の課題】	標本調査における標本の偏りについて理解する。			
【学習する上での留意点】	自身の研究テーマや興味、実例などに関連付けて、取り組むこと。			
6. テーマ	統計的仮説検定の考え方			
【学習の目標】	統計的仮説検定の考え方について理解する。			



【学習の内容】	帰無仮説と対立仮説、有意水準、両側検定と片側検定の違い、統計的仮説検定の手順。
【キーワード】	帰無仮説、有意水準、臨界値、両側検定、片側検定、危険率、検定力、など。
【学習の課題】	①統計的仮説検定の考え方を正しく理解する。 ②第一種の誤りと第二種の誤りについて理解する。
【学習する上での留意点】	自身の研究テーマや興味、実例などに関連付けて、取り組むこと。
7 . テ ー マ	2つの平均値を比較する (1)
【学習の目標】	$t$ 検定を用いて 2 つの平均値を比較する方法を理解し、その結果を記述できるようになる。
【学習の内容】	独立な 2 群の平均値を比較するための $t$ 検定。
【キーワード】	$t$ 分布、 $p$ 値、有意差、など。
【学習の課題】	①サンプルデータの特徴に基づいて、適切な $t$ 検定の方法を選択できるようになる。 ② $t$ 検定を理解する。
【学習する上での留意点】	自身の研究テーマや興味、実例などに関連付けて、取り組むこと。
8 . テ ー マ	2つの平均値を比較する (2)
【学習の目標】	$t$ 検定を用いて 2 つの平均値を比較する方法を理解し、その結果を記述できるようになる。
【学習の内容】	対応のある 2 群の平均値を比較するための $t$ 検定。
【キーワード】	$t$ 分布、 $p$ 値、有意差、など。
【学習の課題】	①サンプルデータの特徴に基づいて、適切な $t$ 検定の方法を選択できるようになる。 ② $t$ 検定を理解する。
【学習する上での留意点】	自身の研究テーマや興味、実例などに関連付けて、取り組むこと。
9 . テ ー マ	3つ以上の平均値を比較する (1)
【学習の目標】	分散分析を用いて 3 つ以上の平均値の比較をする方法を理解し、その結果を記述できるようになる。
【学習の内容】	1 要因分散分析。
【キーワード】	被験者間計画、被験者内計画、要因、水準、自由度、 $F$ 分布、多重比較、など。
【学習の課題】	①実験計画法について理解する。 ② 1 要因分散分析を理解し、どのような場合に用いるかについて考える。
【学習する上での留意点】	自身の研究テーマや興味、実例などに関連付けて、取り組むこと。
10 . テ ー マ	3つ以上の平均値を比較する (2)
【学習の目標】	分散分析を用いて 3 つ以上の平均値の比較をする方法を理解し、その結果を記述できるようになる。
【学習の内容】	2 要因分散分析。
【キーワード】	被験者間計画、被験者内計画、2 要因混合計画、要因、水準、自由度、 $F$ 分布、主効果、交互作用、多重比較、等。
【学習の課題】	2 要因分散分析を理解し、どのような場合に用いることが可能かについて考える。
【学習する上での留意点】	自身の研究テーマや興味、実例などに関連付けて、取り組むこと。
11 . テ ー マ	多変量解析 (1) ある変数から他の変数を予測する
【学習の目標】	重回帰分析の方法を理解し、その結果を記述できるようになる。
【学習の内容】	重回帰分析。
【キーワード】	偏回帰係数、変数選択、多重共線性、標準編回帰係数、重相関係数、など。
【学習の課題】	重回帰分析の方法について理解する。
【学習する上での留意点】	自身の研究テーマや興味、実例などに関連付けて、取り組むこと。
12 . テ ー マ	多変量解析 (2) 複数の変数の相関関係を因子によって説明する
【学習の目標】	因子分析の方法を理解し、その結果を記述できるようになる。
【学習の内容】	因子分析。
【キーワード】	構成概念、探索的因子分析、確証的因子分析、主因子法、最尤法、最少二乗法、共通性、など。
【学習の課題】	因子分析の方法について理解する。
【学習する上での留意点】	自身の研究テーマや興味、実例などに関連付けて、取り組むこと。
13 . テ ー マ	多変量解析 (3) 複数の変数の相関関係を因子によって説明する
【学習の目標】	因子分析の方法を理解し、その結果を記述できるようになる。
【学習の内容】	因子分析。
【キーワード】	構成概念、探索的因子分析、確証的因子分析、主因子法、最尤法、最少二乗法、共通性、など。
【学習の課題】	因子分析の方法について理解する。
【学習する上での留意点】	自身の研究テーマや興味、実例などに関連付けて、取り組むこと。
14 . テ ー マ	分析結果の発表
【学習の目標】	自身が分析した内容と結果について説明できる。
【学習の内容】	本講義で分析をした結果を記述し、発表をする。
【キーワード】	各テーマで挙げたキーワード全体。
【学習の課題】	分析内容や分析結果について、口頭で説明ができるように十分理解しておく。
【学習する上での留意点】	自身の研究テーマや興味、実例などに関連付けて、取り組むこと。
15 . テ ー マ	総括
【学習の目標】	分析結果を論文で記述できるようにする。
【学習の内容】	これまで扱った検定、分析について全体的に復習をする。
【キーワード】	各テーマで挙げたキーワード全体。
【学習の課題】	自身の論文執筆を踏まえて、操作の手続きや分析結果の解釈について確認しておく。
【学習する上での留意点】	本講義で学んだことを自身の研究で活用できるように再確認しておく。

1. 科目名 (単位数)	心理統計学演習 (2 単位)	名古屋	3. 科目番号	EDMP5342
2. 授業担当教員	内藤 伊都子			
4. 授業形態	講義、演習、実習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	研究方法として数量的アプローチを考えている場合に、リサーチデザインや実際の調査、分析、分析結果の意味の解釈および修士論文執筆に際し必要となってくる心理統計の基礎的な内容を扱っていく。統計解析ソフト SPSS を使用しながら、実際のデータを使って各テーマの分析をおこなっていく。段階的に進めていくため、前半はゆっくり丁寧な解説をしながら基本を定着させ、受講者の進捗を見ながらより専門的な分析や場合によってはテーマ外の検定も含めて受講者が必要とする分析も扱っていくこととする。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 修士論文を作成する際に必要となる基礎的な心理的統計手法を理解できるようになる。</li> <li>2 実際に扱った検定を使用して分析をすることが可能となる。</li> <li>3 分析した結果について意味を解釈できるようになる。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	講義で扱った検定を使用して自身で分析をし、その内容について調査レポートを作成する。詳細については、講義内で指示する。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>石村貞夫・石村光資郎 著『SPSS による統計処理の手順 第 7 版』東京書籍、2013。 石村貞夫・石村友二郎 著『SPSS による多変量データ解析の手順 第 4 版』東京書籍、2011。</p> <p>【参考書】</p> <p>内田治 著『すぐわかる SPSS によるアンケートの多変量解析 第 3 版』東京書籍、2011。 石村貞夫・石村光資郎 著『SPSS による分散分析と多重比較の手順 第 4 版』東京書籍、2011。 小塩真司 著『SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第 2 版』東京書籍、2011。 小塩真司 著『研究事例で学ぶ SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第 2 版』東京書籍、2012。 酒井麻衣子 著『SPSS 完全活用法 データの入力と加工』東京書籍、2011。 杉山高一・藤越康祝・小椋透 著『多変量データの統計科学 1 多変量データ解析』朝倉書店、2014。 資料適宜配付、その他文献は講義内で紹介する。</p>			
11. 成績評価の方法	<p>分析の実技 30%</p> <p>課題発表 30%</p> <p>調査レポート 40%</p> <p>これらを総合的に評価する。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	実際に SPSS を動かしながら段階的に各検定を進めていくため、授業に出席しわからないことがある場合は放置せず、積極的に参加していくことが肝要である。本科目で扱うのは数理統計ではなく心理統計であるため、難しく考え過ぎずに実際のデータから慣れていくこと。			
13. オフィスアワー	初回の講義内で通知する。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	人間を情報源とした調査の方法			
	<p>【学習の目標】多様な研究方法について知識を深め、自身の研究テーマとあわせて方法を検討する。</p> <p>【学習の内容】科目への導入として、教育を研究するにあたりどのような方法が可能であるか、科学的調査にはどのような方法があるかなどについて概説する。</p> <p>【キーワード】実験法、観察法、面接法、質問紙法、リサーチデザイン など。</p> <p>【学習の課題】教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。</p> <p>【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。</p>			
2. テーマ	心理統計の考え方			
	<p>【学習の目標】心理統計の基礎的な考え方をおさえながら、統計の用語に慣れていく。</p> <p>【学習の内容】心理統計としての基礎的な考え方について解説していく。</p> <p>【キーワード】背理法、帰無仮説、有意水準、母集団、サンプリング など。</p> <p>【学習の課題】教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。</p> <p>【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。</p>			
3. テーマ	データの入力と加工			
	<p>【学習の目標】データを入力し加工して分析用のデータファイルを作成する。</p> <p>【学習の内容】収集したデータをどのようにデータ化して入力したり分析用に加工したりするか、統計分析するためのデータファイルを作成する方法について扱っていく。</p> <p>【キーワード】質的データ、量的データ、名義尺度、順位尺度、間隔尺度、比率尺度 など。</p> <p>【学習の課題】教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。</p> <p>【参考文献】上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。</p>			

4 . テ ー マ	基礎統計量
	<p>【学習の目標】 キーワードのような統計用語についてその意味を確認し理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 記述統計や度数分布などの統計処理の手続きと算出された数字の意味について解説していく。</p> <p>【キーワード】 平均、標準偏差、分散、最頻値、中央値、最大値、最小値、度数分布表 など。</p> <p>【学習の課題】 教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。</p>
5 . テ ー マ	対応のない 2 群の平均の差の検定
	<p>【学習の目標】 2 群の平均の差が統計的に意味のある差であるのかどうかについて理解できる。</p> <p>【学習の内容】 2 つの母平均の差の検定の統計処理の手続きと算出された結果の解釈について解説していく。</p> <p>【キーワード】 <math>t</math> 検定、<math>t</math> 値、母平均の差、有意確率、等分散性の検定 など。</p> <p>【学習の課題】 教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。</p>
6 . テ ー マ	対応のある 2 群の平均の差の検定
	<p>【学習の目標】 対応のないデータと対応のあるデータの違いについて理解できる。</p> <p>【学習の内容】 データが対応している場合の 2 つの母平均の差の検定の統計処理の手続きと、算出された結果の解釈について解説していく。</p> <p>【キーワード】 対応のあるデータ、両側検定、片側検定、自由度、相関係数 など。</p> <p>【学習の課題】 教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。</p>
7 . テ ー マ	因子分析（1）手続き、回転方法
	<p>【学習の目標】 いくつかの変数の背後に潜む共通因子を探り出す手法について理解できる。</p> <p>【学習の内容】 因子分析の統計処理の手続きと回転方法について解説していく。</p> <p>【キーワード】 因子、標準得点、因子構造、バリマックス回転、プロマックス回転、最尤法、最小二乗法 など。</p> <p>【学習の課題】 教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。</p>
8 . テ ー マ	因子分析（2）因子の抽出方法、因子の意味の解釈
	<p>【学習の目標】 因子分析の操作と抽出方法、下位尺度としての因子の扱いについて理解できる。</p> <p>【学習の内容】 因子分析の方法や分析後の因子の抽出方法、因子の命名、尺度の信頼性などについて解説していく。</p> <p>【キーワード】 固有値、累積寄与率、因子負荷量、因子間相関、因子プロット、下位尺度、クロンバックのアルファ係数 など。</p> <p>【学習の課題】 教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。</p>
9 . テ ー マ	一元配置の分散分析
	<p>【学習の目標】 3 群以上の母平均の差の分析方法について操作し、結果が解釈できる。</p> <p>【学習の内容】 対応のない因子の分散分析と多重比較の統計処理の手続きと、算出された結果の解釈について解説していく。</p> <p>【キーワード】 一要因、分散分析、F 値、多重比較、Tukey の HSD 検定 など。</p> <p>【学習の課題】 教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。</p>
10 . テ ー マ	反復測定による一元配置の分散分析
	<p>【学習の目標】 下位尺度として対応のない因子および対応のある因子のデータを扱うことができる。</p> <p>【学習の内容】 対応のある因子による一元配置の分散分析と多重比較の統計処理の手続きと、算出された結果の解釈について解説していく。</p> <p>【キーワード】 反復測定、一般線型モデル、被験者内因子、プロファイルプロット など。</p> <p>【学習の課題】 教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。</p>
11 . テ ー マ	二元配置の分散分析
	<p>【学習の目標】 データの種類による分散分析の方法について理解し、二元配置の分散分析の操作ができる。</p> <p>【学習の内容】 分散分析の種類および二元配置の分散分析と多重比較の統計処理の手続きについて解説していく。</p> <p>【キーワード】 二要因、独立変数、従属変数、クラスカル・ウォリスの検定、繰り返しのない二元配置の分散分析 など。</p> <p>【学習の課題】 教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。</p>
12 . テ ー マ	多変量分散分析
	<p>【学習の目標】 交互作用や主効果などについて理解し、二元配置の分散分析と多変量分散分析の結果が解釈できる。</p>

	<p>【学習の内容】 多変量分散分析と多重比較の統計処理の手続きと算出された結果の解釈について、二元配置の分散分析の結果とあわせて解説していく。</p> <p>【キーワード】 多変量、交互作用、単純主効果、主効果、シンタックス など。</p> <p>【学習の課題】 教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。</p>
13. テーマ	重回帰分析
	<p>【学習の目標】 重回帰分析を理解し、操作と結果の解釈ができる。</p> <p>【学習の内容】 因果関係にある多変量間の関係を表す方程式を求める手法の統計処理の手続きと結果の解釈について解説していく。</p> <p>【キーワード】 重回帰直線、重回帰方程式、重決定係数、標準偏回帰係数 など。</p> <p>【学習の課題】 教科書や参考書を利用して、上記のキーワードについて触れている部分に事前に目を通しておくこと。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究テーマに関連付け、どのような内容や分析が可能であるか考えながら受講することを勧める。</p>
14. テーマ	分析結果の発表
	<p>【学習の目標】 自身が分析した内容と結果について説明できる。</p> <p>【学習の内容】 本科目用に自身で設定した内容について分析し、結果の資料を提示しながら発表する。</p> <p>【キーワード】 各テーマで挙げたキーワード全体</p> <p>【学習の課題】 分析内容や分析結果について、口頭で説明ができるように十分理解しておく。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 自身の研究で使用予定の検定があれば、統計処理の手続きについて不明な部分がないようにしておく。</p>
15. テーマ	総括、調査レポートの提出
	<p>【学習の目標】 分析結果を論文レベルで執筆できるようにする。</p> <p>【学習の内容】 これまで扱った検定、分析について全体的に復習をする。</p> <p>【キーワード】 各テーマで挙げたキーワード全体</p> <p>【学習の課題】 論文執筆を踏まえて、操作の手続きや分析結果の解釈について確認しておく。</p> <p>【参考文献】 上記 10 で挙げた教科書および参考書、配付資料、その他文献は講義内で紹介する。</p> <p>【学習する上での留意点】 最終的に自身の調査分析と修士論文執筆につなげられるように再確認しておく。</p>

1. 科目名 (単位数)	生徒指導特論 (2 単位)	伊勢崎・名古屋	3. 科目番号	EDMP5311
2. 授業担当教員	【伊勢崎】鈴木 達也 【名古屋】石崎 達也			
4. 授業形態	講義、演習、集団討論		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	秋期の生徒指導演習と通年で履修することが望ましい。			
7. 講義概要	生徒指導に求められているのは、自発性と自律性、さらには社会性の育成であり、これは教科や特別活動など教育課程にある教育活動を効果的に実践する上においても必要なものである。つまり、生徒指導は、学校教育の根幹を支える重要な教育活動であり、すべての教師がすべての児童・生徒を対象に行うことが大切である。そこで本講義はまず、この広義の生徒指導を構成するところの①生徒指導(狭義)、②進路指導も含むキャリア教育、③教育相談について、その理論的枠組みと現状及び課題について考察する。そのうえで児童・生徒の問題行動を取り上げ、予防的、開発的なかわりについても着目し、そのあり方を考察する。			
8. 学習目標	<p>生徒指導を展開する際に必要な実践力の育成を目指す。教師の生徒指導力は、個人的な経験に偏ることなく、事象を科学的に検討、分析する力と、その結果から判断する介入に効果的な技術力ではあるが、本講義では主として第一の科学的検討能力の獲得を主たる目標とする。ただし、人の育成にかかわる活動であり、理論と方法、技術を分離してとらえることはもともと困難である。そのため方法論、技術論の学習も随時展開する。主な学習目標は次で3点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自国の生徒指導の特質を説明することができる。</li> <li>2 発達段階に応じ他児童生徒理解のあり方について説明することができる。</li> <li>3 自国の教育課程外の教育活動(生徒指導、キャリア教育、教育相談)の構造と内容について説明することができる。</li> </ol>			
9. アサインメント(宿題)及びレポート課題	<p>テーマごとに配布資料を熟読し、要点を報告できるようにしておくことが望ましい。また、次の事柄については、あらかじめ予習しておくこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の問題行動の現状と課題</li> <li>・若者が抱えている諸問題に関する課題と支援策</li> <li>・キャリア教育</li> <li>・教育相談</li> <li>・学級経営の意義と学級集団づくりの方法</li> </ul>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『生徒指導提要』教育図書株式会社、2011年。</p> <p>【参考文献】 高橋哲夫編『生徒指導の研究』教育出版株式会社、2009年。 生徒指導資料第1集『生徒指導上の諸問題の推移とこれからの生徒指導』ぎょうせい、2009年。 楠本恭久編著『新 生徒指導論 12 講』福村出版、2009年。 広岡義之編著『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論 —「生徒指導提要」に触れつつ』あいり出版、2013年。 日本生徒指導学会『現代生徒指導論』学事出版、2015年。 その他、適宜授業中に指示する。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 成績評価は、①授業態度(30%)、②課題レポート(40%)、③研究発表(30%)の成果によって決められる。</li> <li>2 院生としての基準に満たないレポートは、基準を満たすまで書き直しが求められる。</li> </ol>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>大学院では「先行研究の読解力」「論理的思考力」「学術的文章の作成力」を鍛えることが求められています。自らの研究論文作成に向け、講義に受け身の姿勢で臨むのではなく、自ら進んで文献・資料収集、調査研究を行うなど、試行錯誤しながら学びを深めて行ってください。また、本講義は秋期の「生徒指導演習」の演習活動に向けた基礎的知識の獲得や調査・研究活動に求められる諸能力を高めることを目的としています。</p>			
13. オフィスアワー	<p>鈴木達也：事前にアポイントをとってください E-mail: t-suzuki@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 石崎達也：事前にアポイントをとってください E-mail: taishiza@ed.tokyo-fukushi.ac.jp</p>			
14. 学習の展開及び内容				
1. テーマ	生徒指導特論を学ぶ目的			
【学習の目標】	本講義の目的である教師の実践力形成と何か、なぜ必要なのかについて理解する。			
【学習の内容】	講義ガイダンス、アイスブレイキング、グループ討議を行う。			
【キーワード】	生徒指導 異質性 価値観 共有			
【学習の課題】	講義内容の要点を整理し、小レポートにまとめること。			
【参考文献】	授業内で配布する「参考文献一覧」を参照			
【学習する上での留意点】	学習に際し、常に自らの問題意識を明らかにするよう努力する。			
2. テーマ	生徒指導の概要と原理			
【学習の目標】	生徒指導の概要と活動を支える原理について理解する。			
【学習の内容】	生徒指導の定義と課題、内容について、活動原理として人間観、自己指導力、集団効果などについて学ぶ。			
【キーワード】	教育課程 自己指導力 人間観 自由と安全 価値観			
【学習の課題】	講義内容の要点を整理し、小レポートにまとめること。			
【参考文献】	授業内で配布する「参考文献一覧」を参照			
【学習する上での留意点】	異質性に対して柔軟かつ寛容な姿勢で臨むことを心がける。			

3 . テ ー マ	生徒理解
【学習の目標】	生徒理解の概要と方法について理解する。
【学習の内容】	生徒理解の必要性和定義、内容と留意点について、さらに観察法と面接法について学ぶ。
【キーワード】	共感的理解 観察法 面接法
【学習の課題】	講義内容の要点を整理し、小レポートにまとめること。
【参考文献】	授業内で配布する「参考文献一覧」を参照
【学習する上での留意点】	生徒理解に関する心理学の概要について自習しておくこと。
4 . テ ー マ	生徒指導（狭義）の主体と組織
【学習の目標】	生徒指導の意義と内容を確認し、主体と組織並びに教師の共通理解の必要性和その際の課題について理解する。
【学習の内容】	生徒指導部の活動、校務分掌の在り方、校内組織との連携について学ぶ。
【キーワード】	生徒指導部 校務分掌 連携
【学習の課題】	講義内容の要点を整理し、小レポートにまとめること。
【参考文献】	授業内で配布する「参考文献一覧」を参照
【学習する上での留意点】	心理学、教育学、社会学など生徒指導を理解するに必要と考える知見を自学自習しておくこと。
5 . テ ー マ	教育活動と生徒指導
【学習の目標】	教科教育、道徳、特別活動における生徒指導について効果と限界について理解する。
【学習の内容】	教育課程における教育活動取り上げ、そこにおける生徒指導の実状について学ぶ。
【キーワード】	教科教育 学級活動 道徳
【学習の課題】	講義内容の要点を整理し、小レポートにまとめること。
【参考文献】	授業内で配布する「参考文献一覧」を参照
【学習する上での留意点】	教育に関する新聞やインターネット記事など社会の現状を報告するものに鋭敏に反応すること。
6 . テ ー マ	生徒指導と連携
【学習の目標】	家庭、地域との連携の必要性和その際の学校の枠割について理解する。
【学習の内容】	連携する際の要点を整理すると同時に、学校の機能について学ぶ。
【キーワード】	家庭 地域 連携
【学習の課題】	理不尽な家庭の要求など現代における家庭と連携の在り方について自分の考えを持てるようにする。
【参考文献】	授業内で配布する「参考文献一覧」を参照
【学習する上での留意点】	教育に関する新聞やインターネットの情報などに目を通しておくこと。
7 . テ ー マ	問題行動の理解（1）
【学習の目標】	問題行動とは何かについて、定義と分類を理解し、そのうえで早期発見の必要性を理解する。
【学習の内容】	反社会的、非社会的問題行動を取り上げその概要を学ぶと同時に早期発見の必要性についても実践的に学ぶ。
【キーワード】	反社会的問題行動 非社会的問題行動 早期発見
【学習の課題】	問題行動のなかから関心のあるものを選び、原因や対処法などについて整理する。
【参考文献】	『新生徒指導論 1 2 講』、新聞等資料
【学習する上での留意点】	教育に関する新聞やインターネットの情報などに目を通しておくこと。
8 . テ ー マ	問題行動の理解（2）
【学習の目標】	不登校、いじめの実情と対応について認知的に正確に理解する。
【学習の内容】	不登校、いじめの実情を踏まえた上で、その予防策や解決策について討議する。
【キーワード】	不登校 いじめ
【学習の課題】	講義内容の要点を整理し、小レポートにまとめること。
【参考文献】	『新生徒指導論 1 2 講』、新聞等資料
【学習する上での留意点】	教育に関する新聞やインターネットの情報などに目を通しておくこと。
9 . テ ー マ	進路指導の概要
【学習の目標】	進路指導の概要について理解する。
【学習の内容】	進路指導の意味と意義、目標、並びに内容と領域について学ぶ。
【キーワード】	啓発的経験 追指導
【学習の課題】	講義内容の要点を整理し、小レポートにまとめること。
【参考文献】	『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論 — 「生徒指導提要」に触れつつ』、新聞等資料
【学習する上での留意点】	教育に関する新聞やインターネットの情報などに目を通しておくこと。
10 . テ ー マ	進路指導の今日的課題
【学習の目標】	進路指導の現状と課題について理解する。
【学習の内容】	組織と計画、並びに具体的進め方について臨床的に学ぶ。あわせて昨今の青年期を取り巻く状況について学ぶ。
【キーワード】	キャリア教育 フリーター ニート
【学習の課題】	講義内容の要点を整理し、小レポートにまとめること。
【参考文献】	『教育実践に役立つ生徒指導・進路指導論 — 「生徒指導提要」に触れつつ』、新聞等資料
【学習する上での留意点】	教育に関する新聞やインターネットの情報などに目を通しておくこと。
11 . テ ー マ	教育相談の概要
【学習の目標】	教育相談の概要について理解する。
【学習の内容】	教育相談の意味と意義、目標並びに内容と領域について、さらには校務分掌、専門家（機関）との連携、担任の役割について学ぶ。

	<p>【キーワード】 コンサルテーション 人間関係 プロモーション</p> <p>【学習の課題】 講義内容の要点を整理し、小レポートにまとめること。</p> <p>【参考文献】 授業内で配布する「参考文献一覧」を参照</p> <p>【学習する上での留意点】 カウンセリング心理学の基礎的知識を補充しておく。</p>
12. テーマ	教育相談の組織と計画及び進め方
	<p>【学習の目標】 教育の展開と特質について理解する。</p> <p>【学習の内容】 教育相談の場についてと具体的展開について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 相談室 面接 問題の見立て 守秘義務 倫理</p> <p>【学習の課題】 講義内容の要点を整理し、小レポートにまとめること。</p> <p>【参考文献】 授業内で配布する「参考文献一覧」を参照</p> <p>【学習する上での留意点】 カウンセリングの基礎的知識を補充しておく。</p>
13. テーマ	学級経営の理論と方法
	<p>【学習の目標】 学級・ホームルーム経営の方法や進め方を理解する。</p> <p>【学習の内容】 学級・ホームルームの経営の基本課題、その意義やねらいについての理解を背景として、指導の方法を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 集団経営、教室経営、事務経営、連携経営、適応指導経営、学習経営</p> <p>【学習の課題】 講義内容の要点を整理し、小レポートにまとめること。</p> <p>【参考文献】 授業内で配布する「参考文献一覧」を参照</p> <p>【学習する上での留意点】 特別活動の指導法で学んだ学級活動、ホームルーム活動を復習しておく。</p>
14. テーマ	学級経営の組織と計画
	<p>【学習の目標】 学級経営を行う上での組織作りとその実践に対する客観的な評価の在り方、その配慮事項を理解する。</p> <p>【学習の内容】 学級の組織編成と経営案の作成、また、その評価内容を学ぶ。さらに、効果的な学級経営の仕方を学ぶ。</p> <p>【キーワード】 保護者との連携、児童・生徒理解、カウンセリングマインド</p> <p>【学習の課題】 講義内容の要点を整理し、小レポートにまとめること。</p> <p>【参考文献】 授業内で配布する「参考文献一覧」を参照</p> <p>【学習する上での留意点】 教育実習先等、各学校の学級経営案を見直しておく。</p>
15. テーマ	ふりかえりと総括
	<p>【学習の目標】 本講義のまとめを行う。</p> <p>【学習の内容】 前半で講義全体をふりかえり討議し、後半でまとめを行う。</p>

1. 科目名 (単位数)	生徒指導演習 (2 単位)	伊勢崎・名古屋	3. 科目番号	EDMP5312
2. 授業担当教員	【伊勢崎】古俣 龍一 【名古屋】石崎 達也			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	春期の生徒指導特論を履修していることが望ましい。			
7. 講義概要	生徒指導特論における生徒指導の理論的枠組みの理解をもとに、本演習では実践を前提とした理論・方法について学ぶ機会を提供する。生徒指導の理論・方法は、児童生徒の成長を促し、問題行動を予防するとともに問題行動解決の過程のいずれの段階においても教師のその力量が大きな影響を与える。そのためこれらを理解し習得することは、生徒指導の実践上の必須課題である。同時に、児童生徒の理解や問題行動のとりえ方や児童生徒と教師の教育的関係の構築に関する重要な理論・実践を検討・分析する中で、受講者各自の関心・問題意識をもとにした調査研究に関する指導・援助も行う。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>今日の生徒指導の現状と問題点を分析・考察するため先行研究を分析・考察し、批判的に論じることができる。</li> <li>今日の児童生徒理解の理論・方法を分析・考察するための先行研究を分析・考察し、批判的に論じることができる。</li> <li>個々の事例における児童生徒の問題行動の特徴や課題に応じて、自ら予防・解決に向けた対策を立てることができる。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマごとに討論するため、事前に配布資料を熟読し、自らの意見や調査した内容をA4版2枚程度にまとめた資料を準備すること。</li> <li>生徒指導上の諸問題に関する調査を実施し、その成果を発表すること。</li> </ul>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『生徒指導提要』教育図書、2011年。</p> <p>【参考書】 古俣龍一『トラベジウム-先生と生徒の学級通信』圭文社、2009年。 川本隆史編『ケアの社会倫理学 医療・看護・介護・教育をつなぐ』有斐閣選書、2005年。 Nel Noddings, <i>The Challenge to Care in Schools: An Alternative Approach to Education</i>, Advances in Contemporary Educational Thought series, vol. 8. New York: Teachers College Press, 1992. (邦訳)ノディングズ『学校におけるケアの挑戦-もう一つの教育を求めて』ゆるみ出版、2007年。) *その他、発展的学習のための参考書は必要に応じて授業の中で紹介するので、図書館を活用すること。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>成績評価は、①授業態度(30%)、②課題レポート(40%)、③研究発表(30%)の成果によって決められる。</li> <li>院生としての基準に満たないレポートは、基準を満たすまで書き直しが求められる。</li> </ol>			
12. 受講生へのメッセージ	大学院では「先行研究の読解力」「論理的思考力」「学術的文章の作成力」を鍛えることが求められています。自らの研究論文作成に向け、講義に受け身の姿勢で臨むのではなく、自ら進んで文献・資料収集、調査研究を行うなど、試行錯誤しながら学びを深めて行ってください。また、本講義は前期開講の「生徒指導特論」での学びをふまえ、更なる展開として、生徒指導上の諸課題に関する課題分析能力およびプレゼンテーション能力に付けることを目的としています。			
13. オフィスアワー	古俣龍一：事前にアポイントをとってください E-mail:rykomata@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 石崎達也：事前にアポイントをとってください E-mail:taishiza@ed.tokyo-fukushi.ac.jp			
14. 学習の展開及び内容				
1~4. テーマ	児童生徒理解に関する実践的・研究的課題-学級経営、各教科・道徳等との関わり			
	<p>【学習の目標】 学校現場におけるさまざまな活動から、児童生徒理解の意義についての理解を深める</p> <p>【学習の内容】 「児童生徒を理解するとはどういうことか」について討論し、前提となる教育観や指導観を交流する。</p> <p>【キーワード】 共感的理解 児童生徒の自己理解 教師の自己理解 学級づくり 道徳 総合的な学習の時間</p> <p>【学習の課題】 児童生徒及び教師自身の自己理解の重要性について考察を深め、自らの意見をレポートにまとめること。</p> <p>【参考文献】 授業内で配布する「参考文献一覧」を参照</p> <p>【学習する上での留意点】 生徒指導理解に関する先行研究をレビューする。</p>			
5~7. テーマ	問題行動等への対応に関する実践的・研究的課題			
	<p>【学習の目標】 問題行動に対する生徒指導の理論・方法について検討する。</p> <p>【学習の内容】 いじめ、不登校、その他の問題行動に関する事例をもとに、課題解決に向けた討論を行う。</p> <p>【キーワード】 いじめ 不登校 自殺 暴力 万引き 飲酒 喫煙</p> <p>【学習の課題】 問題解決に向けた対策を検討した上で、問題行動等への対応に関する自らの意見をレポートにまとめること。</p> <p>【参考文献】 授業内で配布する「参考文献一覧」を参照</p> <p>【学習する上での留意点】 児童生徒の問題行動への対処に関する先行研究をレビューする。</p>			
8~10. テーマ	キャリア教育に関する実践的・研究的課題			
	<p>【学習の目標】 キャリア教育の実践と今日的課題について検討する。</p> <p>【学習の内容】 キャリア教育の理論を理解した上で、キャリア発達とその支援について意見をまとめ、交流する。</p> <p>【キーワード】 キャリア発達 生涯発達 進路相談 フリーター・ニート問題</p> <p>【学習の課題】 キャリア教育の今日的課題を検討した上で、キャリア教育のあり方について自らの意見をレポートにまとめること。</p> <p>【参考文献】 授業内で配布する「参考文献一覧」を参照</p> <p>【学習する上での留意点】 キャリア教育に関する先行研究をレビューする。</p>			



11~12.テーマ	教育相談に関する実践的・研究的課題
【学習の目標】	教育相談の事例から教育相談の技法と生徒指導のあり方を検討する。
【学習の内容】	基本的なカウンセリング方法を学び、受講者同士でロールプレイを行い、その体験をもとに討論する。
【キーワード】	クライアント カウンセラー 観察
【学習の課題】	討論した内容をもとに、教育相談の意義と課題に関する自らの意見をレポートにまとめること。
【参考文献】	授業内で配布する「参考文献一覧」を参照
【学習する上での留意点】	カウンセリングの基礎を復習しておくこと
13~15.テーマ	調査報告
【学習の目標】	生徒指導上の諸問題に関して各自が調査した内容をレポートにまとめて報告すること。
【学習の内容】	各自が 20 分程度の研究発表を行った上で、そのテーマに関する討論を行う。
【キーワード】	基本的な生活習慣 校内規律 少年非行 いじめ インターネット・携帯電話に関わる課題 性に関する課題 命の教育と自殺防止 児童虐待 不登校 ケアリング スクール・ソーシャルワーク
【学習の課題】	発表の際、研究発表に関する基本的なルールにしたがうとともに、発表の仕方も十分に工夫すること。
【参考文献】	授業内で配布する「参考文献一覧」を参照
【学習する上での留意点】	終了後、各自の発表をふりかえり、課題をレポートにまとめること。

1. 科目名 (単位数)	地域連携福祉教育特論 (2 単位)	伊勢崎・名古屋	3. 科目番号	EDMP5316
2. 授業担当教員	【伊勢崎】鈴木 雄司 【名古屋】鈴木 路子			
4. 授業形態	講義、演習、プレゼンテーション		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	1年生			
7. 講義概要	<p>学校教育と同様に学校外での教育も子どもの生活に多大な影響を及ぼしている。本講義では、学校教育の中にあつて、学校外教育の果たす役割や意義について、歴史的に遡り、理論的な整理を行う。また、実際どのような実態にあるのか、特定の地域をモデルに調査を行い、地域と子どもたちの結びつきを把握する。さらに、学校外での教育のあり方についてこれまでの研究と取組を踏まえてプランを作成する。</p> <p>前提として、子どもたちの教育や福祉、生活の背景にある少子高齢社会の実態について基本的な理解を得ることも必要である。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>現在の日本の置かれている少子高齢社会についての現状について認識を明確にする。</li> <li>学校教育における学校外教育の位置付けについて理論的に理解を深める。</li> <li>学校外教育の現在の取り組みについて具体的な把握及び分析を行い、現状への認識を高める。</li> <li>学校外教育の実態について、大学が存立する地域である伊勢崎市をモデルに具体的調査を行う。</li> <li>地域社会と子どもたちの活動の結びつきについて、具体的事例を収集する。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>地域社会と子どもたちの接点にある事業や行事を抽出し、分析を行い、レポートとしてまとめる。</li> <li>地域連携事業の企画、実施。</li> </ol>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>門脇厚司著 「子どもの社会力」岩波新書 門脇厚司著 「社会力を育てる」岩波新書</p> <p>【参考文献】</p> <p>田中治彦著 「学校外教育論」学陽書房 ロジャー・ハート著 「子どもの参画」萌文社 池本美香著 「子どもの放課後を考える」勁草書房</p>			
11. 成績評価の方法	<p>試験方法は、口頭試問及び調査報告とします。</p> <p>評価は授業への積極的な参加度 50%、口頭試問 30%、調査報告 20%。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>学校外教育とは何か、現在の状況を踏まえて、改めて認識を一致させたいと考えています。また、具体的な事例を検討する中で、問題解決の方法を学びます。学生同士のお互いの関係も重要ですから、時間外での交流や討論も必要と考えています。</p> <p>学生による主体的な学習を重視します。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に通知する。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1. テーマ	オリエンテーション、少子高齢社会に対する認識			
	<p>【学習の目標】少子高齢社会の実態と問題について認識を深める。</p> <p>【学習の内容】少子化の現状と課題について政府の資料とデーターを基に認識を明確にする。</p> <p>【キーワード】少子化・高齢化 非婚・晩婚化 地域社会 子育て支援</p> <p>【学習の課題】①少子化の現状と問題点を理解する。 ②諸外国の実態と取組を理解する。 ③日本における少子化の現状と政府の対策について認識を深める。 ④少子化問題に対する諸論について把握する。</p> <p>【参考文献】「厚生労働白書」、「少子化白書」、「先進諸国の人口問題 少子化と家族政策」阿藤誠編など</p> <p>【学習する上での留意点】資料、データーから実態を正確に読み取り、討論を通じて少子化の全体像を把握する。</p>			
2. テーマ	少子高齢社会における子どもの教育			
	<p>【学習の目標】少子化における子どもの教育について認識を明確にする。</p> <p>【学習の内容】文部科学省中央教育審議会（「少子化と教育について」2010年）の報告を基に少子化における子どもの教育について認識を深める。とりわけ、子ども数の減少による子ども同士、特に異年齢の子ども同士の交流の機会の減少、過保護化などにより、子どもの社会性がはぐくまれにくくなるなど、子ども自身の健やかな成長への影響について把握する。</p> <p>【キーワード】子ども同士の交流・ふれあい 子どもの社会力</p> <p>【学習の課題】①少子化が教育に与える影響について理解する。 ②少子化に対応するための具体的方策について学習する。</p> <p>【参考文献】山田 昌弘『少子社会日本—もうひとつの格差のゆくえ』（岩波新書） 「少子化対策推進基本方針」（平成11年12月少子化対策推進関係閣僚会議）</p> <p>【学習する上での留意点】時系列に併せて報告書等を正確に読取る。</p>			
3. テーマ	学校外教育について			
	<p>【学習の目標】これまでの学校外教育の研究、実践、諸論について学習し、現在に継承すべき問題を認識する。</p> <p>【学習の内容】学校外教育の研究文献についての学習。</p> <p>【キーワード】学校外教育 社会教育 社会参加</p> <p>【学習の課題】①学校外教育に関わる先行研究について整理を行う。 ②学校外教育の活動について歴史的に整理を行う。</p> <p>【参考文献】「学校外教育論」田中治彦 学陽書房、子どもの参画」ロジャー・ハート 萌文社</p>			

【学習する上での留意点】 学校外教育の研究論文について時系列において整理する。	
4 . テ ー マ	地域社会と子ども
<p>【学習の目標】 変貌する地域社会について認識を深めるとともに、地域で生活する子どもたちの実態を把握する。</p> <p>【学習の内容】 地域社会の変容と子どもの生活の変化について事例を基に認識を深める。</p> <p>【キーワード】 地域社会、生活体験、自然体験、社会体験、地域の教育力</p> <p>【学習の課題】 ①戦後の地域社会の変容について子どもの視点から整理を行う。 ②戦後、子どもの地域でのかかわりについて、外遊び、まつり、地域行事等を通じて変化を把握する。</p> <p>【参考文献】 「キーワード地域社会学」地域社会学編 2000 ハーベスト社、都市社会学の眼」奥田道大（ハーベスト社 2000 年）</p> <p>【学習する上での留意点】 地域の様々な活動の中から地域社会と子どもとの関係を浮き立たせる。</p>	
5 . テ ー マ	子どもの社会力Ⅰ
<p>【学習の目標】 「子どもの社会力」、「社会力を育てる力」について文献を通じて理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 学校外での活動が行われるには、子どもたちの地域とのかかわりと同時に多様な大人と関係する力が必要である。「子どもの社会力」の続編である「社会力を育てる」の文献について学習し、社会力の必要性について討論を通じて認識を深める。</p> <p>【キーワード】 子どもの社会力、地域社会、互恵的協働社会、人とつながる力</p> <p>【学習の課題】 ①子どもの社会力についての意味、役割について理解を深める。 ②子どもの社会力を育てる地域計画について具体例を検討する。</p> <p>【参考文献】 「子どもの社会力」門脇厚司 岩波新書、社会力を育てる」門脇厚司 岩波新書</p> <p>【学習する上での留意点】 日本の教育のあり方と対比して子どもの社会力について理解を深める。</p>	
6 . テ ー マ	子どもの社会力Ⅱ
<p>【学習の目標】 「子どもの社会力」、「社会力を育てる力」について文献を通じて理解を深める。</p> <p>【学習の内容】 学校外での活動が行われるには、子どもたちの地域とのかかわりと同時に多様な大人と関係する力が必要である。「子どもの社会力」の続編である「社会力を育てる」の文献について学習し、社会力の必要性について討論を通じて認識を深める。2 回目については、グループごとに分かれて討論により内容を深める。</p> <p>【キーワード】 子どもの社会力、地域社会、互恵的協働社会、人とつながる力</p> <p>【学習の課題】 ①子どもの社会力についての意味、役割について理解を深める。 ②子どもの社会力を育てる地域計画について具体例を検討する。</p> <p>【参考文献】 「子どもの社会力」門脇厚司 岩波新書、社会力を育てる」門脇厚司 岩波新書</p> <p>【学習する上での留意点】 日本の教育のあり方と対比して子どもの社会力について理解を深める。</p>	
7 . テ ー マ	地域調査Ⅰ
<p>【学習の目標】 大学と地域連携の協定を結んでいる伊勢崎市をフィールドに学校外教育の具体的事例を収集する。</p> <p>【学習の内容】 伊勢崎市の学校外教育の事例を調査する。伊勢崎市教育委員会及び近隣小学校への聞き取り調査。</p> <p>【キーワード】 地域の子ども会、少年団、児童館、直接体験</p> <p>【学習の課題】 具体的な事例の収集を行う。</p> <p>【参考文献】 「子どもの学校外での学習活動に関する実態調査報告について」文科省</p> <p>【学習する上での留意点】 伊勢崎市教育委員会及び小学校へのアポイントメント。</p>	
8 . テ ー マ	地域調査Ⅱ
<p>【学習の目標】 大学と地域連携の協定を結んでいる伊勢崎市をフィールドに、学校外教育の具体的事例を収集する。</p> <p>【学習の内容】 伊勢崎市の学校外教育の事例を調査する。伊勢崎市教育委員会及び近隣小学校への聞き取り調査。</p> <p>【キーワード】 地域の子ども会、少年団、児童館、生活体験</p> <p>【学習の課題】 具体的事例の収集を行う。</p> <p>【参考文献】 文科省 校外での学習活動に関する実態調査報告について</p> <p>【学習する上での留意点】 伊勢崎市教育委員会及び小学校へのアポイントメント。</p>	
9 . テ ー マ	地域の児童福祉施設への訪問（児童館）
<p>【学習の目標】 伊勢崎市の児童館を訪問し、放課後における児童館での子どもの実態を調査する。</p> <p>【学習の内容】 学校の授業が終了した後、地域の児童館で子どもたちがどのような活動を展開しているか、実態を調査し、学校外活動を考察する。</p> <p>【キーワード】 児童館、放課後児童クラブ、遊び、仲間関係、地域社会</p> <p>【学習の課題】 子どもたちの活動内容を把握する。遊び、活動、仲間関係、地域とのつながりなど、子どもと子どもを取り巻く環境を把握する。</p> <p>【参考文献】 「児童館」児童健全育成推進財団</p> <p>【学習する上での留意点】 児童館での子どもたちの実際の活動と声を収集する。</p>	
10 . テ ー マ	地域調査の結果分析Ⅰ
<p>【学習の目標】 伊勢崎市での学校外教育活動の調査と児童館での活動について結果を分析する。</p> <p>【学習の内容】 調査結果を分析して、伊勢崎市での学校外教育活動の内容を把握する。</p> <p>【キーワード】 地域社会、子ども集団、児童館、放課後児童クラブ、青少年育成運動</p> <p>【学習の課題】 調査結果について事実を把握する。</p> <p>【参考文献】 「伊勢崎市の市制概要」伊勢崎市</p> <p>【学習する上での留意点】 全国的な資料・データと比較しながら結果を分析する。</p>	
11 . テ ー マ	地域調査の結果分析Ⅱ
<p>【学習の目標】 伊勢崎市での学校外教育活動の調査結果、児童館での活動について結果を分析する。</p> <p>【学習の内容】 調査結果を分析して、伊勢崎市での学校外教育活動の傾向を把握する。</p> <p>【キーワード】 地域社会、子ども集団、児童館、放課後児童クラブ、青少年育成運動</p>	

	<p>【学習の課題】 調査結果について事実を把握する。</p> <p>【参考文献】 「伊勢崎市の市制概要」伊勢崎市</p> <p>【学習する上での留意点】 全国的な資料・データと比較しながら結果を分析する。</p>
1 2 . テ ー マ	地域活動への提言 I
	<p>【学習の目標】 これまでの学習・討議と具体的な調査に基づき、今後の学校外教育についてのイメージを構築する。</p> <p>【学習の内容】 今後の学校外教育について具体的な調査結果を基に学校外教育における地域活動のプランニングの作業を行う。</p> <p>【キーワード】 ソーシャルキャピタル、社会参加指数、社会交流指数、信頼指数</p> <p>【学習の課題】 具体的なプランを作成する。</p> <p>【参考文献】 「ザ・マインドマップ」トニー・ブザン (著)神田 昌典 (翻訳)</p> <p>【学習する上での留意点】 プランニングに際して、マインドマップ等の手法を活用する。</p>
1 3 . テ ー マ	地域活動への提言 II
	<p>【学習の目標】 これまでの学習・討議と具体的な調査に基づき、今後の学校外教育についてのイメージを構築する。</p> <p>【学習の内容】 今後の学校外教育について具体的な調査結果を基に学校外教育における地域活動のプランニングの作業を行う。</p> <p>【キーワード】 ソーシャルキャピタル、社会参加指数、社会交流指数、信頼指数</p> <p>【学習の課題】 具体的なプランを作成する。</p> <p>【参考文献】 「ザ・マインドマップ」トニー・ブザン (著) 神田 昌典 (翻訳)</p> <p>【学習する上での留意点】 プランニングに際して、マインドマップ等の手法を活用する。</p>
1 4 . テ ー マ	今後の学校外教育にあり方について パネル化
	<p>【学習の目標】 現在の学校外教育の実態を踏まえて、今後の学校外教育のあり方について考察を加える。</p> <p>【学習の内容】 学習した内容、調査した資料を基にパネル化の作業を図る。</p> <p>【キーワード】 地域コミュニティ、地域コーディネーター、連携と協働</p> <p>【学習の課題】 パネル化により視覚化の作業とまとめのプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行う。</p> <p>【参考文献】 「分かりやすい説明」の技術 最強のプレゼンテーション 15 のルール (ブルーボックス) (新書) 藤沢 晃治</p> <p>【学習する上での留意点】 資料の選択、資料の収斂化を図る。データを視覚的に処理する。</p>
1 5 . テ ー マ	学校外教育についての総括
	<p>【学習の目標】 学校外教育特講でこれまで取り組んできた学習内容を総括する。</p> <p>【学習の内容】 授業全体を振り返り、成果と問題を明らかにする。</p> <p>【キーワード】 少子高齢社会、学校外教育、地域コミュニティ</p> <p>【学習の課題】 学校外教育の内容と今後の課題を明確にする。</p> <p>【参考文献】 「コミュニティ教育論」岡崎友典 放送大学教育振興会</p> <p>【学習する上での留意点】 学生による総括と授業評価を行う。</p>

1. 科目名 (単位数)	人間関係特論 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5343
2. 授業担当教員	原 千恵子			
4. 授業形態	講義、演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	学校現場における様々な問題は人間関係から発生するし、現実の問題に対処する方法も人間関係の中でなされる。そのように考えると教育現場において人間関係の重要性が理解できる。人間関係は教育の基本である。児童・生徒と教師、その親との関係、児童・生徒同士の関係、教師同士の関係をよりよい関係にすることにより、教育効果を高めることができる。実際的な人間関係能力を高めるために社会的スキルの練習や訓練も行う。感情処理のスキル、攻撃に対処するスキルの実際、集団に適用できるセカンドステップなどの技法を獲得する。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人はどのように環境を理解し、他者に働きかけるかを理解する。</li> <li>2. 自己意識の形成について理解する。</li> <li>3. 自己開示について。</li> <li>4. コミュニケーションの形成。</li> <li>5. 援助行動について。</li> <li>6. 攻撃行動について。</li> <li>7. 対人関係に関するスキルを理解する。集団によるセカンドステップやSSTの導入により健康な人間関係を築く。</li> </ol>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分が児童・生徒であったときの人間関係の体験を思い出しまとめる。</li> <li>2. 自分の考えがどの程度相手に伝わっているかについて考える。</li> <li>3. 親しい人々との関係をどのように形成したかを考える。</li> </ol>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<b>【教科書】</b> 大坊郁夫・安藤清志編『社会のなかの人間理解』ナカニシヤ出版、2004年。 下山晴彦編『よく分る臨床心理学』ミネルヴァ書房、2006年 前田ケイ・安西信雄編『本人・家族のためのSST実践ガイド』日本評論社、2008年 菊池章夫著『社会的つながりの心理学』川島書店、2008年			
11. 成績評価の方法	アサイメント (宿題) 及びレポート課題 70% 授業態度 30%			
12. 受講生への メッセージ	人間関係のあり方は教育の基礎であり、心理学の基礎でもあります。人間関係を円滑に作る事ができればほとんどの問題は生じません。そこで人間関係を規定する要因は何かについて考えます。種々の要因が挙げられますがそのなかで現実的な対応のためのスキルがない子ども達には練習してスキルを身につける訓練をします。人間関係が苦手と言う人の中にスキルを身につけることで解決できる人は、内面から改善すると言うよりも実際的な行動を変えていこうとするものです。楽しい雰囲気の中で挨拶や自己紹介の練習をしていくうちに自然と人間関係が身につけてきます。			
13. オフィスアワー	木曜日 9時から 12時 そのほか研究室に在室する時はいつでもよい。			
14 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1～2.テーマ	人の環境に対する認知の仕方を理解する。			
	<b>【学習の目標】</b> 人はどのように環境を理解し対応するか。 <b>【学習の内容】</b> 人の環境に対する認知の仕方を理解する。「見たいように見る」欲求と認知の関係、人の感性、防衛的態度が知覚に無意識に影響を与えていること、などを理解する。 <b>【キーワード】</b> 環境の捉え方、知覚の機能、知覚と人間理解 <b>【学習の課題】</b> 学校での児童・生徒の環境に対する働きかけを理解する。他者の言ったことをその通り理解しているか、自分が言ったことがその通りに理解されているかについて考えてみる。 <b>【参考文献】</b> 大坊郁夫・安藤清志編 社会のなかの人間理解 2004 ナカニシヤ出版 <b>【学習する上での留意点】</b> 児童・生徒を学校という環境のなかで把握する			
3～4.テーマ	自己意識の形成について理解する。			
	<b>【学習の目標】</b> 自己意識はどのように形成されるか。 <b>【学習の内容】</b> 学校という集団の中で児童・生徒はどのように自己を形成していくか。他者との関わりの中で現実の自己が偏って理解され問題の発生となる。また過剰に他者評価にあわせようとするところに無理が生じる <b>【キーワード】</b> 他者の中の自分 自己形成、過剰適応、不快感 <b>【学習の課題】</b> 他者との関係の中で育っていく自分について理解する <b>【参考文献】</b> 柏木恵子、古澤頼雄、宮下孝広 発達心理学への招待 2005 ミネルヴァ書房 <b>【学習する上での留意点】</b> 児童、生徒同士、教師との直接触れ合いの中から育ちかつ傷つく自己について考える			
5～6.テーマ	自己開示について			
	<b>【学習の目標】</b> 自己開示の重要性とともに危険性について考える。 <b>【学習の内容】</b> 人間関係を作り維持するために傾聴とともに自己開示が重要である。適切な自己開示は他者との親密性をます。児童・生徒が学内でどのような自己開示を互いにしているかについて考えてみる。心理的に深い内面の自己表現について考える。 <b>【キーワード】</b> 自己開示。 誰にどんなことを。自己開示による傷つき。 <b>【学習の課題】</b> 児童・生徒の内面に深くたちいることになる。従って課題遂行が対象者の利益につながるような工夫が必要である。			

【参考文献】安藤清志（1994） <i>見せる自分／見せない自分：自己呈示の社会心理学</i> サイエンス社	
【学習する上での留意点】倫理上の配慮が必要である。	
7～8.テーマ	コミュニケーションの形成について
【学習の目標】コミュニケーションが成立するための必要条件について考える。	
【学習の内容】発信者、受信者の関係について考える。	
【学習の課題】双方向対話が成立するためにどのようなことが必要か考える。言葉のみでなく非言語によるコミュニケーションの重要性や自分の言ったことが正確に伝わっているかのモニタリングも重要である。	
【参考文献】Springer-Verlag. <i>Nonverbal behavior: A functional perspective</i> . New York : Springer-Verlag. 工藤 力 監訳 非言語コミュニケーションの基礎理論 誠信書房	
山本真理子・原奈津子（2006） <i>他者を知る—対人認知の心理学—</i> サイエンス社	
【学習する上での留意点】自分を理解してもらう方法、相手を理解する方法について考える。	
9～10.テーマ	他者を援助する
【学習の目標】援助行動の規定要因は何か。攻撃行動の規定要因とどのように違うか。	
【学習の内容】援助行動の規定要因と攻撃行動の規定要因の違いを考える。援助行動はどのように発達するかを考える。	
【キーワード】性格、認知、感情、状況	
【学習の課題】他者援助に向かう要因を検討し、そのような要因を育てる条件について考える。	
【参考文献】菊池章夫 <i>思いやりを科学する</i> 1988 川島書店 デイヴィス、M. H 菊池章夫訳 <i>共感の社会心理学</i> 1999 川島書店 Buss,A.H. <i>Social behavior and personality</i> 大淵憲一訳 <i>対人行動とパーソナリティ</i> 1986 北大路書房 原田純治 <i>援助行動と動機・性格との関連</i> <i>実験社会心理学研究</i> , 30,109-121 1990	
【学習する上での留意点】他者援助は攻撃と必ずしも反対の概念ではないことに注意する。	
11～12.テーマ	他者を攻撃する
【学習の目標】学校の中で攻撃性は大きな問題である。攻撃性は怒り、暴力に関係し、児童生徒、親、教師らの仲間、相互関係の中で発生し、大きな問題となる。なぜ他者を攻撃するか、を考えてみる。本能（フロイト）か、生得（ローレンツ）か、学習（バンデュラ）か。単純に2者択一で考えられるか。	
【学習の内容】攻撃はどのような事柄により規定されるか。性格、認知、感情、状況について考える	
【キーワード】攻撃と性格 攻撃と認知 攻撃と感情 攻撃と状況	
【学習の課題】攻撃の規定要因について考える	
【参考文献】大河原美以 <i>怒りをコントロールできない子の理解と援助教師と親のかかわり</i> 2004 金子書房 小林正幸・大熊雅士編 <i>現役教師が活用する仕事術—大学では学べない教師学</i> 2007 ぎょうせい	
【学習する上での留意点】人間関係の中で発生する攻撃の要因とそれを解決方法を学ぶ	
1 3 ～ 1 4	学校生活での S S T (Social Skills Training) セカンドステップの導入
【学習の目標】年齢に応じた S S T を学ぶ	
【学習の内容】人間関係の基本的なスキルを学ぶ。けんかの仲直り、遊びのルール、マナー、はじめての友達との付き合い方など具体的な人間関係のなかでどのような対応をしたらよいか考え、実際に行動してみる。	
【キーワード】自分を表現する、相手を理解する、人間関係の問題を理解する	
【学習の課題】特別な時間にスキルを訓練するばかりではなく、日常生活の中で常に意識してスキルを実行することが大事である。	
【参考文献】国分康孝監修、小林正幸・相川充編 <i>ソーシャルスキル教育で子どもが変わる</i> 1999 図書文化 小林正幸・宮前義和編 <i>子どもの対人スキルサポートガイド感情を豊かにする S S T</i> 2007 金剛出版 木村秀 <i>被虐待児への児童養護施設における環境療法</i> 2008 淑徳大学大学院研究科研究紀要 佐藤正二・佐藤容子編 <i>学校における - S S T - 実践ガイド</i>	
【学習する上での留意点】ひとりの子どもに焦点をあてながら学校全体の人間関係が向上するような取り組みが必要である。	
1 5 テーマ	問題に対処する S S T
【学習の目標】対人関係に苦手で問題をもつ人を中心に人間関係を円滑に保つためのスキルを学ぶ	
【学習の内容】ストレス耐性が弱い—対処技能を身につける	
【キーワード】人間関係を円滑に ウォーミングアップ ロールプレイ モデリング	
【学習の課題】対人関係に自信を持って生活できるようにスキルを学ぶ	
【参考文献】前田ケイ・安西信雄編 <i>本人・家族のための S S T実践ガイド</i> 2008 日本評論社 斉藤環 <i>社会的ひきこもり 終わらない思春期</i> 1998 P H P 研究所 田中千穂子 <i>引きこもり「対話する関係」をとり戻すために</i> 1996 サイエンス社 近藤直志・長谷川俊夫編 <i>引きこもりの理解と援助</i> 1999 萌文社	
【学習する上での留意点】人間関係を作れない児童・生徒に S S T の訓練をするのは難しいことである。注意深く実施すること	

1. 科目名 (単位数)	認知心理学特論 (2 単位)	伊勢崎	3. 科目番号	EDMP5341
2. 授業担当教員	原 千恵子			
4. 授業形態	講義と演習形式		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	認知心理学は、新たなパラダイムとして1970年代に普及した領域である。人の認知過程に焦点をあて基礎的研究をつみあげ実証的な効果をあげてきている。認知心理学で得られた知見は臨床心理学、教育や人の発達に関連し、その発展に寄与している。			
7. 講義概要	人間の認知機能、記憶、学習、問題解決、思考など基礎的な知識を先行研究から学び、現実的にそれらが日常生活の中で一般化できるか、つまりどのように日常生活に役立てられているか、また臨床教育や臨床心理学にあらたなパラダイムとして活用されているかについてまなぶ。			
8. 学習目標	認知心理学の基礎的な知識を学び、研究方法、基本概念を理解した上で臨床教育学、臨床心理学への応用がどのようなものであるかを実際に把握する。日常生活を認知心理学の視点で見直すことも目標とする。			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	テキストの内容をまとめ自分の考えを述べる。			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 守一雄『認知心理学』岩波書店。 小谷津 孝明 ほか編『臨床認知心理学』東京大学出版会。 箱田祐司『認知心理学』雄斐閣。</p> <p>【参考書】『講座・認知心理学全 5 巻』東京大学出版会。 D.C パーク・N. シュワルツ編『認知のエイジング 入門編』北大路出版。 森敏昭他編『グラフィック 認知心理学』サイエンス社。 高野陽太郎編『認知心理学 2 記憶』東京大学出版会、1995 年。 市川伸一編『現代の認知心理学 5 発達と学習』北大路書房。 市川伸一『考えることの科学』中公新書。 安西祐一郎『心と脳 認知科学入門』岩波書店。 森敏昭編『おもしろ記憶のラボラトリー』北大路書房。 坂野雄二『認知行動療法』日本評論社。 北西憲二『実践森田療法』健康ライブラリー。</p>			
11. 成績評価の方法	期末試験 40%、レポート、20% 日常の授業態度 40%			
12. 受講生へのメッセージ	認知心理学はあらたな心理学の方法です。自分の生活に生かしてみてください。			
13. オフィスアワー	授業のある時間の前後 2～3 時間			
14. 学習の展開及び内容【学習の目標、学習の課題等】				
1～3 テーマ	認知心理学の全容・歴史と方法			
【学習の目標】	認知心理学の全容を把握する。			
【学習の内容】	認知心理学で学ぶことを理解する。			
【学習の課題】	序論をまとめる。			
4～6. テーマ	記憶			
【学習の目標】	認知心理学が追求した記憶の研究を理解する。			
【学習の内容】	どんな研究法の変遷があったか。			
【学習の課題】	日常記憶への適用と発展を理解する。			
7～9. テーマ	発達と学習			
【学習の目標】	発達と学習における認知心理学の方法を理解する。			
【学習の内容】	発達や学習を理解し認知心理学を適応する意味について考える。			
【学習の課題】	発達や学習における認知心理学の実際を理解する。			
10～12. テーマ	認知心理学を基礎とした心理臨床 1			
【学習の目標】	認知行動療法を理解する。			
【学習の内容】	認知行動療法がなぜ効果があるか。			
【学習の課題】	認知行動療法を実践する。			
13～14. テーマ	認知心理学を基礎とした心理臨床 2			
【学習の目標】	森田療法のなかでどのように認知療法が適用されているかを理解する。			
【学習の内容】	森田療法がなぜ効果があるか。			
【学習の課題】	森田療法を実践する。			
15. テーマ	まとめと展望			
認知心理学でなにを学び、なにがかわったか、さらになにを学んでいくかをまとめる。				

1. 科目名 (単位数)	臨床発達支援特論 (2 単位)	伊勢崎・名古屋	3. 科目番号	EDMP5324
2. 授業担当教員	【伊勢崎】下出 美智子 【名古屋】石崎 達也			
4. 授業形態	講義および演習		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	秋期開講科目「臨床発達支援演習」の履修を希望する場合は履修することが望ましい。			
7. 講義概要	<p>少子高齢化、核家族化、グローバル化等、私たちは社会情勢や生活環境が急速に変化する時代を生活している。こうした時代の変化は、養育・保育・教育場面はもちろん、人々の「発達」に関する考え方にも大きな影響を与えている。</p> <p>本講義では、「発達とはどのような現象であるのか」、「人は一生涯を通してどのような発達を遂げていくのか」という普遍的な課題に取り組むとともに、人間の発達に関する理解と支援の諸課題を、①生物・心理・社会的視点、②過去・現在・未来の連続的な時間軸上を生きる存在であるという視点、③障害やつまずきが内在された存在としてとらえる視点の3つの視点から見つめ直すことを通して、「発達」についての理解を深め、教育臨床場面における発達支援のあり方について受講生とともに議論をする。また、「発達支援」や「特別支援教育」に関連する文献のクリティカル・リーディングを行う。</p>			
8. 学習目標	<p>1 胎児期～成人期の発達過程で起こる様々な発達上の課題について、生物・心理・社会的視点を含めて説明することができる。</p> <p>2 「発達支援」と「特別支援教育」に関連する多くの先行研究をレビューし、研究上の問題を指摘することができる。</p> <p>3 臨床発達に関する理論をもとに、養育・保育・教育場面に関心を持ち、具体的な支援策について計画を立案できる。</p>			
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「発達」に関連する文献をレビューして発表すること。</li> <li>・文献リストを作成し、レビューした論文の関心のある箇所を 200 字程度で要約しておくこと。</li> </ul>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 特になし *資料は適宜、配布する。資料を整理するファイル等を用意すること。</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南風原朝和編『心理学研究法入門-調査・実験から実践まで』(東京大学出版会、2001 年)</li> <li>・岡本祐子編『エピソードでつかむ生涯発達心理学』(ミネルヴァ書房、2013 年)</li> <li>・守屋國光編著『特別支援教育総論：歴史、心理・生理・病理、教育課程・指導法、検査法』(風間書房、2015 年)</li> <li>・守屋國光編著『生涯発達論-人間発達の理念と概念』(風間書房、2005 年)</li> <li>・守屋國光編著『発達教育論-自我発達と教育的支援』(風間書房、2004 年)</li> <li>・下出美智子『知的障害のある青年達の音楽行為』(風間書房、2011 年)</li> <li>・藤田治彦『芸術と福祉-アーティストとしての人間』(大阪大学出版社、2009 年)</li> </ul>			
11. 成績評価の方法	<p>1 成績評価は①課題報告(40%)、②テーマごとのレポート課題(30%)、③期末レポート課題(30%)により行う。</p> <p>2 院生としての基準に満たないレポートは、基準を満たすまで書き直しを求められる。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>大学院では「先行研究の読解力」「論理的思考力」「学術的文章の作成力」を鍛えることが求められています。自らの研究論文作成に向け、講義に受け身の姿勢で臨むのではなく、自ら進んで文献・資料収集、調査研究を行うなど、試行錯誤しながら学びを深めて行ってください。</p>			
13. オフィスアワー	事前にメール等でアポイントをとってください。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1～3. テーマ	「発達」に関する理論的・実践的研究の理解			
	<p>【学習の目標】 発達心理学、生涯発達心理学に関する理解を深め、発達それぞれの時期における発達支援の専門性を高める。</p> <p>【学習の内容】 情動・自己・愛着 (アタッチメント)・コミュニケーション</p> <p>【キーワード】 生涯発達・生物学的要因・環境的要因・個人差・ライフサイクル・発達課題・</p> <p>【学習の課題】 遺伝と環境の相互作用に関する研究をまとめて概要を説明すること。</p> <p>【参考文献】 『エピソードでつかむ生涯発達心理学』『生涯発達論-人間発達の理念と概念』</p> <p>【学習する上での留意点】 発達心理学の基礎について、他の授業での学習を確かなものにしておくこと。</p>			
4～6. テーマ	「発達支援」に関する研究法、指導法及び心理検査や調査法についての理解			
	<p>【学習の目標】 心理学的研究法の倫理、関連する心理検査や発達評価の概要を知る。</p> <p>【学習の内容】 心理学的研究を行う際の倫理、発達評価の種類や操作法などについて、演習を通して学ぶ。</p> <p>【キーワード】 質的研究・量的研究・知能検査・発達検査・心理検査・心理統計</p> <p>【学習の課題】 各自、市販の検査法から1つを選択し、授業で概要を説明すること。</p> <p>【参考文献】 『心理学研究法入門』、その他、各種検査法マニュアル</p> <p>【学習する上での留意点】 心理統計の基礎について、他の授業での学習を確かなものにしておくこと。</p>			
7～11. テーマ	「特別支援教育」に関する理論的・実践的研究の理解			
	<p>【学習の目標】 現代の子育ての課題や障害者の置かれた状況を理解しつつ、実態把握から個別の指導計画の作成、指導案立案、サブ教師との連携、教材・教具の工夫など、学校における実践の枠組みや専門的支援方法について知る。</p> <p>【学習の内容】 知的障害・肢体不自由・自閉症スペクトラム・学習障害・注意欠陥多動性障害・発達性協調運動障害等・特別支援学校における各種計画、実態把握の方法、指導案の書き方等について学ぶ。</p> <p>【キーワード】 児童精神医学・発達障害者支援法・診断基準・インクルーシブ教育・個別の指導計画/指導案・SST・</p>			



	<p>認知行動療法</p> <p>【学習の課題】 各自、指定された障害について事前に調べ、授業で概要を説明すること。各自治体で公表している個別の指導計画あるいは支援計画の書式をダウンロードしておくこと。</p> <p>【参考文献】 守屋國光編著『特別支援教育総論：歴史、心理・生理・病理、教育課程・指導法、検査法』、文部科学省「学校基本調査」、「特別支援学校 学習指導要領」</p> <p>【学習する上での留意点】 特別支援教育に関連する文献や専門書にはできるだけ多く目を通すこと。</p>
12～14.テーマ	「発達支援」に関する文献研究の方法論
	<p>【学習の目標】 「発達支援」に関連する学術論文を検索し、要約して他者に伝えることができる。</p> <p>【学習の内容】 全国誌および国際誌を中心に関連領域の論文を、キーワードを使って検索し、それらを講読する。</p> <p>【キーワード】 文献データベース・教育研究エビデンス</p> <p>【学習の課題】 ①発達支援に関連のある研究論文をレビューし、授業で紹介する。 ②提示された英文の研究論文を翻訳し、概要を授業で紹介する。</p> <p>【参考文献】 発達障害教育情報センター（国立特別支援教育総合研究所）、 発達障害情報・支援センター（国立障害者リハビリテーションセンター）、 国立国会図書館サーチ・CiNii Articles（国立情報学研究所） 日本発達障害学会 発達障害研究（学会誌） Journal of Autism and Developmental Disorder, 『知的生涯のある青年達の音楽行為』、『芸術と福祉—アーティストとしての人間』等を利用すること。</p> <p>【学習する上での留意点】 文献データベースで自分が調べたい論文を抽出することに熟達しておくこと。</p>
15. テーマ	まとめとふりかえり
	<p>【学習の目標】 本講義のまとめとふりかえりを行う。</p> <p>【学習の内容】 前半で本講義のまとめを行ない、後半で受講生各自の視点から振り返りを行う。</p> <p>【キーワード】 企画力・論理構成及び展開力・コミュニケーション力</p> <p>【学習の課題】 本講義の成果を報告すること。</p> <p>【学習する上での留意点】 資料等を作成した上で、指定された時間内に自らの研究成果を報告すること。</p>

1. 科目名 (単位数)	臨床発達支援演習 (2 単位)	伊勢崎・名古屋	3. 科目番号	EDMP5325
2. 授業担当教員	【伊勢崎】下出 美智子 【名古屋】石崎 達也			
4. 授業形態	演習・フィールドワーク・ケーススタディ		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	臨床発達支援特論を受講していることが望ましい。			
7. 講義概要	近代科学に基づいた研究には、対象を認識するために、分類・分析・分断するなど、対象を切り分ける作業が不可欠であったが、今日の「発達支援」に関する研究では、子どもの生き生きとしたあり方に働きかけつつ、ともに育み合いながら知る認識の仕方が求められている。その研究方法とは、人と人をつなげる、重ね合わせる、物語るなど、関係性や文脈性を重視する方法である。本演習では、まず、「発達支援」に関する様々な研究方法を比較検討することを通して、その課題と可能性について議論する。次に、療育・保育・教育領域の支援者のあり方に関する先行研究をもとに、子どもと支援者の関係性に着目し、支援者の能力・資質及び態度についての理解を深める。「発達支援」とは、子どもの側からは順調な育ちを促進するもの、支援者の側からは先行研究から学び、既存の理論や理論を応用して、子どもが抱える様々な課題に対応していく過程と言える。個々の子どもが抱えている課題は様々であるため、支援の過程では、支援者は、クライアント（子ども・家族）から学ぶ姿勢が問われることとなる。そこで、援助を深める事例研究の方法を学ぶ。最終段階として、受講生各自が療育・保育・教育現場を研究する方法論を身につけることを目指す。			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「発達支援」に関する様々な研究方法を比較検討し、それぞれの長所・短所を説明することができる。</li> <li>療育・保育・教育領域の「支援者」の能力・資質及び態度について理解し、クライアントから学ぶことの重要性について説明することができる。</li> <li>療育・保育・教育現場に赴き、事例研究を行うことができる。</li> <li>「発達支援」に関する学習指導要領や教科書(自国)を資料として、自分の興味・関心に基づいて視点を定め、分析・考察することができる。</li> </ol>			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマごとに小レポートを作成すること。</li> <li>・本演習では受講者各自が事例を提供することが求められるため、さまざまな療育・保育・教育機関に自主的に足を運ぶこと。(例) 特別支援学校の学校公開、学校行事に参加するなど</li> </ul>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>資料は適宜、配布する。資料を整理するファイル等を用意すること。</p> <p>【参考書】</p> <p>下出美智子『知的障害のある青年達の音楽行為』風間書房、2011年。</p> <p>佐藤慶子『五感の音楽一音のない音楽への扉』ヤマハ、2002年</p> <p>木下康仁『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践一質的研究への誘い』弘文堂、2003年。</p> <p>鯨岡峻『エピソード記述入門一実践と質的研究のために』東京大学出版会、2005年。</p> <p>Lyn Richards・小林奈美監訳『はじめて学ぶ質的研究』医歯薬出版株式会社、2008年。</p>			
11. 成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>成績評価は①課題報告(40%)、②テーマごとのレポート課題(30%)、③期末レポート課題(30%)の成果によって決められる。</li> <li>院生としての基準に満たないレポートは、基準を満たすまで書き直しが求められる。</li> </ol>			
12. 受講生へのメッセージ	「発達支援」に関する研究は、体験に支えられて意義のあるものになります。療育・保育・教育の現場に赴き、子どもと接する活動を積極的に行ってください。			
13. オフィスアワー	<p>下出美智子：事前にアポイントをとってください E-mail:mishimod@ed.tokyo-fukushi.ac.jp</p> <p>石崎達也：事前にアポイントをとってください E-mail:taishiza@ed.tokyo-fukushi.ac.jp</p>			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1～3. テーマ	「発達支援」に関する研究方法の理解と見学・調査の準備			
【学習の目標】	「発達支援」に関する研究方法の長所・短所を理解する。			
【学習の内容】	「発達支援」に関する様々な研究方法を比較検討することを通して、その課題と可能性について議論する。			
【キーワード】	研究倫理・質的研究・量的研究・妥当性・信頼性			
【学習の課題】	見学・調査を依頼する際の倫理、依頼の仕方の基本をふまえた上で、見学・調査に向けた計画書を作成すること。			
【参考文献】	『はじめて学ぶ質的研究』			
【学習する上での留意点】	各自で見学・調査に向けた準備を進めておくこと。			
4～8. テーマ	質的研究法を用いた事例研究(ケーススタディ)の準備 - 療育・保育・教育の現場とかわる			
【学習の目標】	フィールドワークの技法・作法を学んだ上で、現場に赴き、事例研究に向けたデータを収集する。			
【学習の内容】	実際の活動場面の VTR を視聴することで「観察記録」の書き方を学んだ上で、実際の療育・保育・教育の現場に赴き、活動し、観察記録を作成する。			
【キーワード】	参与観察・質問紙調査・インタビュー調査・VTR 撮影			
【学習の課題】	さまざまな現場・活動場面の違いと共通点に気をつけながら、視聴、見学、調査を行う。			
【参考文献】	『はじめて学ぶ質的研究』、『エピソード記述入門 一実践と質的研究のために』、『知的障害のある青年達の音楽行為』			
【学習する上での留意点】	「観察記録」を記述する際には、「GTA」や「エピソード記述」等を参考にすること。			
9～13. テーマ	事例の報告・検討と事例研究(ケーススタディ)			
【学習の目標】	受講者各自が事例報告を行い、その事例について検討した上で、それぞれの事例から援助を深める方法について学ぶこと。			
【学習の内容】	各自が 20 分程度の事例報告を行った上で、そのテーマに関するグループディスカッションを行う。			
【キーワード】	現象学的理解・主観的理解・間主観的理解・客観的理解			
【学習の課題】	一つ一つの事例に対する自らの気づきや発見をレポートにまとめること。			

【参考文献】	『はじめて学ぶ質的研究』
【学習する上での留意点】	事例報告者は、報告の仕方を十分に工夫すること。一方、参加者は、積極的に質問を投げかけること。
14~15. テーマ	まとめとふりかえり
【学習の目標】	本演習のまとめとふりかえりを行う。
【学習の内容】	前半で本演習のまとめを行ない、後半で受講生各自の視点からふりかえりを行う。
【キーワード】	企画力・論理構成及び展開力・コミュニケーション力
【学習の課題】	本演習の成果を報告すること。
【学習する上での留意点】	各自、パワーポイント資料等を作成した上で、指定された時間内に本演習での成果を報告すること。